隻狼
SEKIRO
SHADOWS DIE TWICE
Official Artworks

「隻腕の狼、戦国に忍ぶ」

https://vk.com/artbooklibrary

SEKIRO
SHADOWS DIE TWICE
Official Artworks

目録

一〇 葦名 国盗りの血戦
一二 敗走する兵
一四 田村主膳 対 葦名一心
一七 狼
一八 忍びの掟
二〇 葦名城 水手曲輪
◆花菖蒲の文
二二 井戸底
二三 抜け穴
二四 天守 外観
二五 月見楼
◆月見楼 外観
二六 月見楼 内観
二八 ◆月見楼 衝立
三〇 すすき野
三二 葦名城 城下
三四 荒れ寺
三六 死なずの修練
荒れ寺 内観
忍びの抜け道
◆鬼仏
三七 ◆厨子
◆御札
◆若様の守り鈴
三八 崖道
◆御神木
三九 鳥の友たる供養衆
四〇 城下の狼煙場
四一 櫓門 内部
四二 虎口
四四 御堂
四五 首塚
四六 白蛇の輿
戦場跡
四七 ◆井楼櫓
四八 大手門
◆本丸門前火牛広場
四九 戦場の供養衆
◆櫓門
五〇 ◆三重櫓
五二 ◆物見櫓
◆石落とし
葦名城 本城
天守閣屋根上

五四 茶室
書物部屋
五五 ◆竜泉川図屏風
五六 天守回廊
五七 ◆格天井画
◆謁見の間 掛け軸
五八 謁見の間
◆曲輪図
五九 ◆宝櫃
◆襖絵
六〇 葦名流 伝場
◆葦名流伝場 屏風絵
六一 ◆古戦の掛け軸
六二 葦名城 天守望楼
◆障壁画
六四 御子の間
六五 一心の離れ
◆祠
◆香炉
六六 天守入り口
天守吹き抜け
六七 ◆具足
◆襖の引手
◆鹿角
六八 丈と巴の墓
七〇 白蛇の社 拝殿外観
七一 白蛇の社 本殿内観
七二 竜泉川端 平田屋敷
七四 霊園の守り人の家
庭園
七五 ◆番所
七六 裏書院 内部
竹林坂前広場
七七 ◆洞窟の壁
七八 奉公人の家
竹林坂
七九 ◆鯱飾りの祠
◆亀の飾り金具
◆火除け飾り
八〇 主殿
八二 主殿 炎上する庭
八四 隠し仏殿
八五 ◆大仏
八六 捨て牢

八八 茶室
書物部屋
八九 ◆竜泉川図屏風
九〇 天守回廊
◆格天井画
九一 ◆謁見の間 掛け軸
九二 曲輪図
九三 ◆宝櫃
◆襖絵
九四 葦名流 伝場
九六 ◆葦名流伝場 屏風絵
九七 ◆古戦の掛け軸
九八 葦名城 天守望楼
◆障壁画
一〇〇 御子の間
一〇二 一心の離れ
◆祠
◆香炉
一〇三 天守入り口
天守吹き抜け
◆具足
◆襖の引手
◆鹿角
一〇四 丈と巴の墓
一〇五 白蛇の社 拝殿外観
一〇六 白蛇の社 本殿内観
竜泉川端 平田屋敷
霊園の守り人の家
庭園
一〇八 ◆番所
一〇九 裏書院 内部
竹林坂前広場
一一〇 ◆洞窟の壁
一一二 奉公人の家
竹林坂
一一三 ◆鯱飾りの祠
一一四 ◆亀の飾り金具
◆火除け飾り
一一五 主殿
主殿 炎上する庭
隠し仏殿
一一六 ◆大仏
一一八 捨て牢

一二〇 地下通路
一二二 捨てられの供養衆
◆鉤掛かり
一二三 ◆足場
一二四 道順の施術場
地下牢通路
一二六 ◆施術体
一二八 身投げ場
昇降機
一二九 ◆水牢
一三〇 金剛山 仙峯寺
◆菩薩掛け軸
一三一 境内
一三二 庫裏
一三三 仁王門
一三四 大山門
一三五 大山門 内観
僧堂 内部
仏代わりの供養衆
子守り地蔵と風車
◆燭台
一三六 ◆忍び凧
◆凧揚げ機
通天橋
池
一三八 滝
本堂からの遠景
本堂 外観
一三九 法堂
法堂 内観
一四〇 曼荼羅
◆菩薩像
◆飾り金具
◆大護摩壇
一四一 本堂 内観
一四二 幻廊
◆幻廊の鈴
一四四 灯り堂
一四六 奈落堂
一四七 轟き堂
泥々堂
一四八 奥の院 外観
◆猿屏風
奥の院 内観

一五〇 ◆天女掛け軸
一五二 ◆五重塔
一五三 五重塔 内観
鐘楼
一五四 胎内くぐり羅漢像
一五六 落ち谷
一五八 鉄砲砦 遠景
鉄砲砦の岩山
一五九 吊橋
◆社の蛇菩薩
一六〇 鉄砲砦 外観
鉄砲砦の社 内観
一六一 割れ目の岩窟
一六二 ぬしの白蛇
巣穴の社
蛇の巣穴
一六三 菩薩谷
一六四 ◆慈母菩薩像
一六五 ◆菩薩 立像
◆菩薩 坐像
一六六 馨し水蓮
一六七 獅子猿の水場
一六八 葦名の底
一六九 毒溜まり
◆菩薩像
一七〇 毒溜まりの供養衆
一七二 獅子猿のねぐら
一七三 水生村
一七四 廃寺
◆廃寺の仏像
一七六 水生村集落
一七七 酒びたりの供養衆
村衆の住居 内観
機織家
一七八 血染め布干し
川底
◆石碑
一七九 ◆五輪塔
◆石灯篭
一八〇 ◆地蔵
神主の家
神主の家 内観
屋根裏
◆お供え物

一八一 土葬の卒塔婆
一八二 輿入れの岩戸
◆蛸桜
一八三 お宿り石
一八四 輿入れの洞窟
一八六 源の宮
異郷へ
◆紅葉の木
一八七 朱の橋
一八八 源の宮 景観
一九〇 源の宮 居住区 内観／外観
大内裏への太鼓橋
祠前
◆太鼓橋
一九二 ◆飾り彫刻
◆飾り瓦
一九四 ◆牛車
一九六 御屋敷
御屋敷 内観
一九八 ◆旗
◆大極殿
二〇〇 大桜
二〇一 餌やり場
二〇二 ◆呼鐘
二〇四 水中
二〇五 水中洞窟
二〇六 水没した宮殿
二〇七 水底
生贄喰らいの儀
二〇八 ◆翁竜図屏風
◆格天井画
二〇九 ◆桜竜図屏風
◆宮の宝櫃
二一〇 宮の内裏 謁見の間
二一二 宮の内裏 寝所
二一三 神域
二一四 岩社
二一五 磐座
仙郷
二一六 内府軍 襲来
炎上する葦名城
二一八 内府方の陣
城下外郭 虎口階段
怨嗟の鬼

イメージボード

戦国の世、血で血を洗う時代の空気。焼ける空、煙る夕闇、
画稿の数々が、人外魔境の地にいたるまでを現出せしめる。

二　登場人物／忍具　画稿

狼と御子、彼らの物語に登場する人々、あるいは怪異の者。
開発初期稿も交えて、設定用のデザインスケッチを多数収める。

二〇四　葦名一心
二〇五　田村主膳
二〇六　葦名雑兵
　　田村の雑兵
二〇七　梟と狼（幼少期）
二〇八　狼
二一一　狼◆初期稿
二一二　仏師
二一三　死なず半兵衛
二一四　御子九郎
二一六　御子九郎◆初期稿
二一八　薬師エマ
二一九　薬師エマ◆初期稿
二二〇　変若の御子
二二二　変若の御子◆初期稿
二二三　隠野陣左衛門
　　信心深き者
　　供養衆
　　情報屋の藤岡
二二三　物売りの穴山
　　野上のおばば
二二四　野上伊之助
　　黒笠のムジナ
　　道順
　　水生の神主
二二五　宮の老婆（妹）
　　宮の老婆（姉）
　　修羅語り
　　巫女
二二六　葦名弦一郎
二二八　葦名弦一郎◆初期稿
二三〇　巴流　葦名弦二郎
二三二　鬼庭形部雅孝
二三四　まぼろしお蝶
二三五　まぼろしお蝶◆初期稿
二三六　獅子猿
二三八　ぬしの色鯉
二四〇　破戒僧
二四二　白木の翁
二四三　桜竜
二四六　大忍び梟
二四八　大忍び梟◆初期稿
二四九　剣聖葦名一心◆初期稿
二五〇　剣聖葦名一心
二五二　葦名一心
二五四　怨嗟の鬼
二五六　葦名兵
二五七　侍大将
　　葦名七本槍
二五八　長手の百足
　　忍び狩り
二五九　槍術師
　　うわばみの重蔵
二六〇　侍女の老婆
　　七面武者
二六一　見張り番
　　甲冑武者
二六二　岩もぐり
　　太郎兵
二六三　落ち谷衆
　　らっぱ
二六四　輿入れのお迎え
二六五　求道者
　　蟲憑きの求道者
二六六　見え猿、見る猿、言う猿、聞く猿
　　首無し
二六七　宮の貴族
　　淤加美の武者
二六八　火牛
　　寄鷹衆
二六九　孤影衆
　　忍犬
二七〇　水生の村衆
　　施術体
二七一　水生のお凛
二七二　剣客
二七三　野盗
　　赤鬼
二七四　赤備え（二刀・焼夷弾）
　　赤備え（小太刀・二刀）
二七五　赤備えの重吉
二七六　忍義手
二七七　義手忍具・手裏剣
二七八　義手忍具・爆竹
　　義手忍具・仕込み斧
二七九　義手忍具・火吹き筒
二八〇　義手忍具・仕込み傘
二八一　義手忍具・神隠し
　　義手忍具・錆び丸
二八二　義手忍具・仕込み槍
二八三　義手忍具・指笛
　　義手忍具・霧がらす
二八四　開発初期イメージ

三　アイテム&関連情報

『SEKIRO』武技、体術などを象る武器、忍具をはじめ作中の書々の世界を整理。個々の詳細なるフレーバーテキストと共に。

二八六　刀
　　忍義手と義手忍具
二八八　義手忍具強化
二八九　成長アイテム／使用アイテム
二九二　手紙・書
二九三　貴重品
二九五　咳の音
二九六　流派技
二九八　忍びの体術
二九九　常在効果
三〇〇　戦いの記憶
三〇一　トロフィー・実績
三〇二　紋
三〇四　葦名國絵図

本書は平成三十一年（令和元年）三月二十二日に発売されたアクションアドベンチャーゲーム『SEKIRO：SHADOWS DIE TWICE』（以下『SEKIRO』）。開発・販売フロム・ソフトウェア、アクティビジョン）のアートワークス――美術設定素材を集積した画稿集である。『SEKIRO』の物語を追うイメージボード群、キャラクターデザイン、数々のオブジェクトのコンセプトデザインなど、世界が注目する設定素材の数々を一挙掲載した。画稿の選定とレイアウトにおいては、フロム・ソフトウェアの全面的な監修の下、作品世界の粋を掲出できるよう務めた。

血なまぐさい枯れた戦場と、日本古来の色鮮やかさが混在する『SEKIRO』独特の戦国時代。その深度と幻想の狭間に思いを馳せる一冊を、お楽しみいただきたい。

文責：木原大輔（電撃ゲーム書籍編集部）

イメージボード

SEKIRO
SHADOWS DIE TWICE
Official Artworks

時は戦国。
雪深い峠を越えた先に、葦名の国はある。
「剣聖」葦名一心が、わずか一代で国盗りをして興した、
北国の雄である。
だが、その葦名は存亡の危機にあった。

一心の孫である葦名の将は、窮状を憂い、
自らの手勢に密かに告げた。

「もはや、寄せ手から葦名を守るための、
「今こそ、あの御子が必要だ」
尋常の術は無い」

かくて御子は、囚われとなる。

御子というが、その身は天涯孤独、

家族も家臣も、なにもない。

ただ一人の忍びを除いては・・・。

これは寄る辺なき、孤独な主従の物語である。

https://vk.com/artbooklibrary

葦名 國盗りの血戦

時は戦国末期
日本すべてを焼いた
戦火はいまだに勢い衰えず、
山深い葦名の国にも燃え広がっていた。

敗走する兵

https://vk.com/artbooklibrary

田村主膳 対 葦名一心

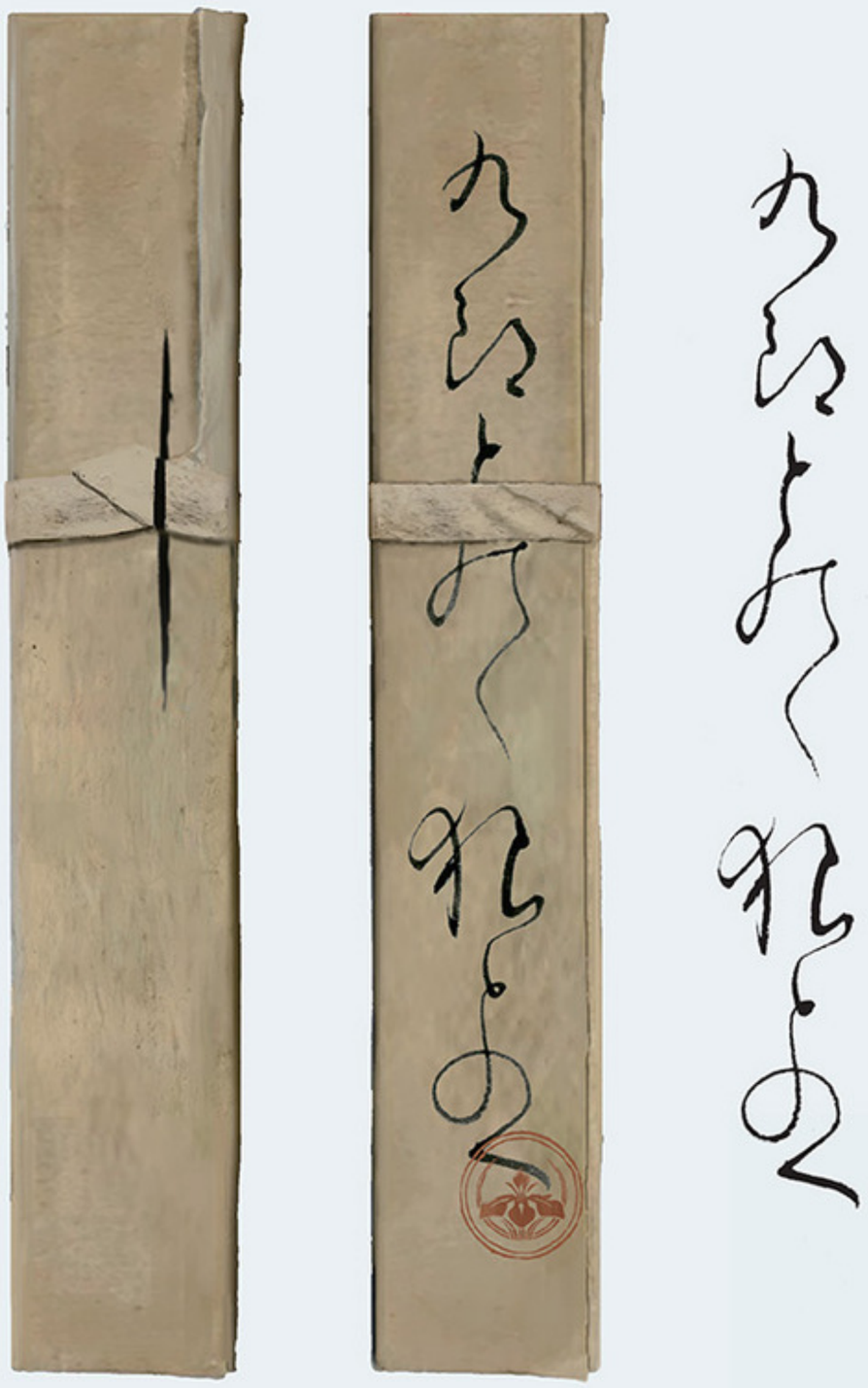
剣聖、葦名一心
国盗りの血戦であった。

狼

そして、戦場で拾われた狼は
修行の末、熟達の忍びとなった。

忍びの掟

葦名城水手曲輪

一心の国盗りから二十余年
芦名の国は斜陽にあり
狼の忍びは、すべてを失っていた
育ての義父も、守るべき主も…

花菖蒲の文

井戸底

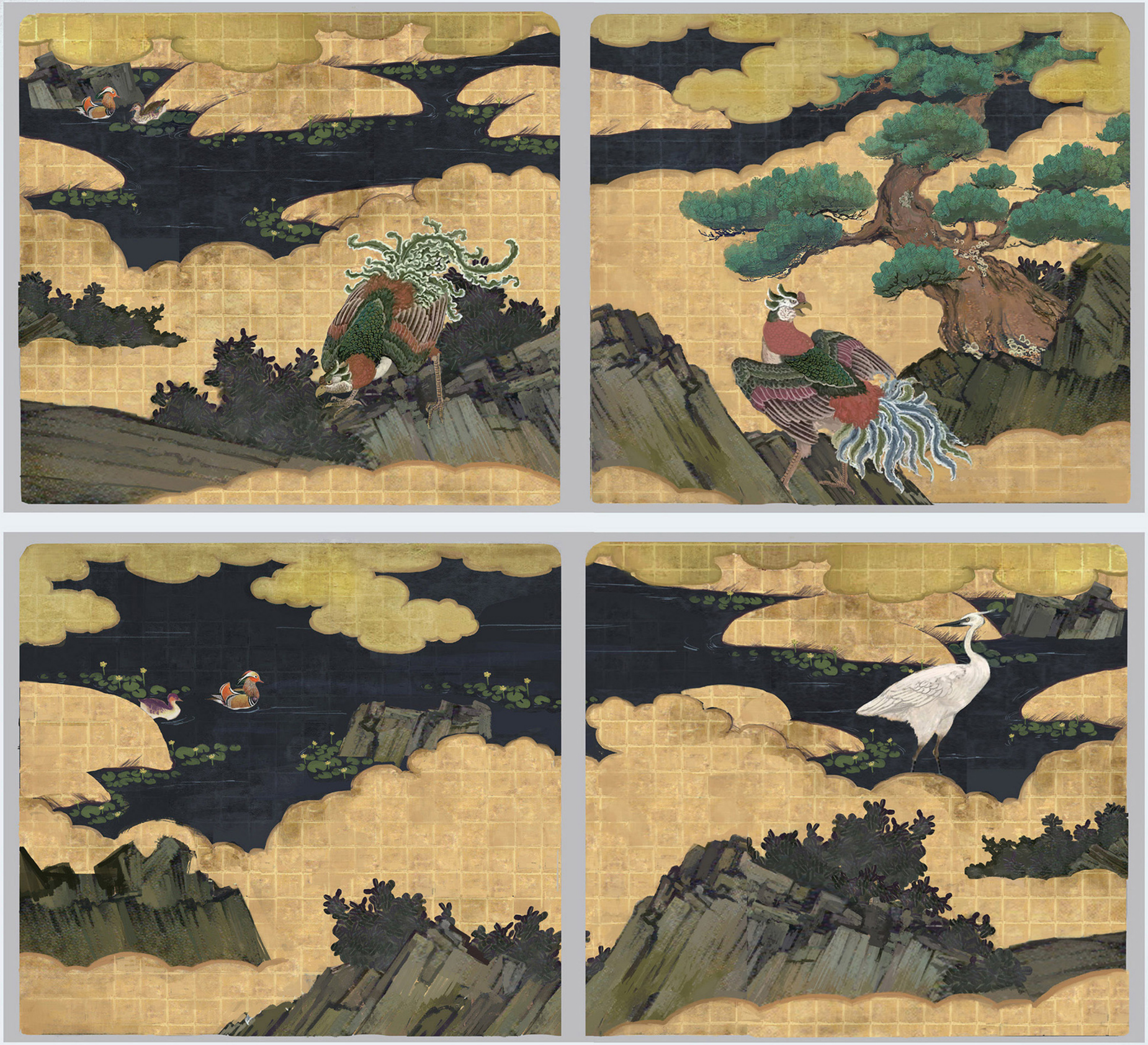
https://vk.com/artbooklibrary

抜け穴

月見楼

月見楼 外観

月見楼内観



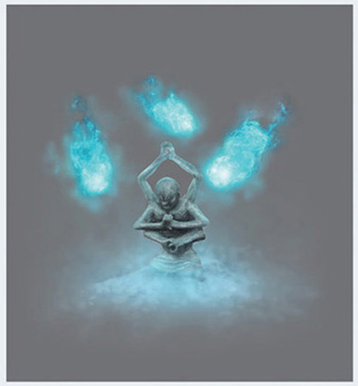
月見櫓 衝立

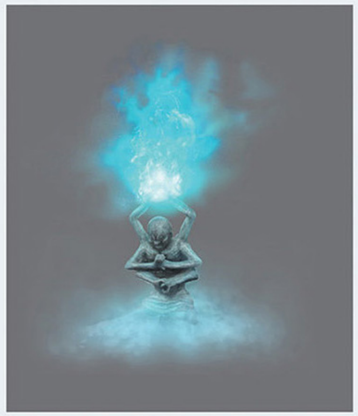
葦名城 城下

荒れ寺

死なずの修練

荒れ寺内観





鬼仏

厨子

若様の守り鈴

御札

忍びの抜け道

崖道

御神木

烏の友たる供養衆

城下の狼煙場

櫓門内部

有死之榮
無生之辱

御堂

首塚

井楼櫓

戦場跡

白蛇の輿

本丸門前火牛広場

櫓門

三重櫓

物見櫓

石落とし

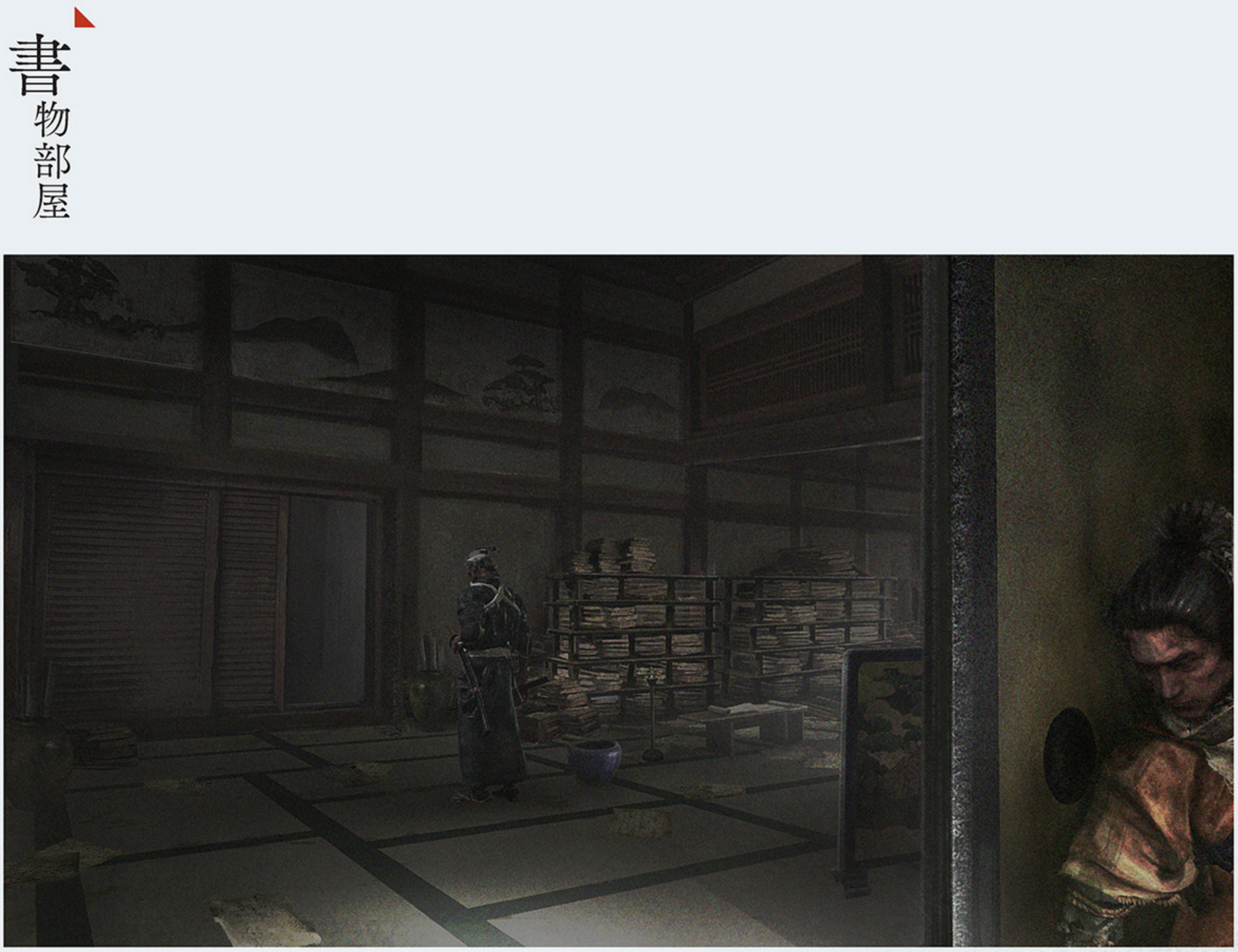
戦場の供養

葦名城 本城

https://vk.com/artbooklibrary

天守閣屋根上

茶室



書物部屋

竜泉川図屏風

天守回廊

渦見の間 掛け軸

格天井画

謁見の間

宝櫃

襖絵

曲輪図

葦名流伝場

古戦の掛け軸

葦名流伝場 屏風絵

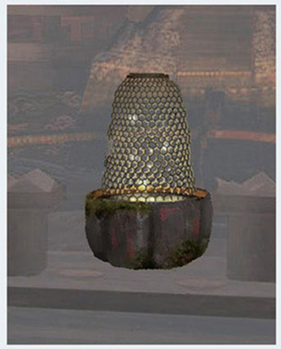
葦 名城 天守望楼

障壁画

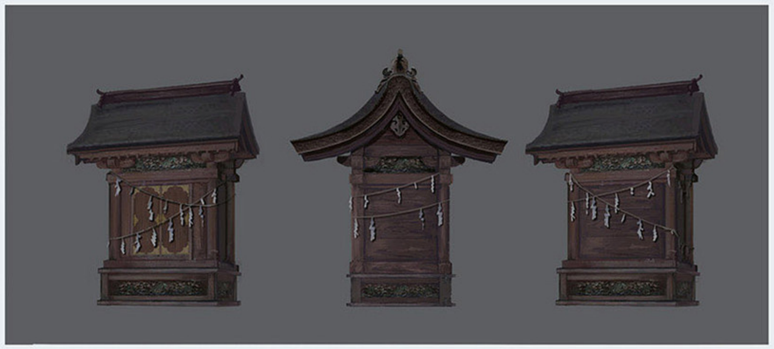
一心の離れ

御子の間

香炉



祠



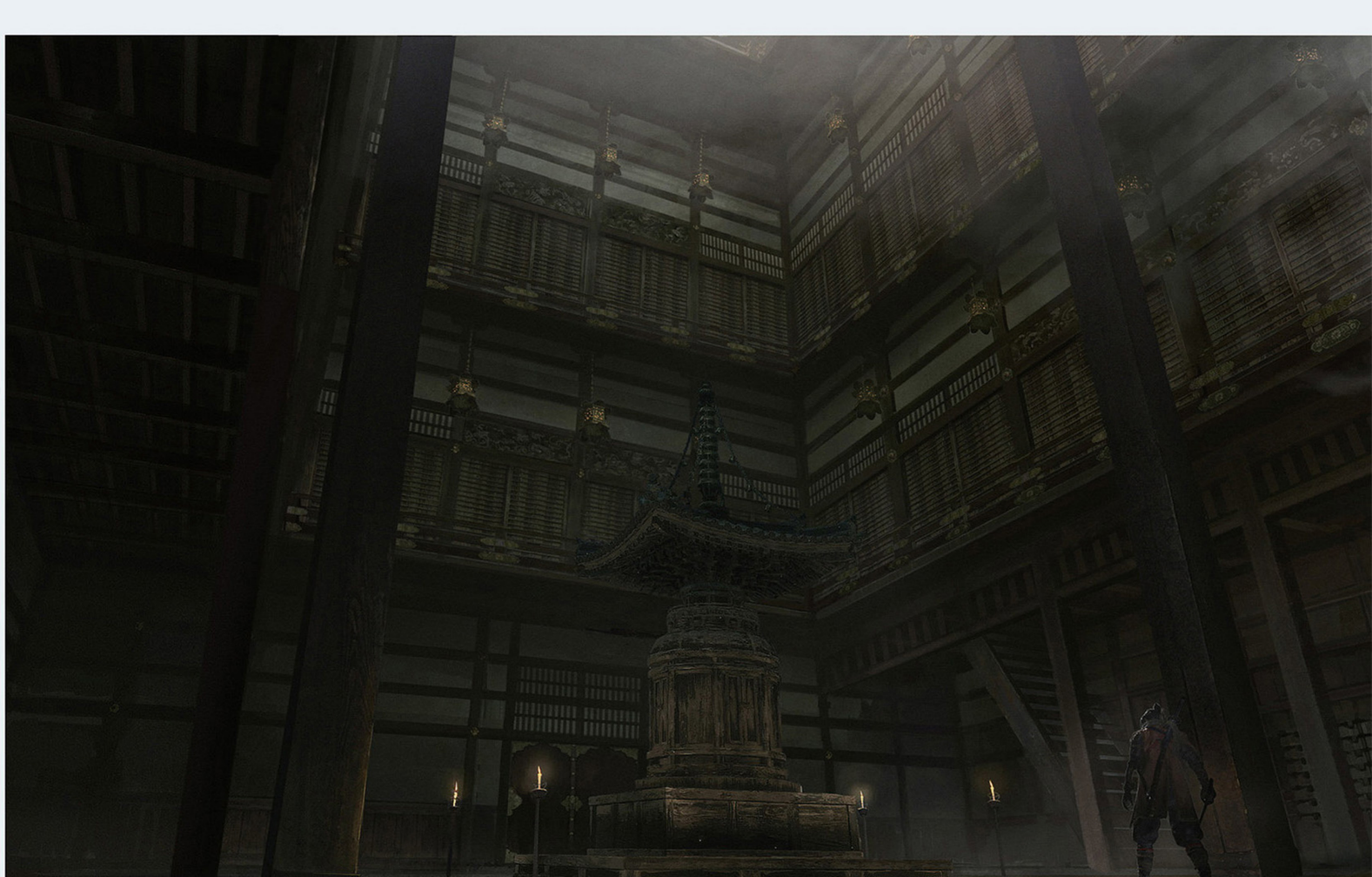
具足

襖の引手

鹿角

天守入り口

天守吹き抜け



丈と巴の墓

白蛇の社 拝殿外観

白蛇の社 本殿内観

竜泉川端 平田屋敷

十一番所

霊園の守り人の家

庭園

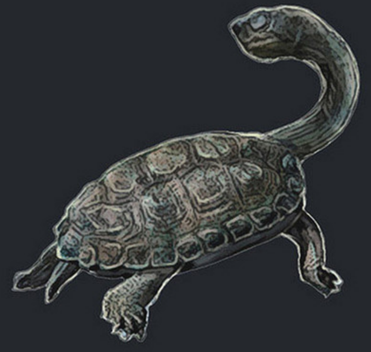
裏 書院 内部

竹 林坂前広場

洞窟の壁

鍍飾りの祠

奉公人の家



亀の飾り金具

火除け飾り

竹林坂

主殿

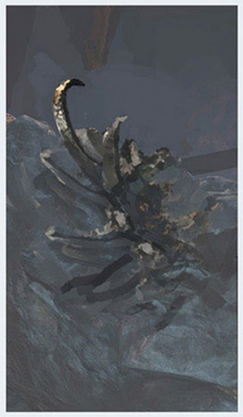
主殿 炎上する庭

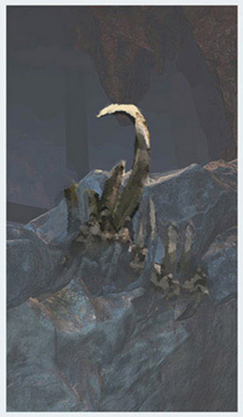
大仏

捨て牢

地下通路

鉤掛かり



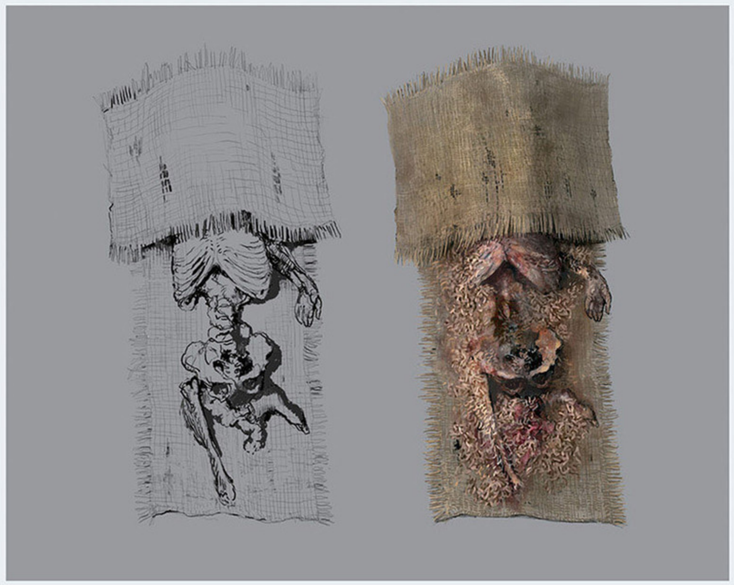


足場

捨てられの供養衆

道順の施術場

施術体



地下牢通路

身投げ場

水牢

昇降機

金剛山 仙峯寺

境内

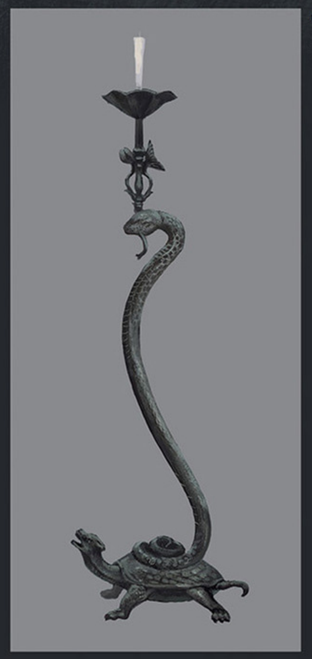
庫裏

大山門

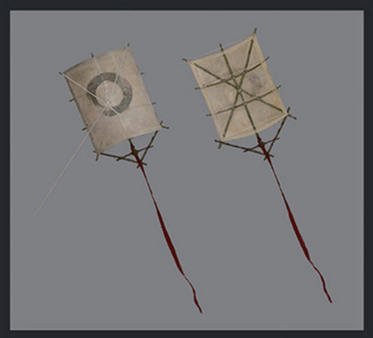
仁王門

僧堂内部

燭台



忍び凧



凧揚げ機

子守り地蔵と風車

仏代わりの供養衆

通天橋

池

https://vk.com/artbooklibrary

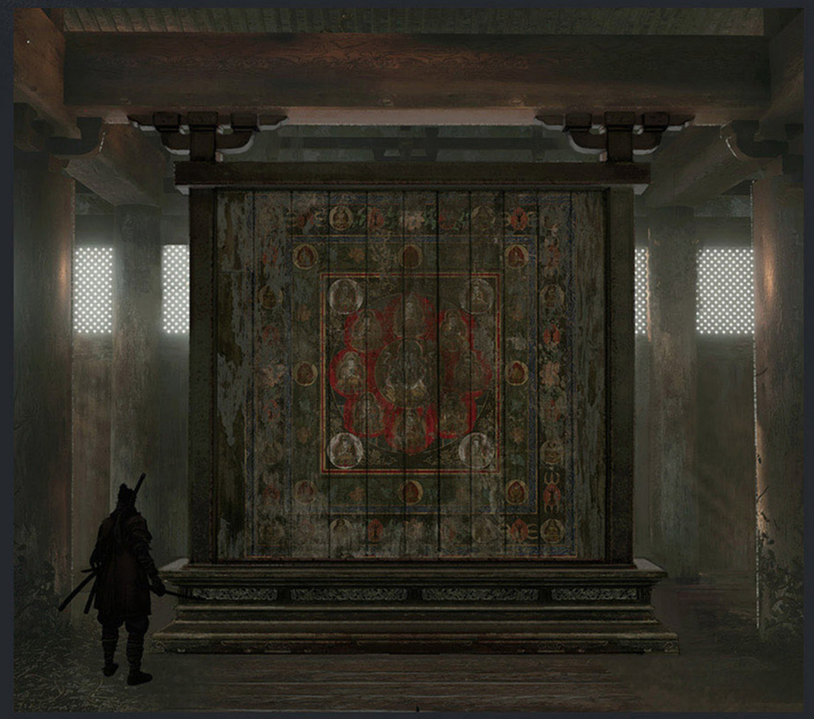
滝

本堂外観

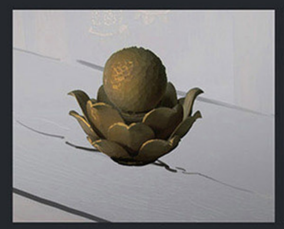
本堂からの遠景

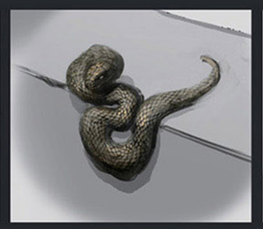
法堂内観

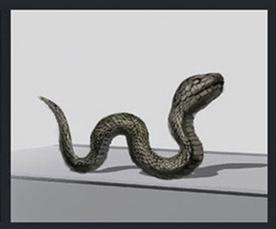
曼荼羅



菩薩像







飾り金具

大護摩壇

本堂内観

幻廊の鈴

灯り堂

轟き堂

奈落堂

泥々堂

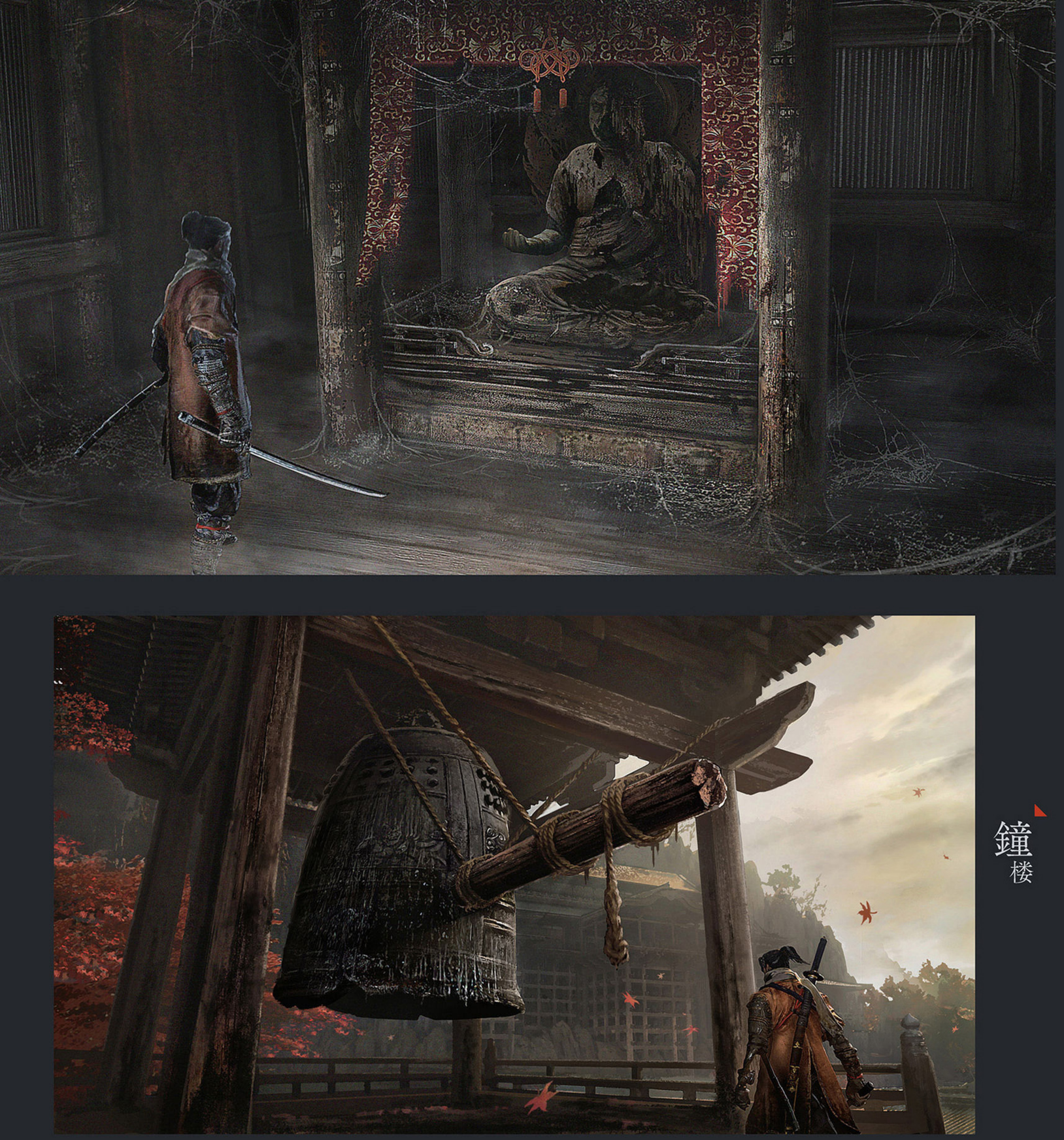
猿屏風

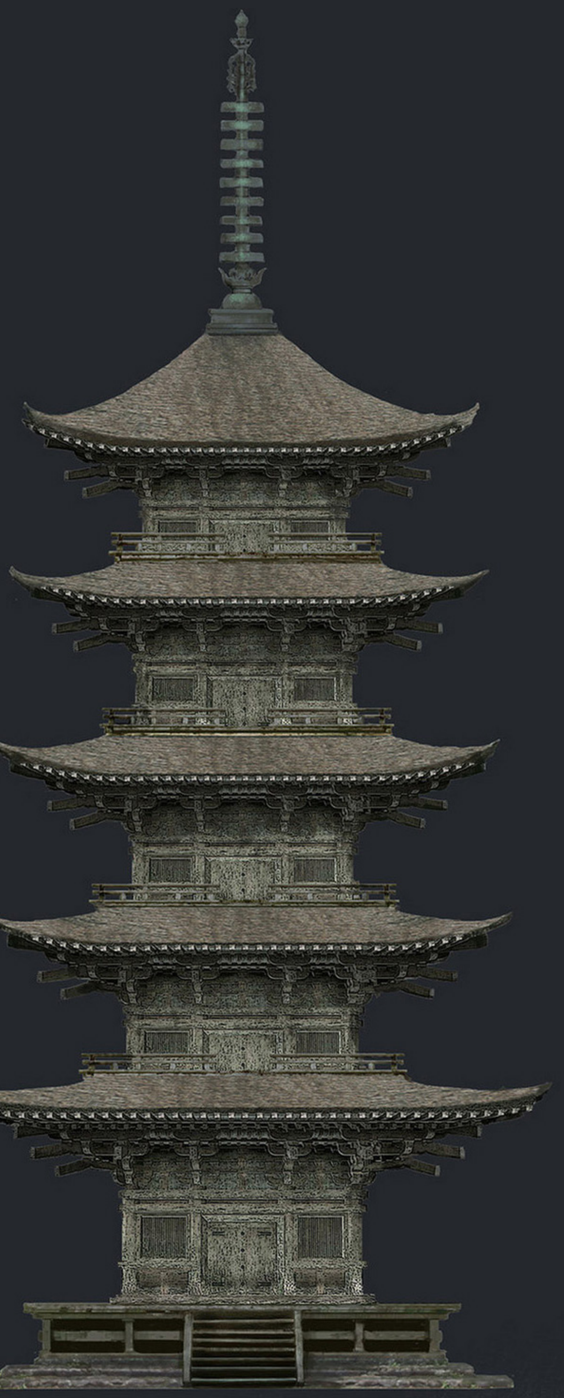
奥の院 外観

奥の院内観

天女掛け軸

五重塔 内観





鐘楼

胎内くぐり羅漢像

https://vk.com/artbooklibrary

落ち谷

社の蛇菩薩

鉄砲砦 遠景

鉄砲砦の岩山

吊橋

鉄砲砦外観

鉄砲砦の社内観

割れ目の岩窟

ぬしの白蛇

蛇の巣穴

巣穴の社

菩薩谷

菩薩坐像

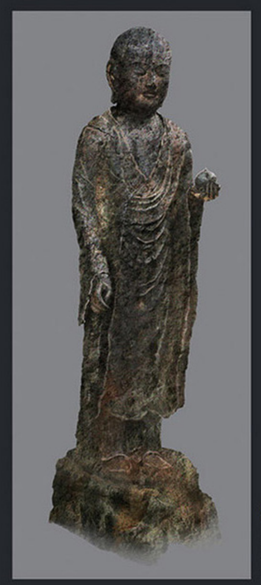
菩薩立像

馨し水蓮

慈母菩薩像

獅子猿の水場

葬名の底



菩薩像

獅子猿のねぐら

水生村

廃寺の仏像

廃寺

水
生村集落

酒
びたりの供養衆

村
衆の住居 内観

機織家

血染め布干し

五輪塔

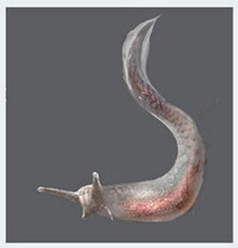
石碑

地蔵

石灯篭

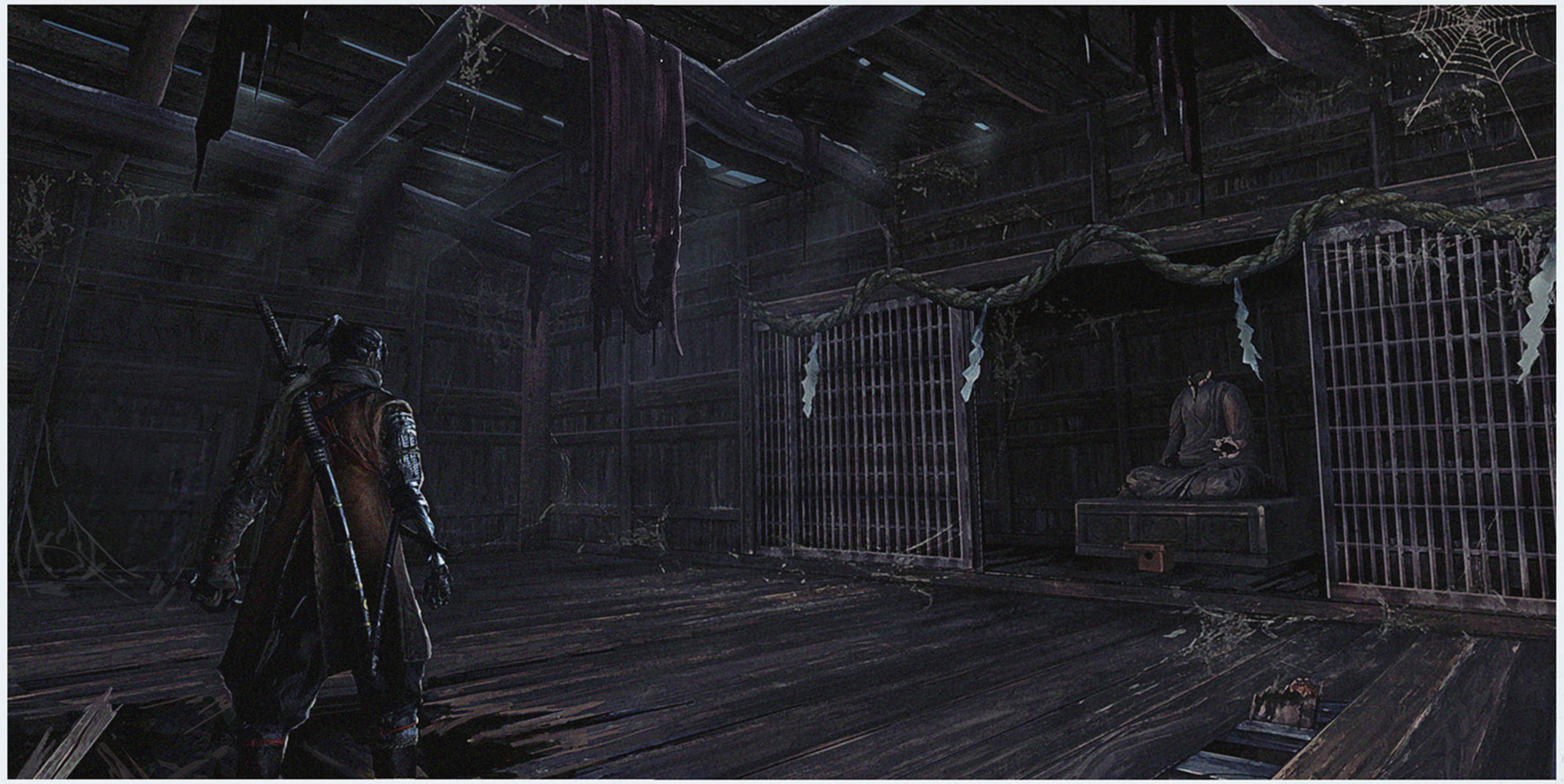
川底

屋根裏



お供え物

神主の家 内観



神主の家

土葬の卒塔婆

靖桜

輿入れの岩戸

お宿り石

輿入れの洞窟

https://vk.com/artbooklibrary

源の宮

https://vk.com/artbooklibrary

異郷へ

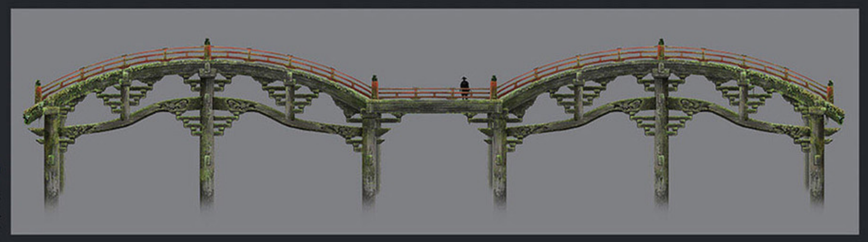
朱の橋

紅葉の木

源の宮 居住区 外観

源の宮 景観

源の宮 居住区 内観



太鼓橋

飾り彫刻

飾り瓦

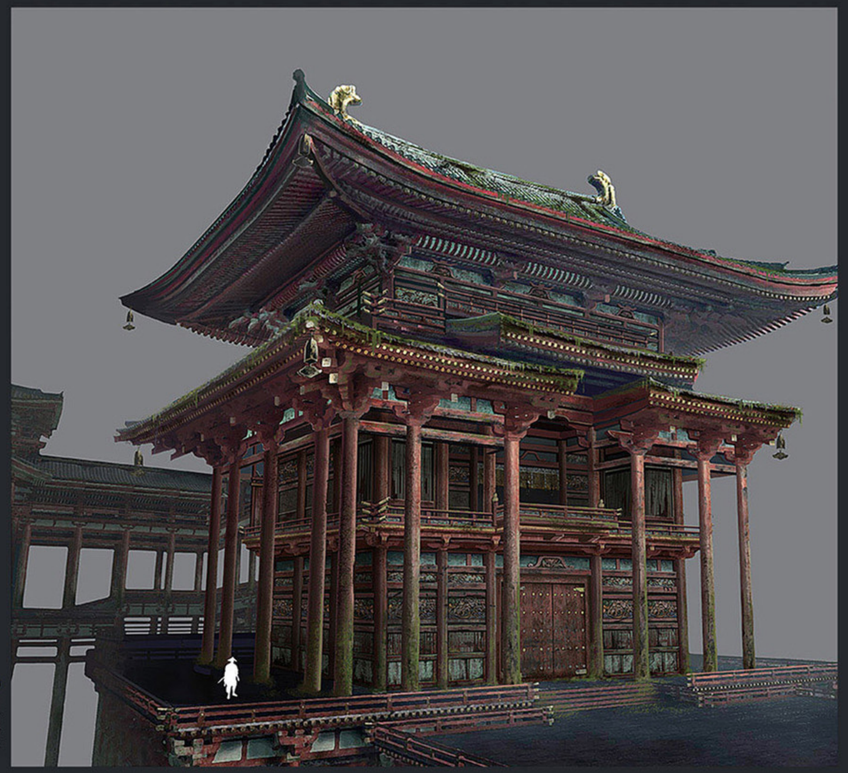
牛車

大内裏への太鼓橋

祠前

旗

御屋敷

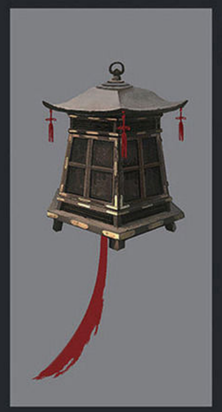


大極殿

御屋敷 内観

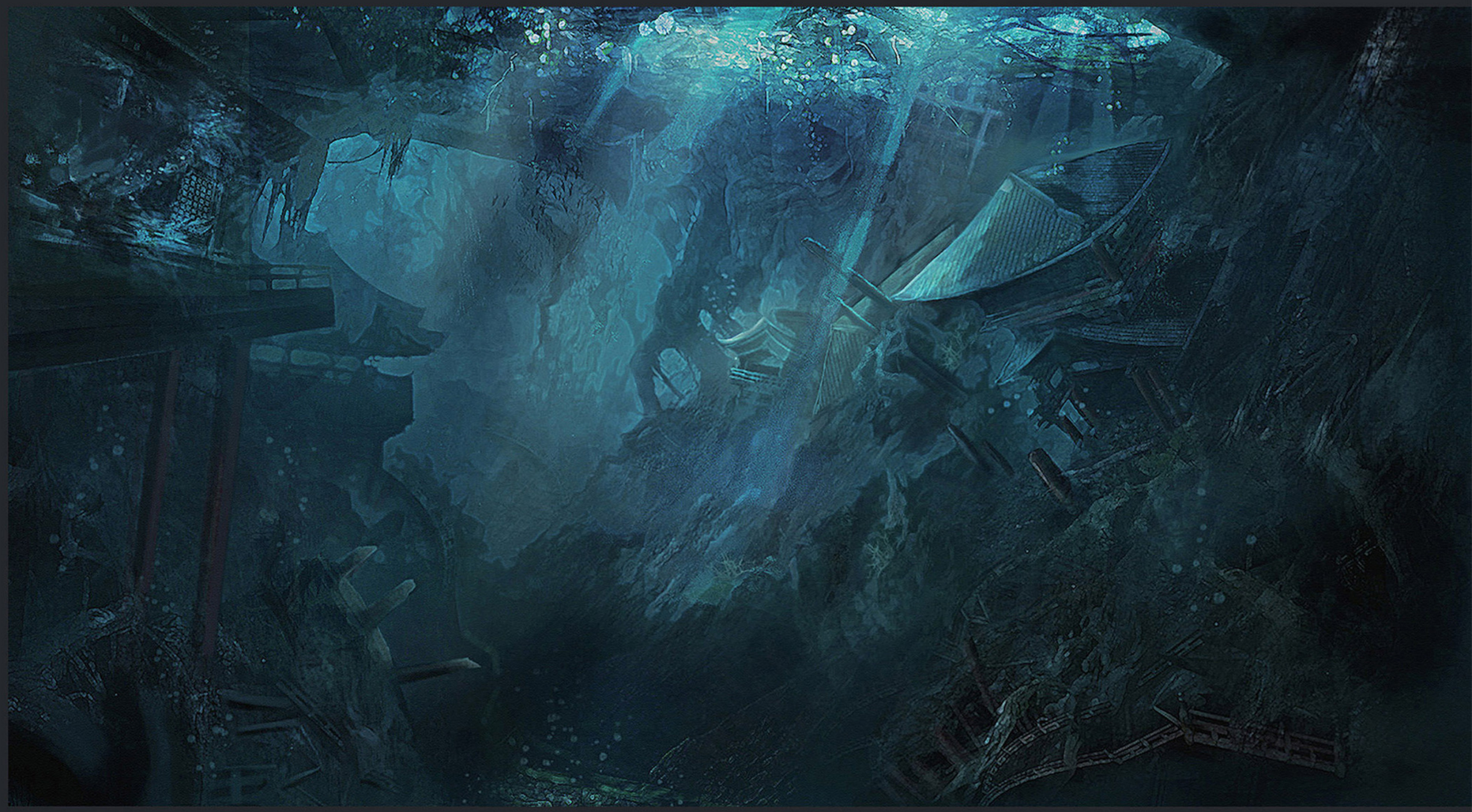
大桜

餌やり場



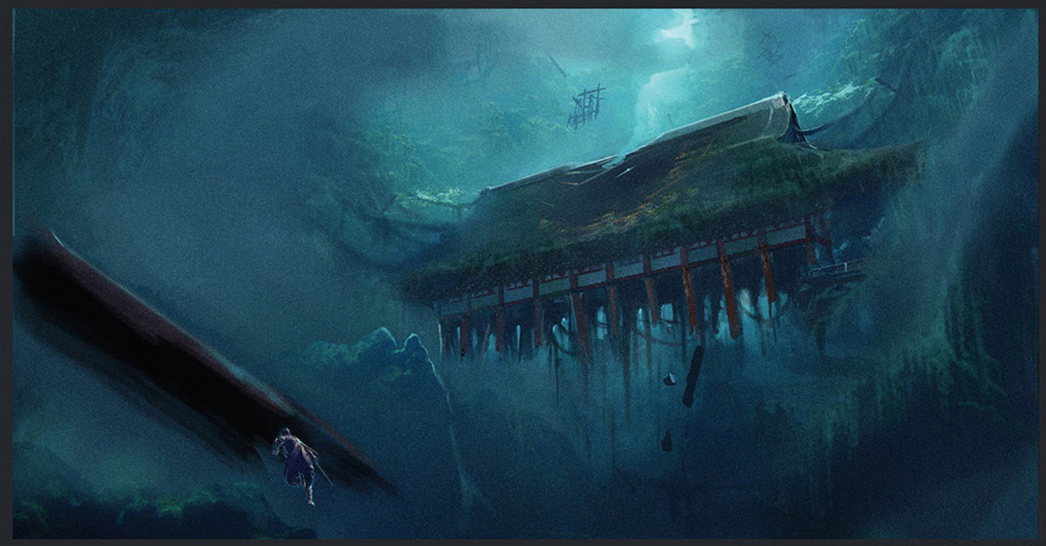
呼鐘

水
中



水中洞窟

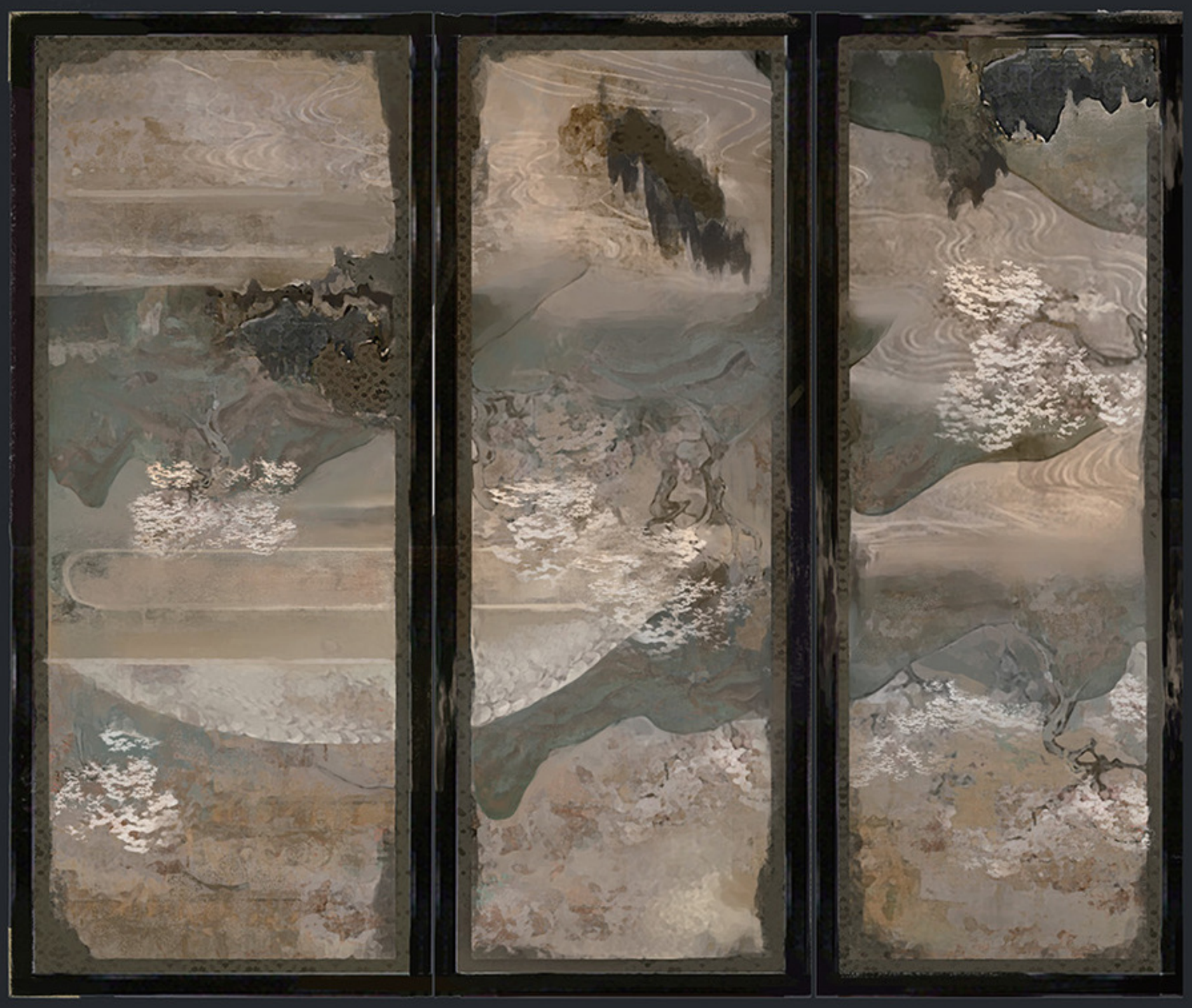
水底



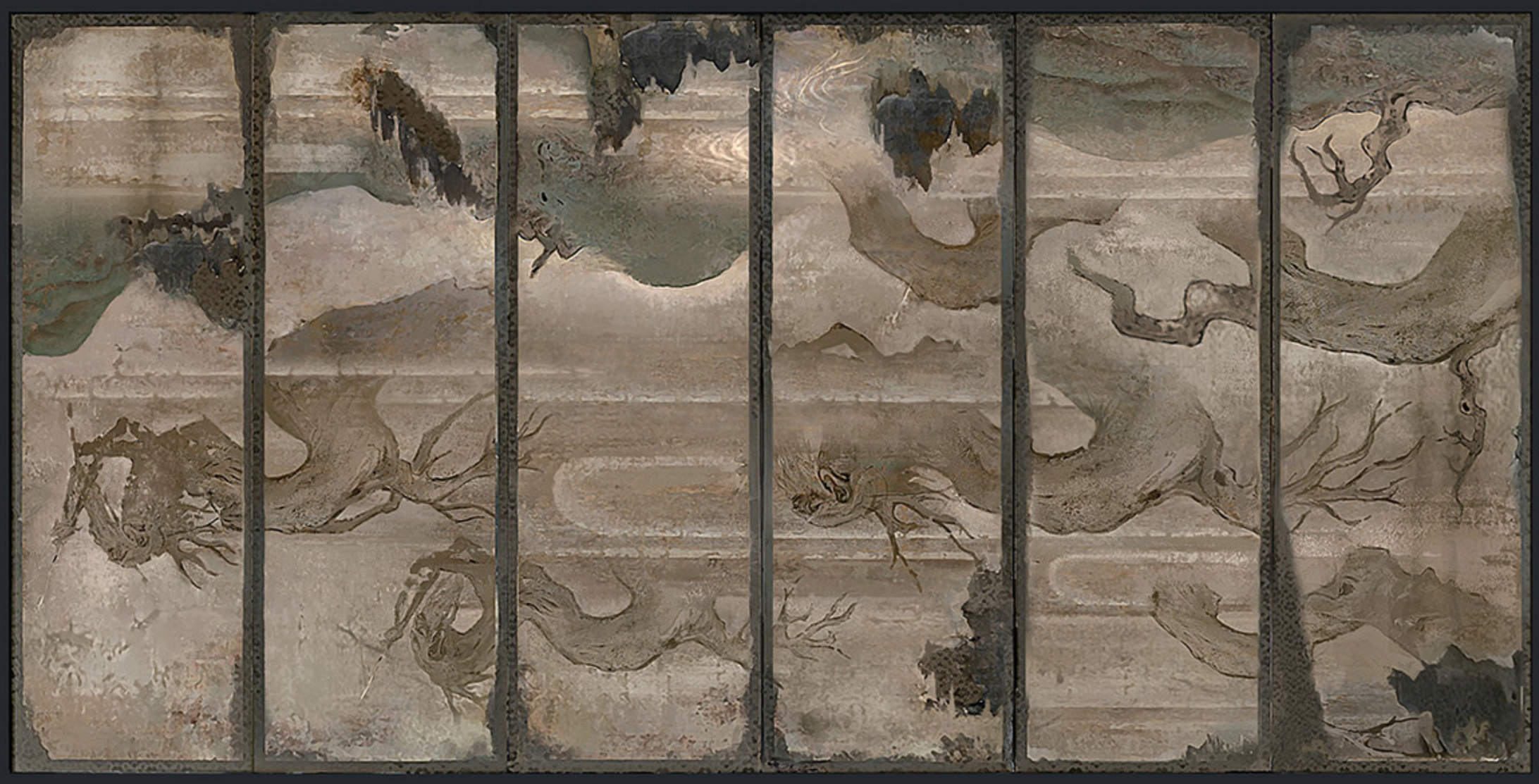
水没した宮殿

https://vk.com/artbooklibrary

生贄喰らいの儀



天井画

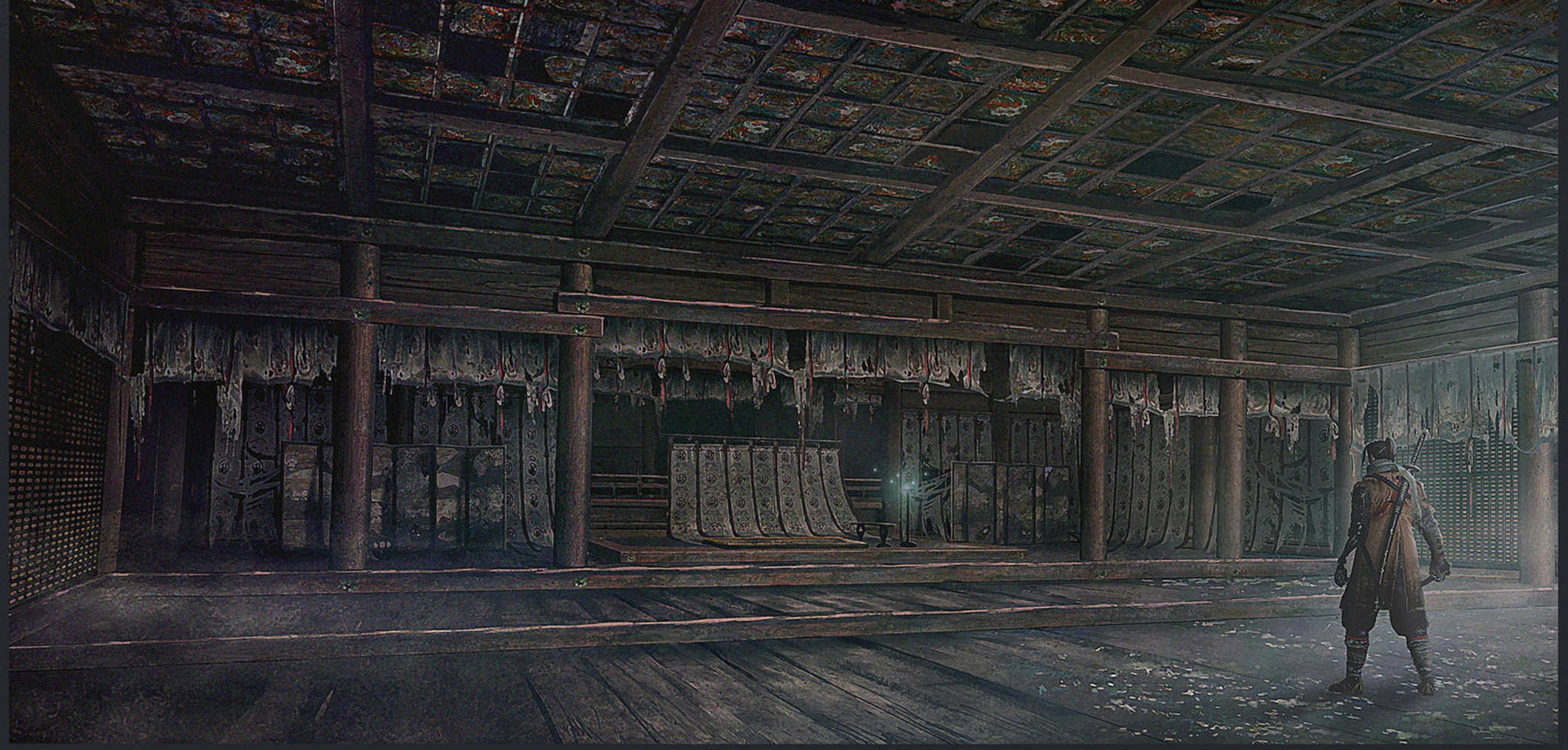


翁竜図屏風

宮の宝櫃

桜竜図屏風

宮の内裏 寝所



宮の内裏 謁見の間

神域

岩社

磐座

内府軍 襲来

炎上する葦名城

内府方の陣

怨嗟の鬼

https://vk.com/artbooklibrary

登場人物／忍具画稿

SEKIRO
SHADOWS DIE TWICE
Official Artworks

田村主膳

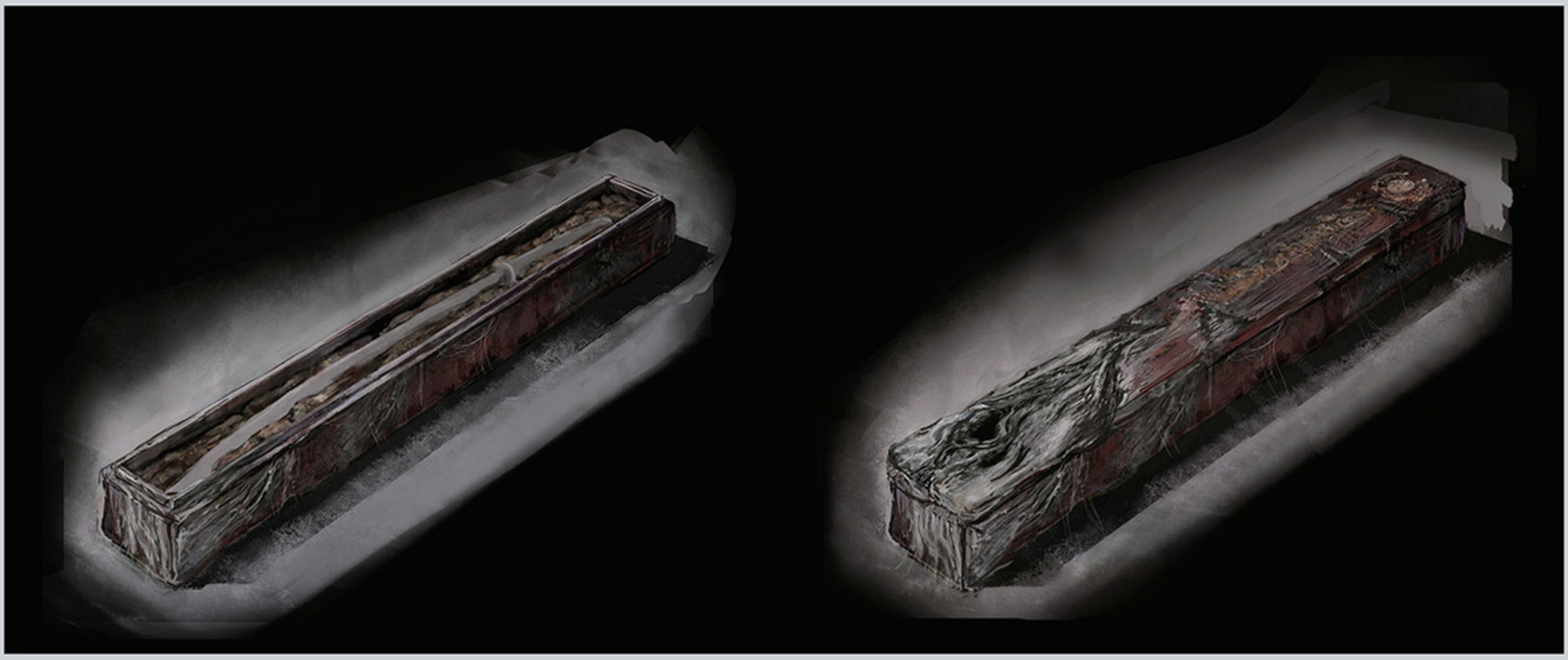
葦名雑兵

田村の雑兵

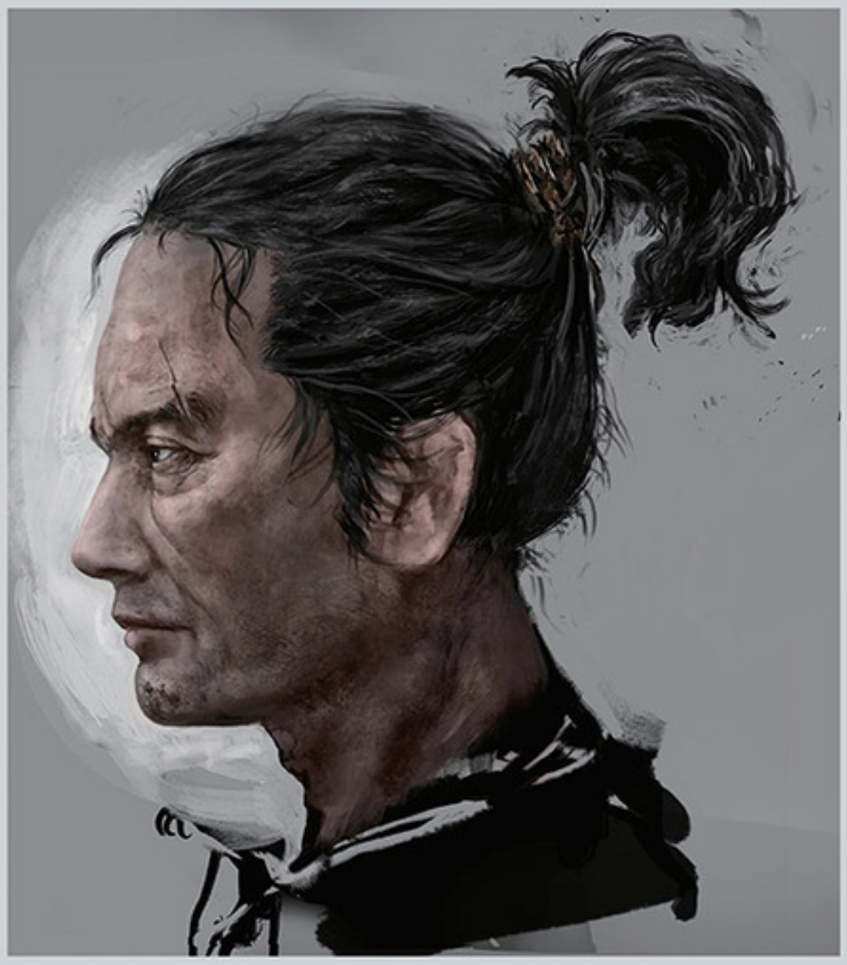
梟と狼（幼少期）

狼

https://vk.com/artbooklibrary



初期稿



仏師

一死なず半兵衛

御子九郎

初期稿

薬師エマ

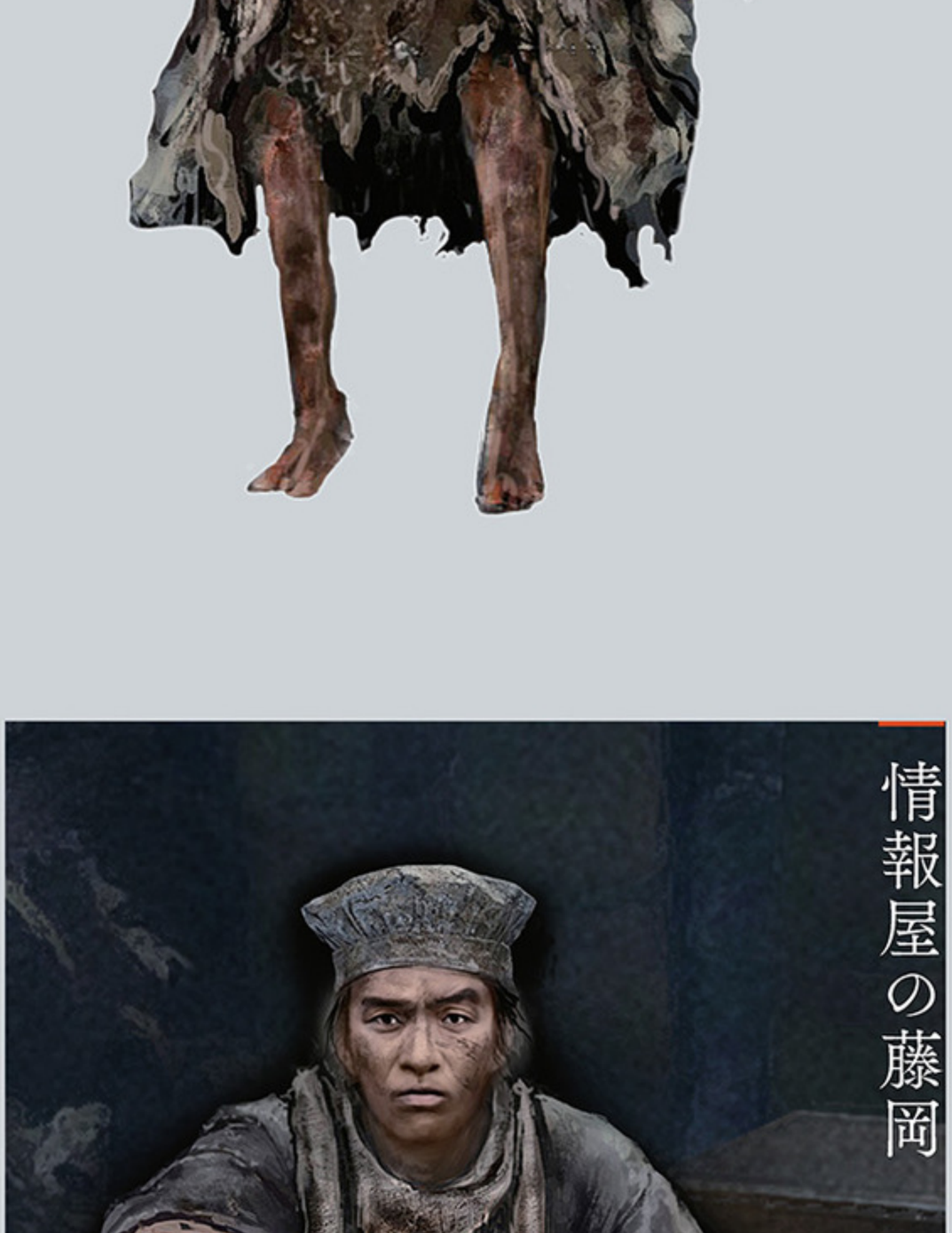
初期稿

変若の御子

初期稿

信心深き者

隈野陣左衛門



情報屋の藤岡

供養衆

野上のおばば

物売りの穴山

野上伊之助

黒笠のムジナ

道順

水生の神主

宮の老婆（妹）

宮の老婆（姉）

修羅語り

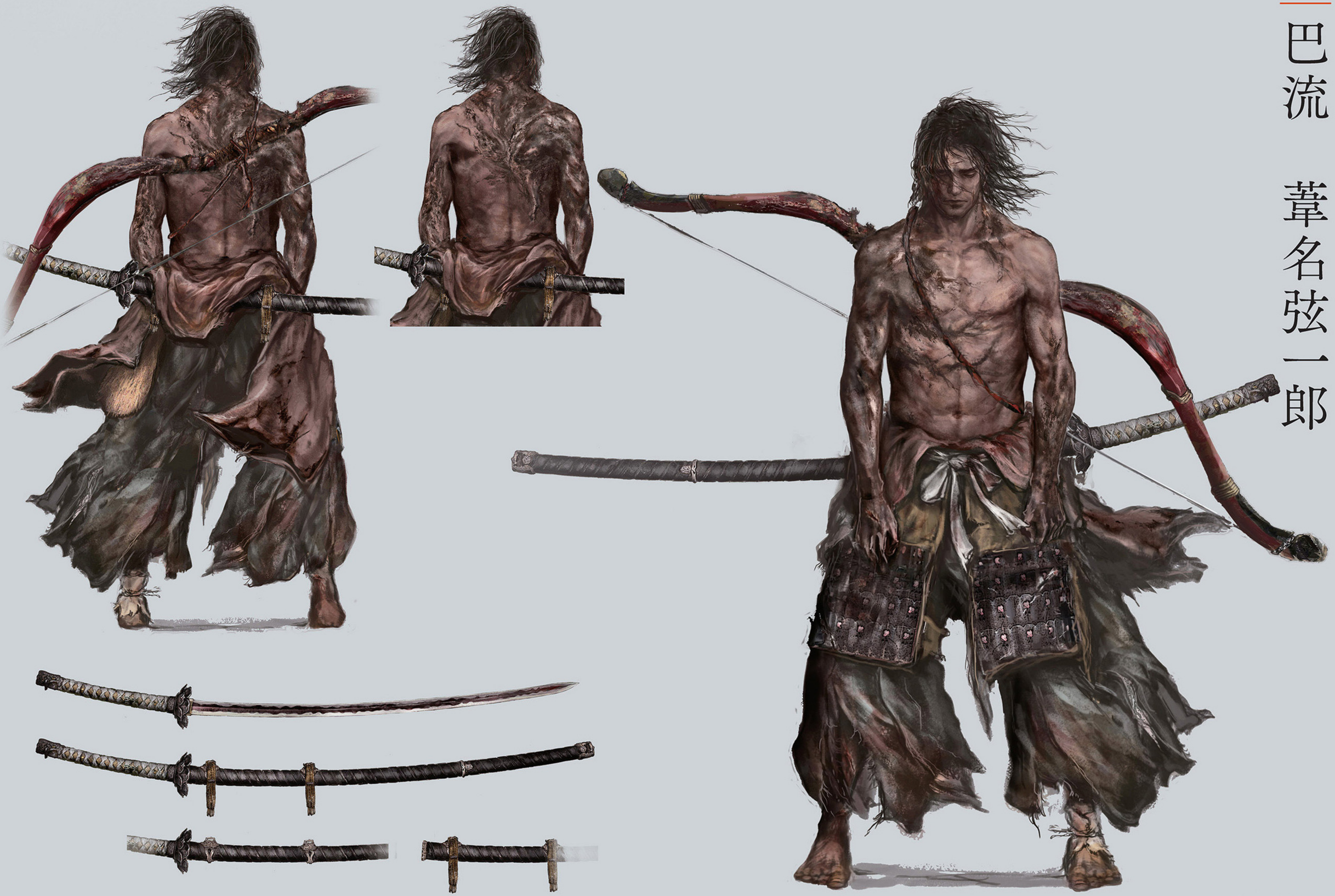
巫女

葦名弦一郎

https://vk.com/artbooklibrary

初期稿

巴流　葦名弦一郎



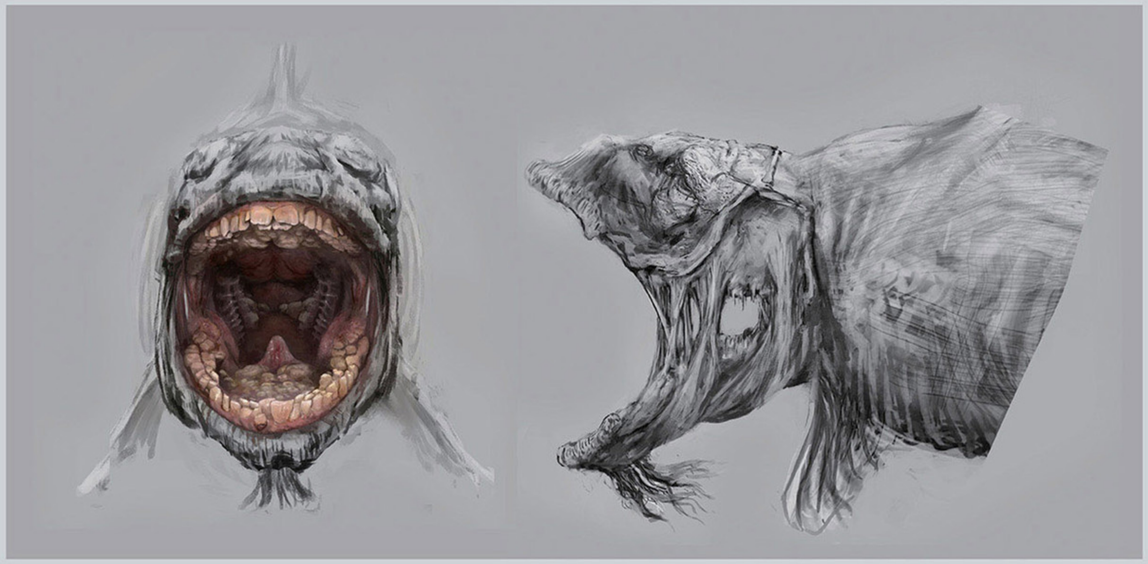
鬼庭形部雅孝

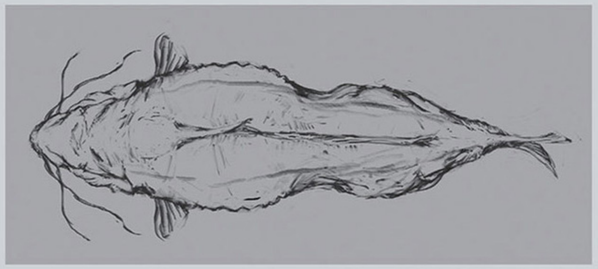
まぼろし蛸

初期稿

獅子猿

ぬしの色鯉





破戒僧

白木の翁

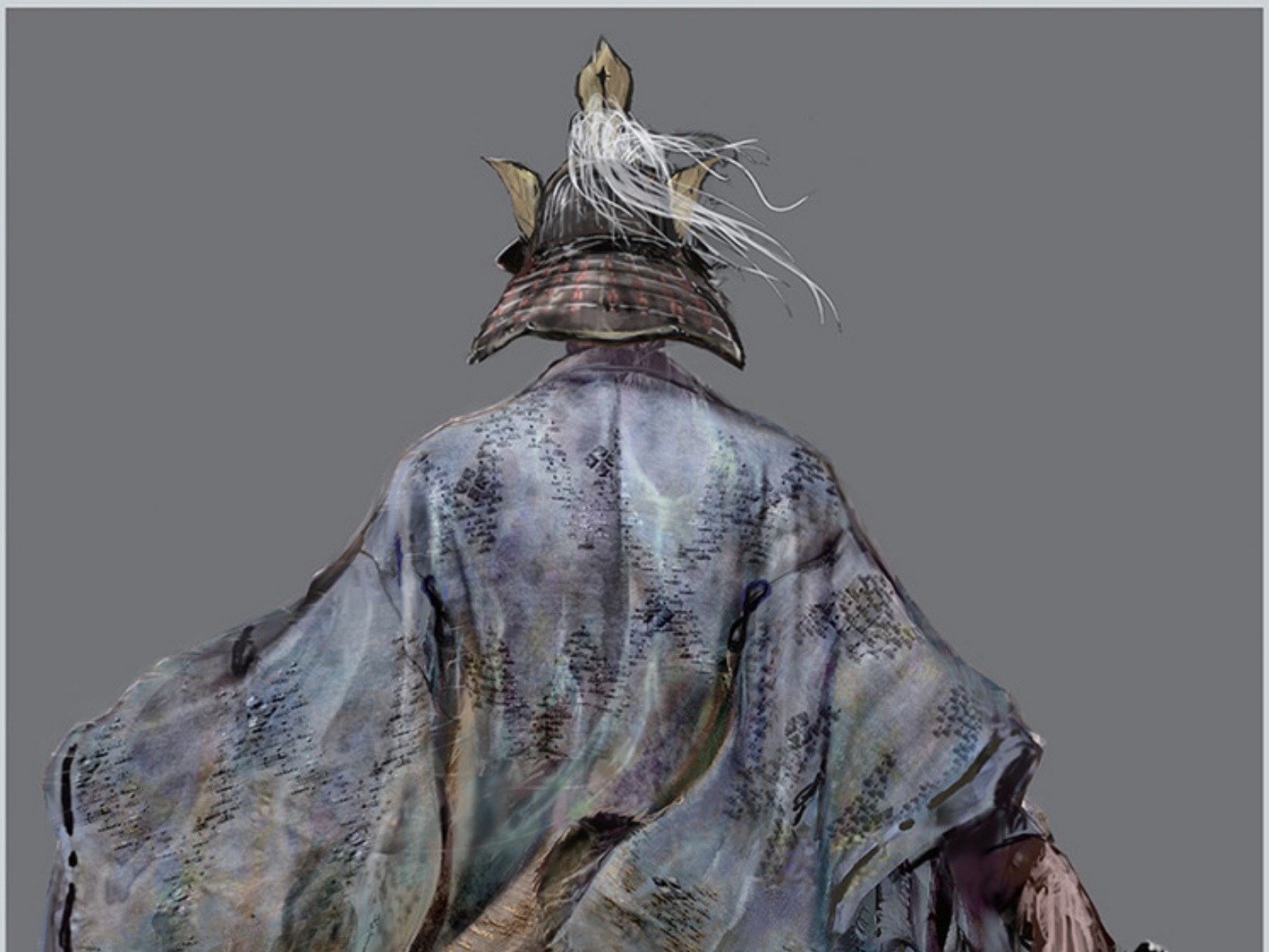
桜竜

大忍び梟

初期稿

初期稿

剣聖 葦名一心



葦名一心

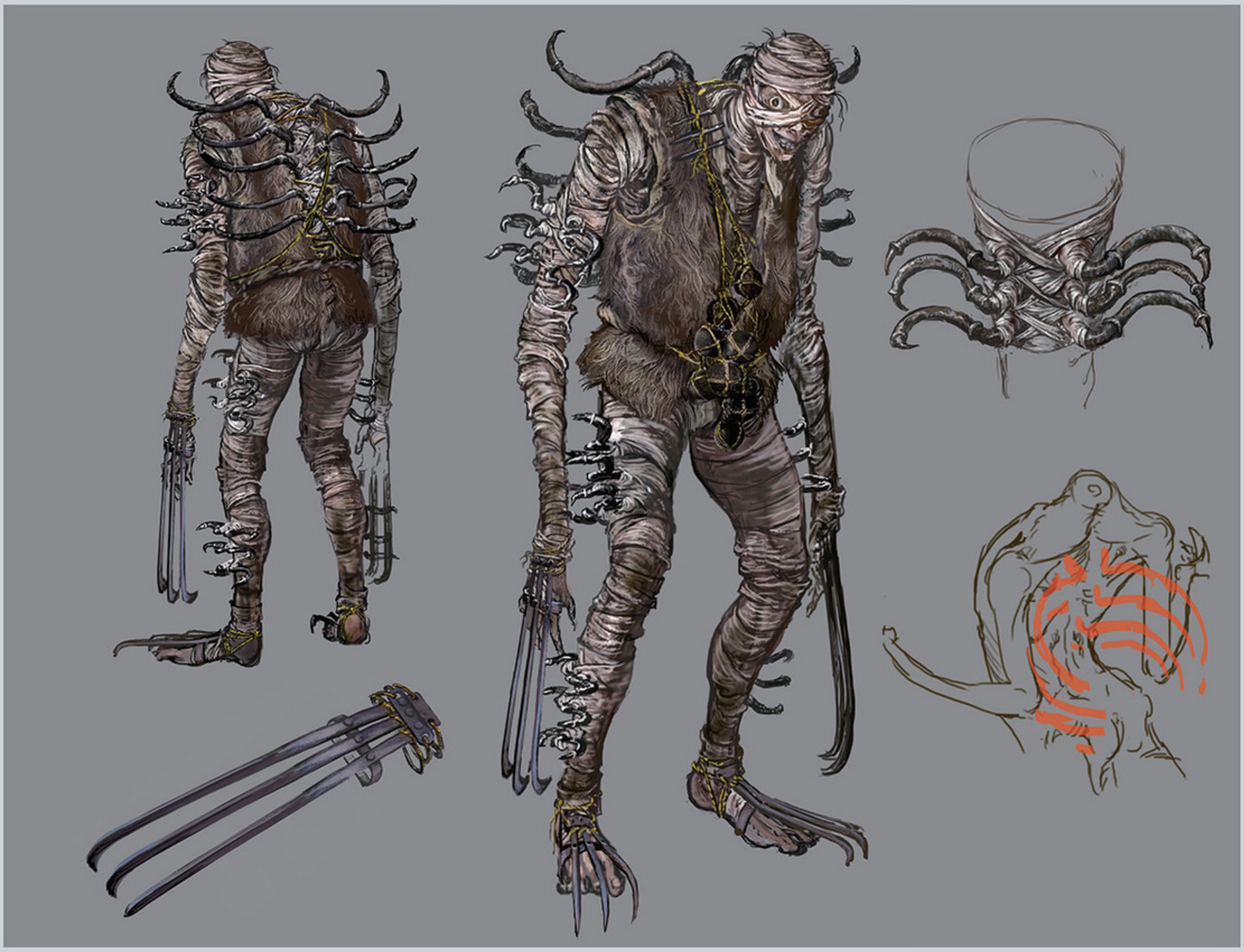
https://vk.com/artbooklibrary

怨嗟の鬼

侍大将

葦名七本槍

長手の百足



忍び狩り

槍術師

うわばみの重蔵

侍女の老婆

七面武者

見張り番

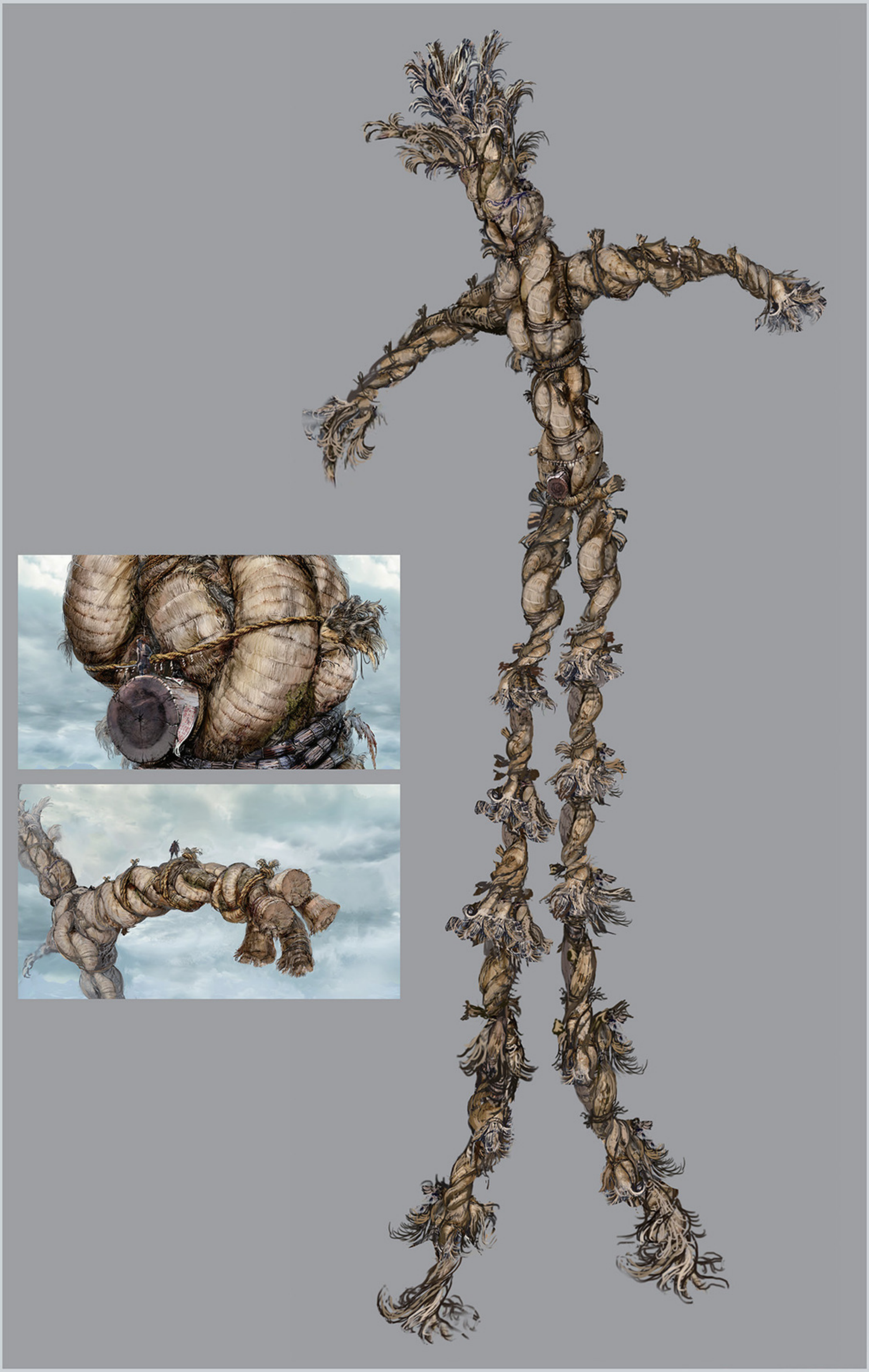
甲冑武者

岩もぐり

太郎兵

落ち谷衆

らっぱ



求道者

蟲憑きの求道者

見え猿、見る猿、言う猿、聞く猿

首無し

宮の貴族

淤加美の武者

火牛

寄鷹衆

孤影衆

忍犬

水生の村衆

施術体

水生のお凛

剑客

野盗

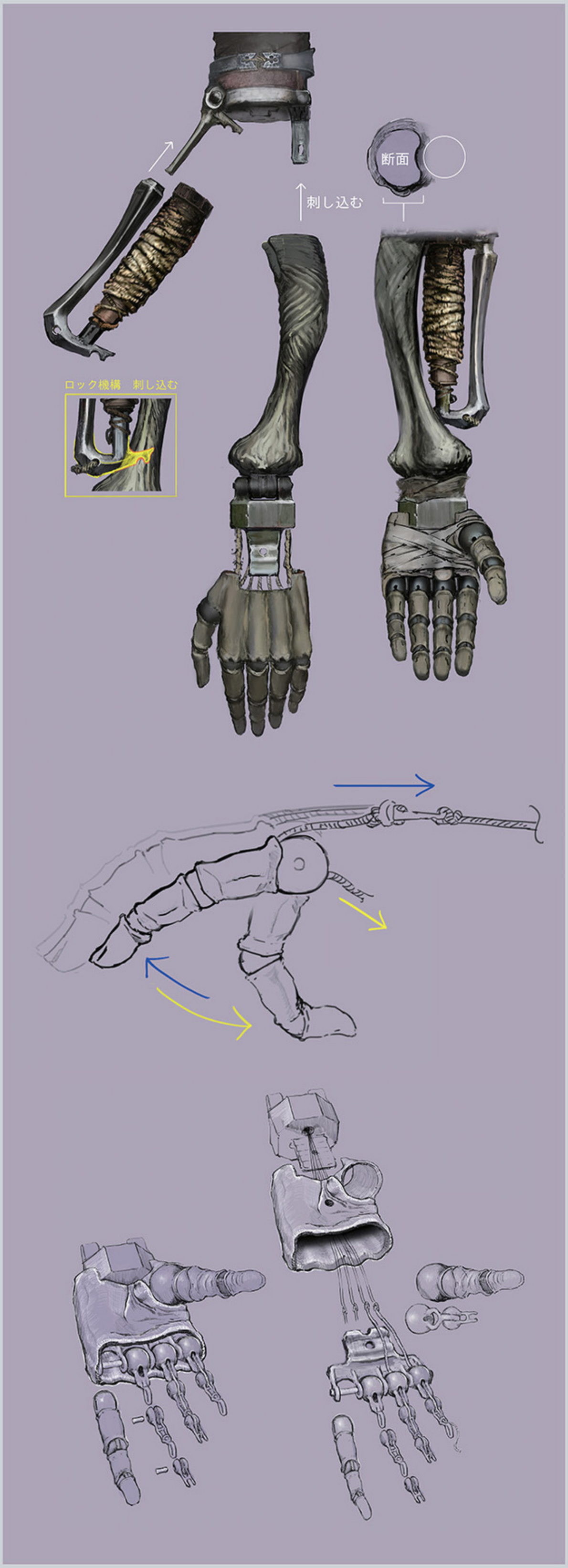
赤鬼

赤備え（二刀・焼夷弾）

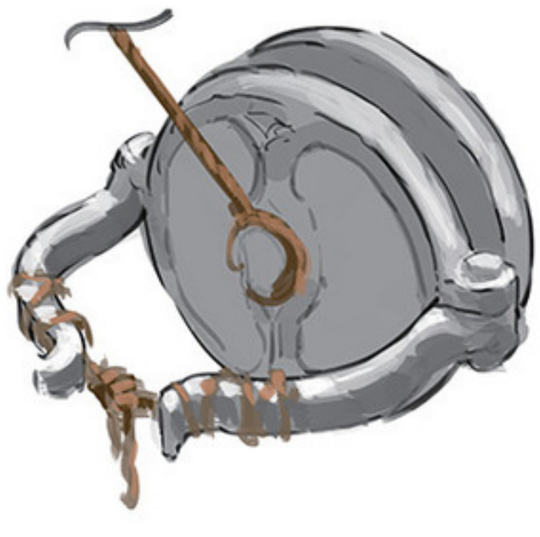
赤備え（小太刀・二刀）

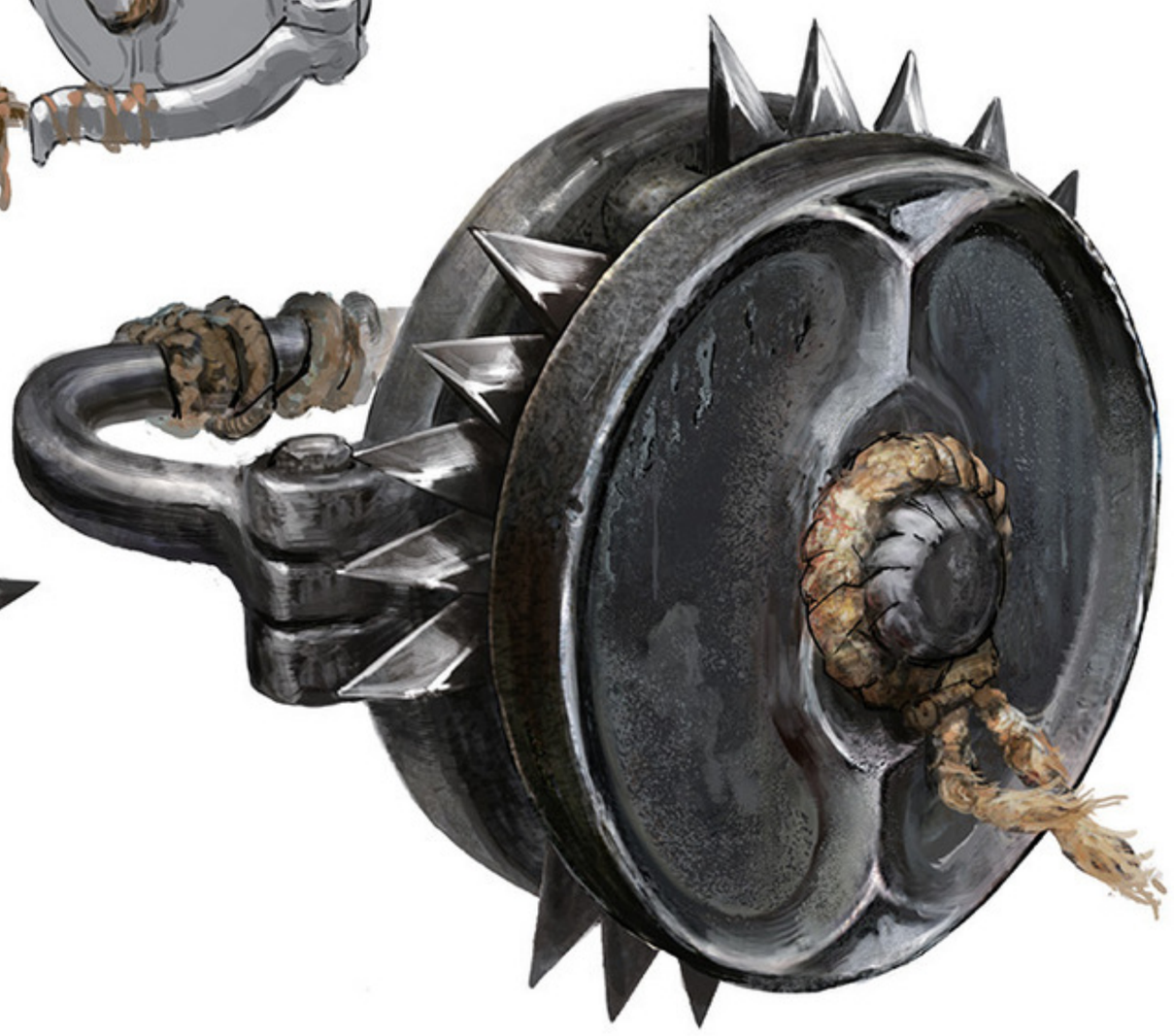
赤備えの重吉

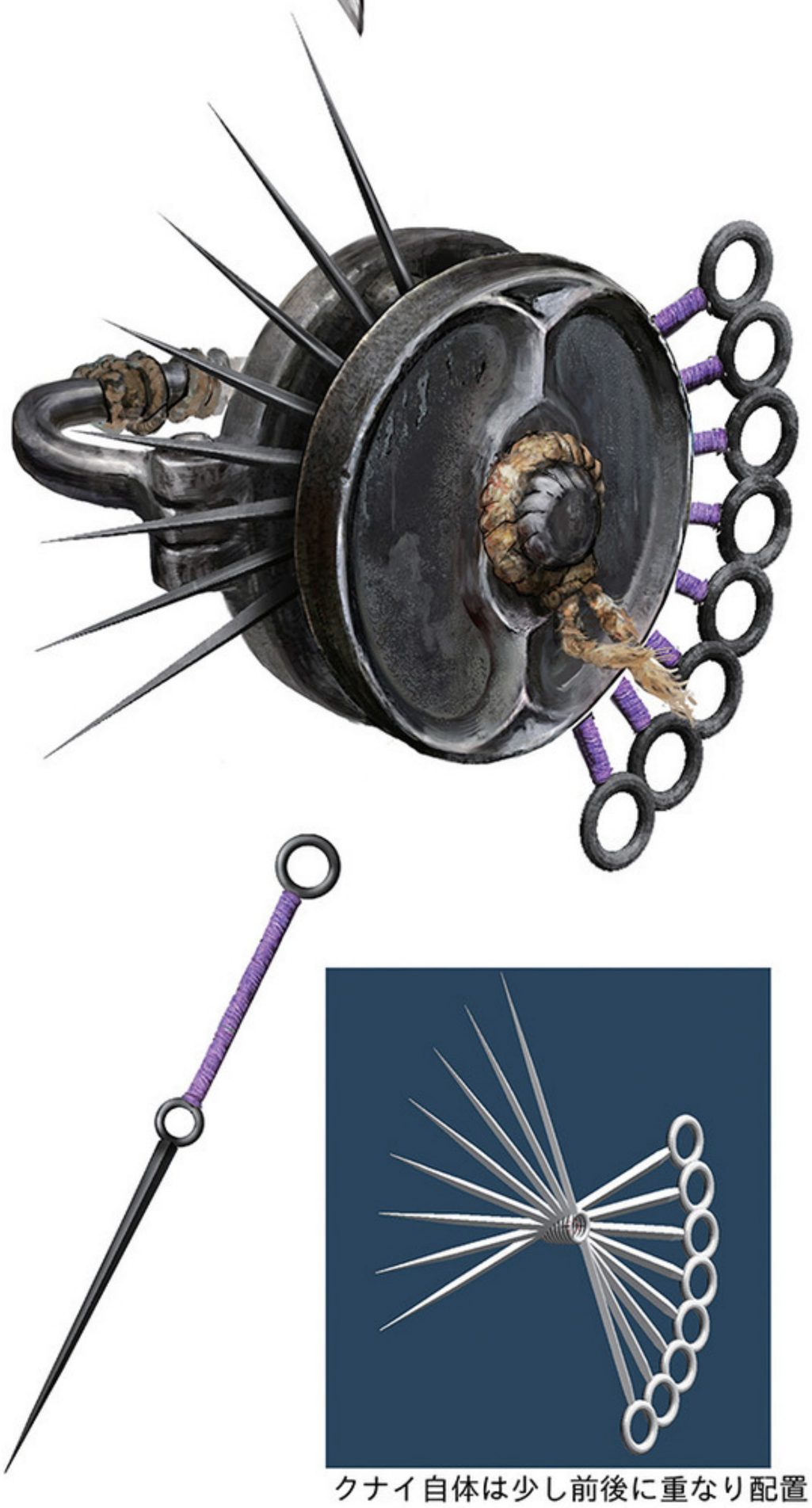
忍義手

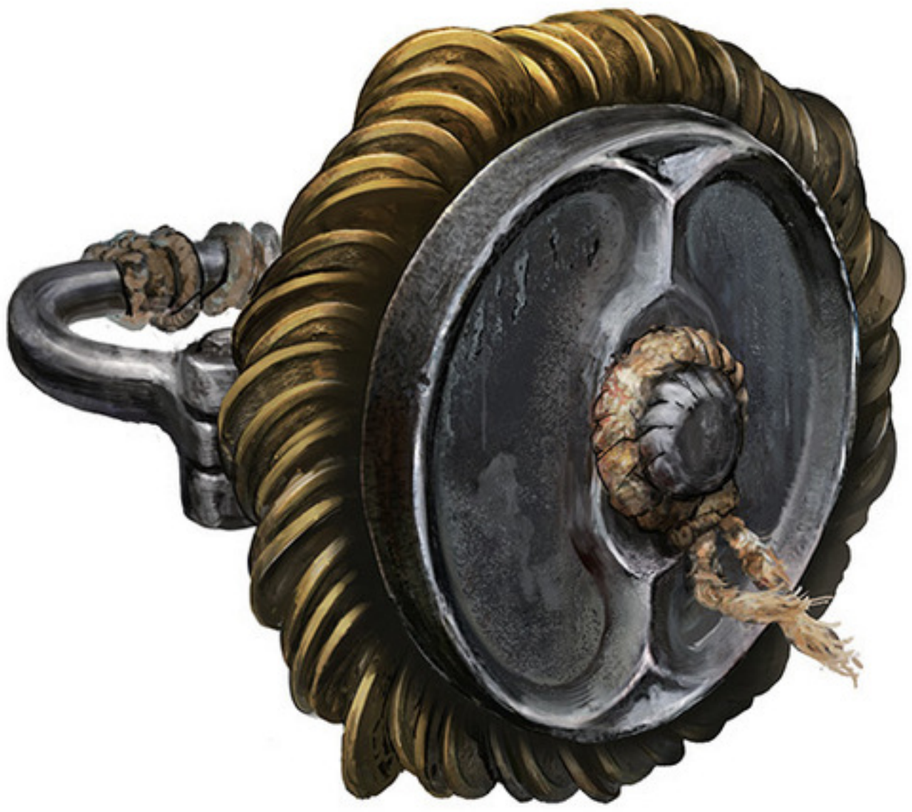


義手忍具・手裏剣

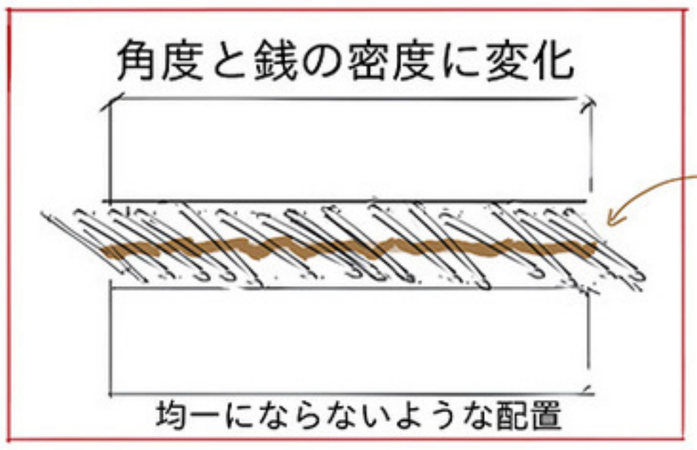






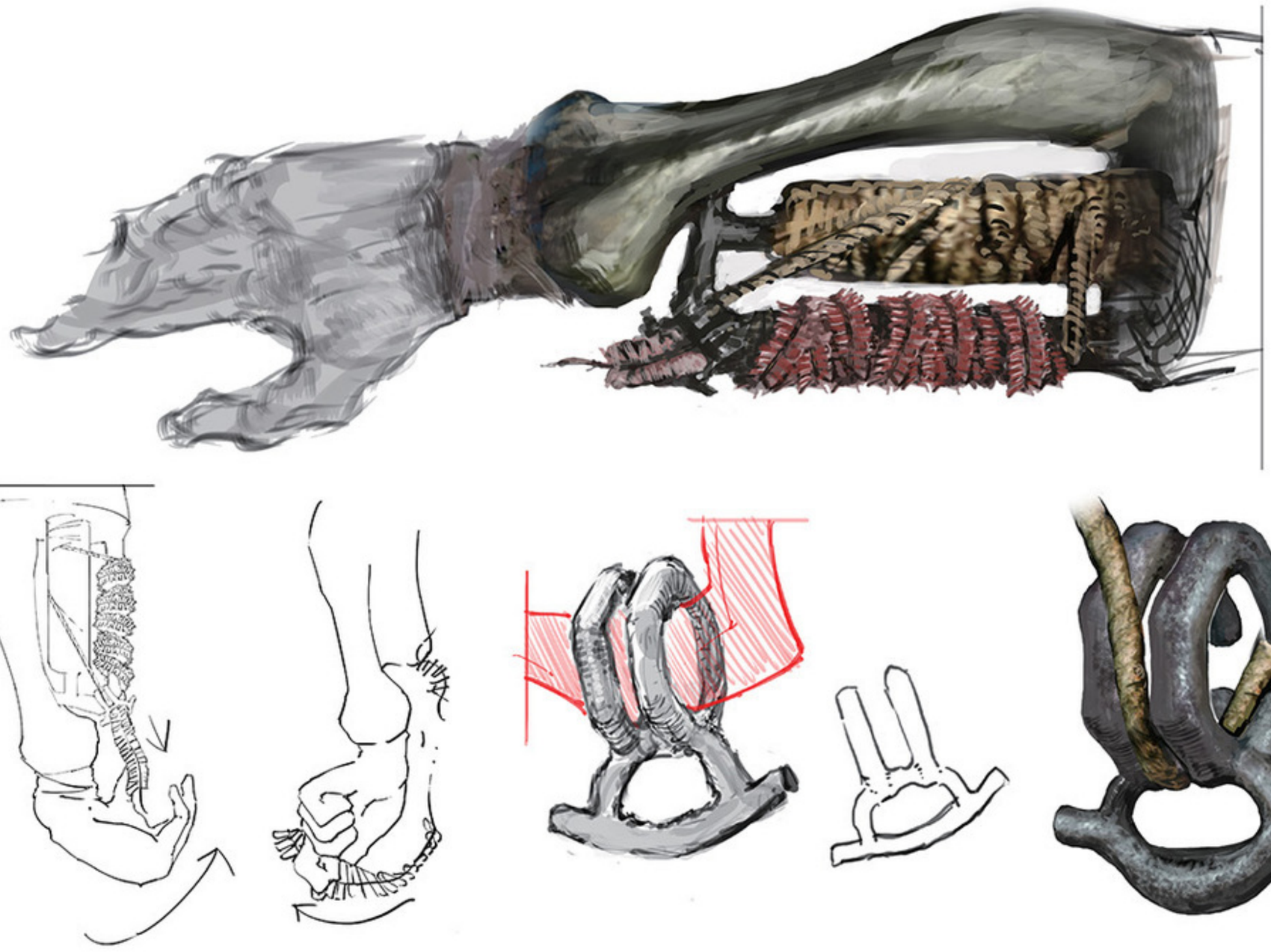


クナイ自体は少し前後に重なり配置

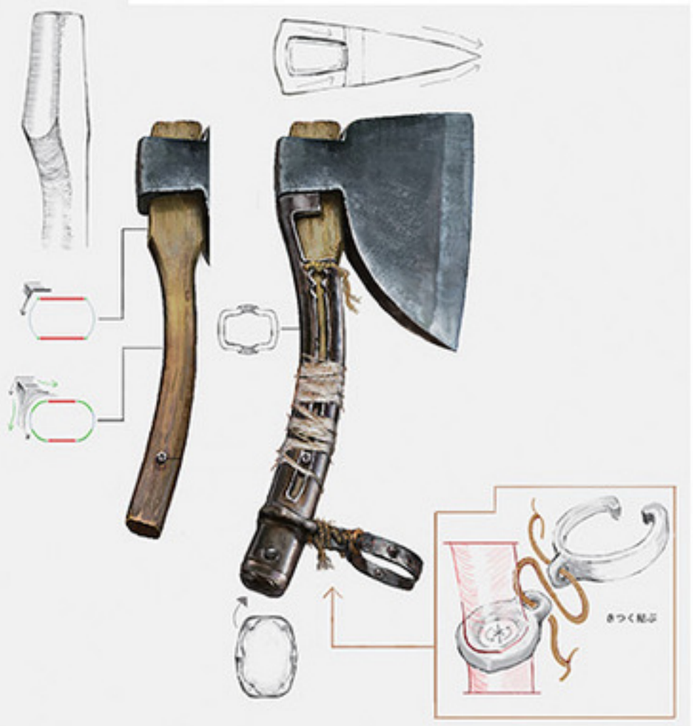


銭　彩度があり
光沢感もしっかり

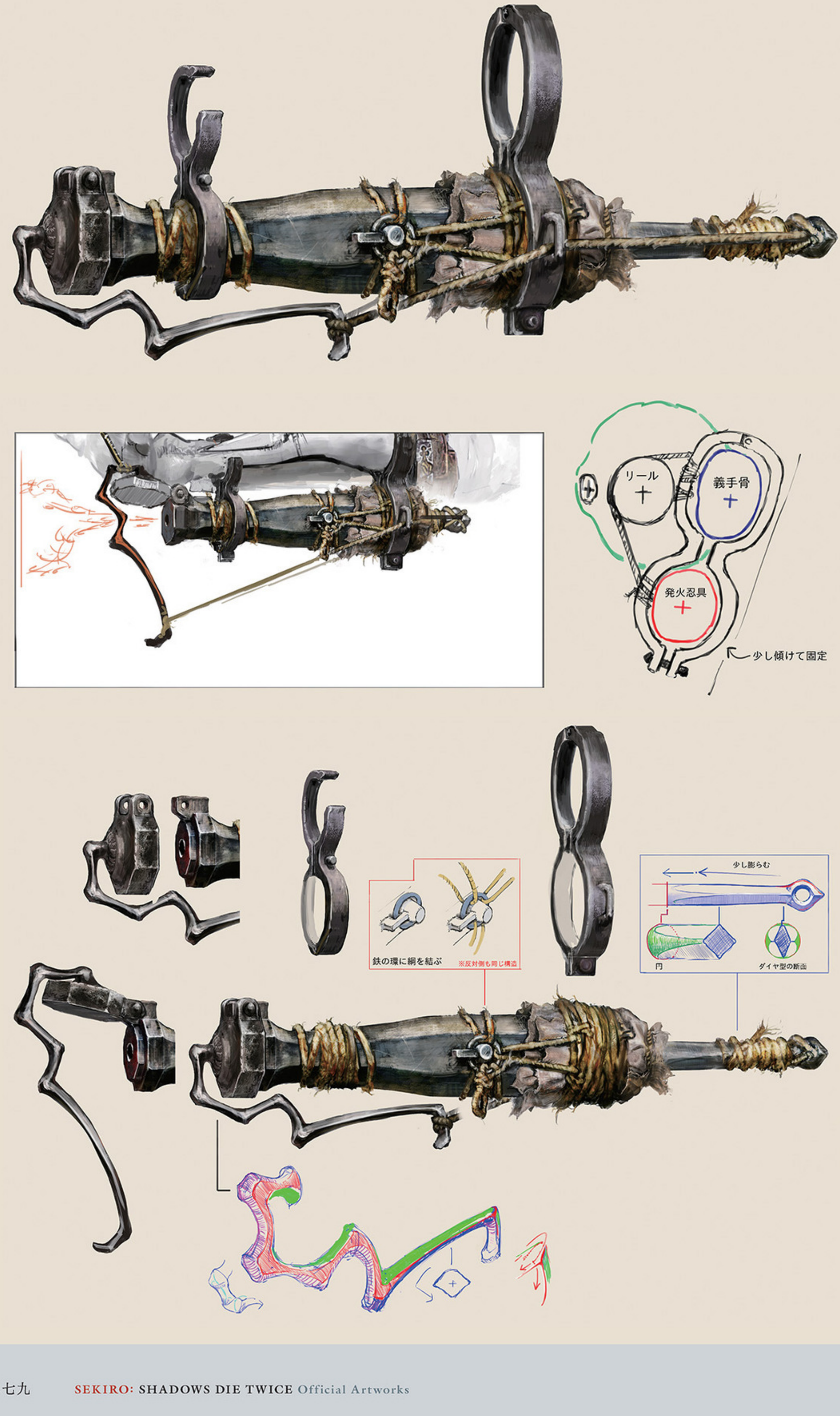
義手忍具・爆竹



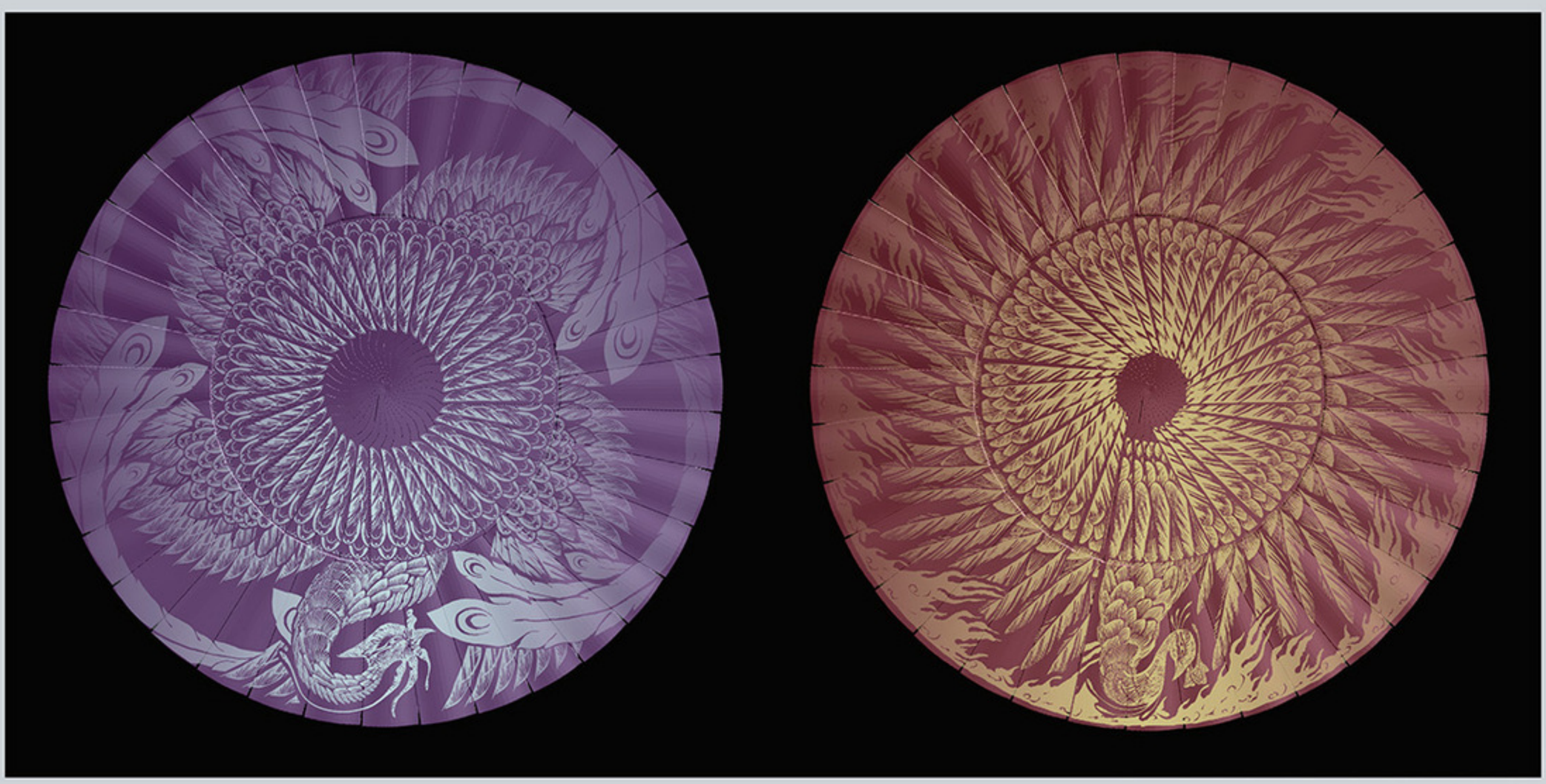
義手忍具・仕込み斧



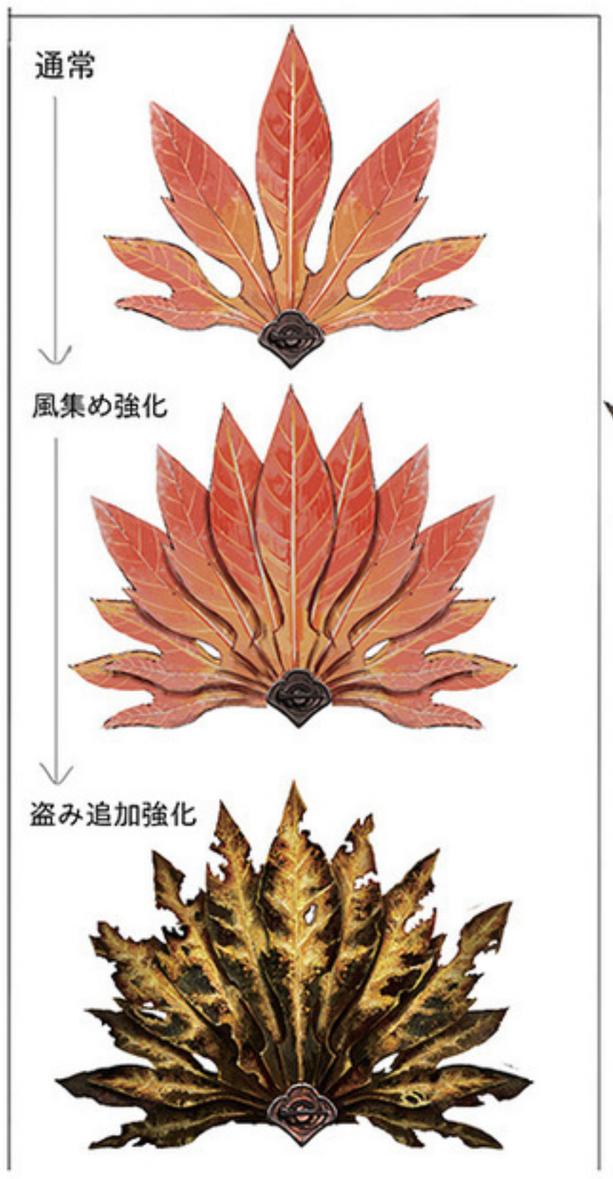
義手忍具・火吹き筒

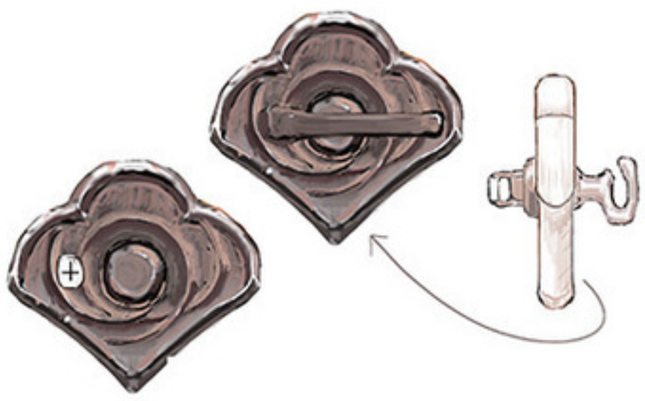


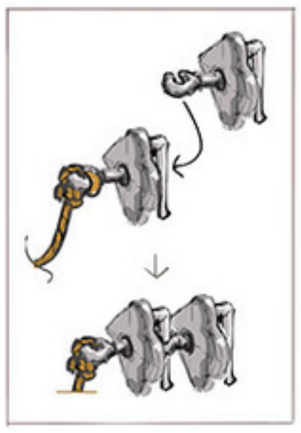
義手忍具・仕込み傘



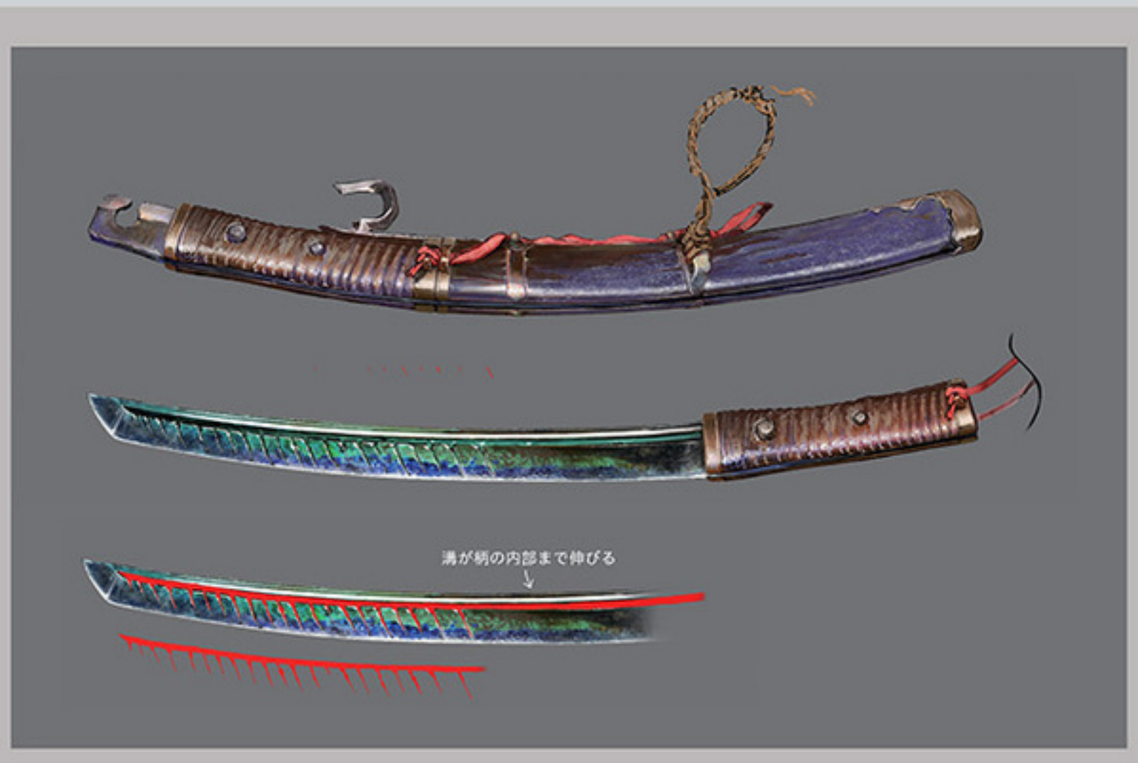
義手忍具・神隠し

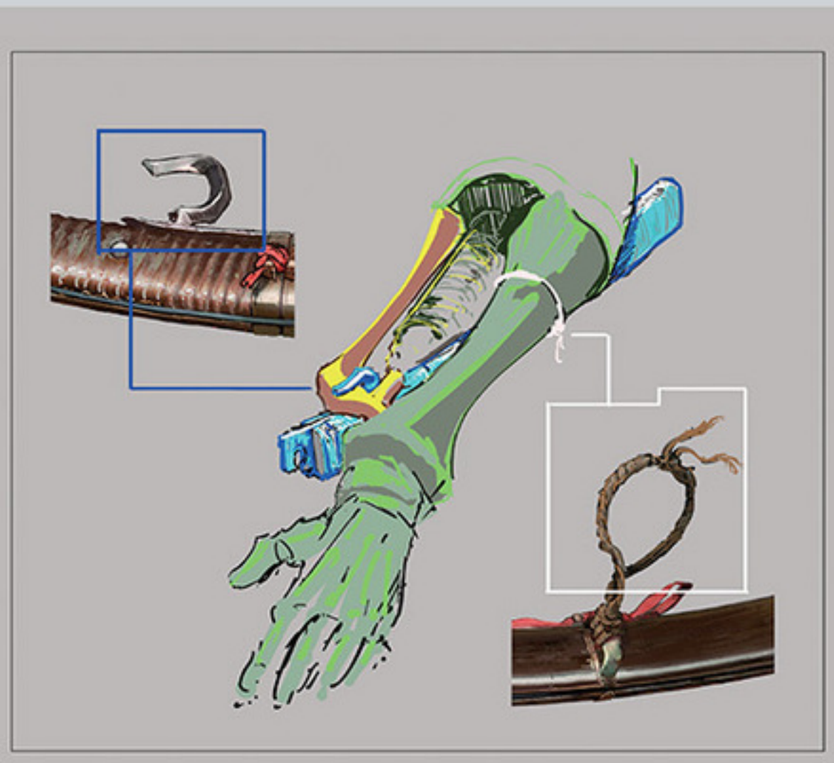




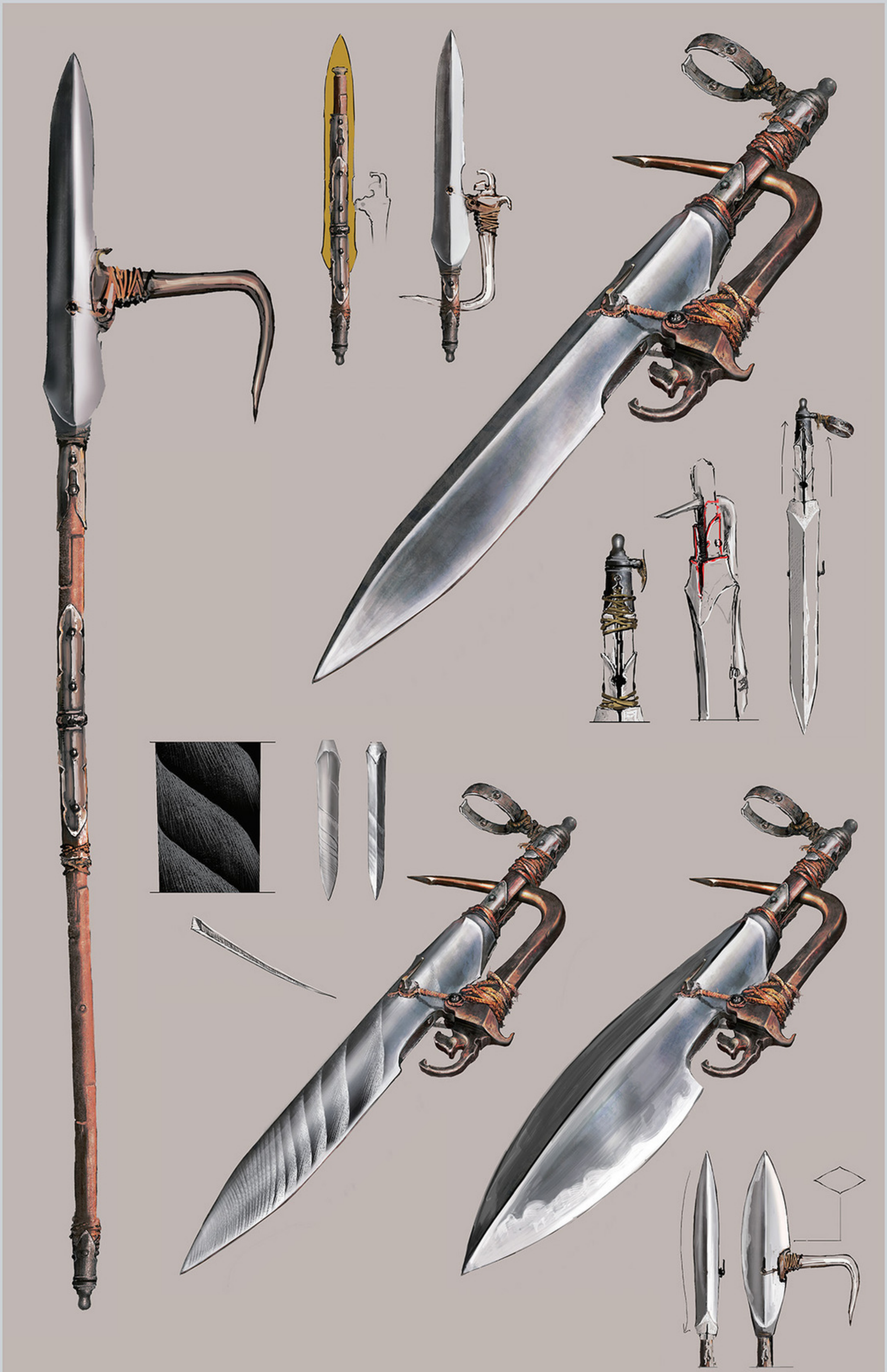


義手忍具・錆び丸

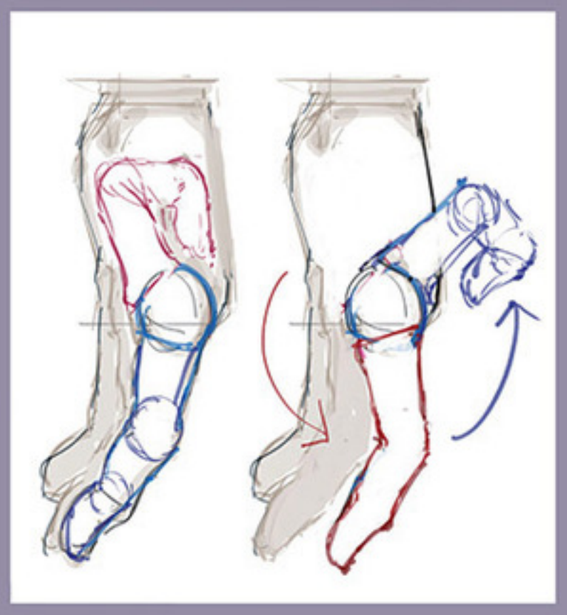




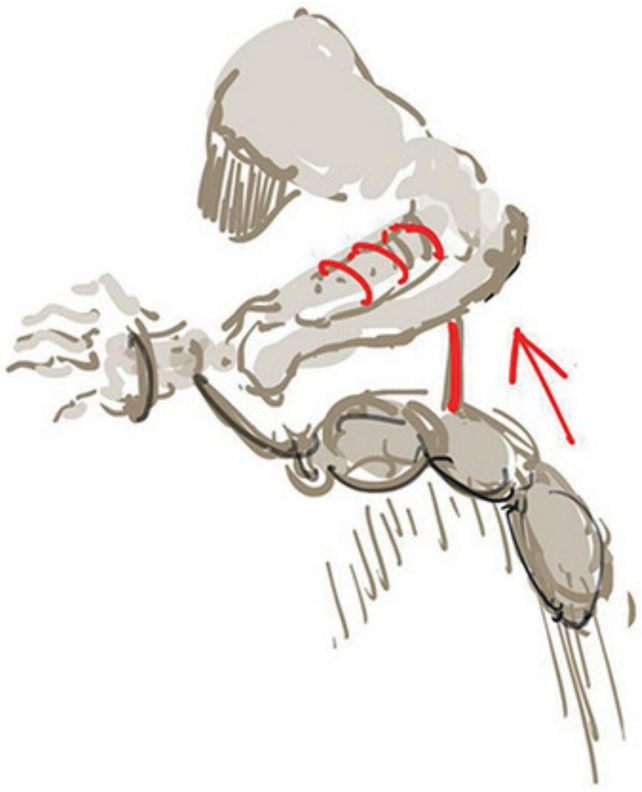
義手忍具・仕込み槍



義手忍具・指笛



義手忍具・霧がらす



開発初期イメージ

https://vk.com/artbooklibrary

アイテム&関連情報

SEKIRO
SHADOWS DIE TWICE
Official Artworks

刀

楔丸
主である竜胤の御子・九郎より授かった刀
葦名の庶家である、平田氏に伝わるもの
失っていたが、再び狼の手に戻った
楔丸の名には、願いが込められている
忍びは人を殺すが定めなれど、
一握の慈悲だけは、捨ててはならぬ…
その願い、時に刃が汲むこともあろうか

不死斬り
死なぬ者さえ殺す大太刀
その赤き刃は、刀を抜いた者を一度殺す
回生の力なくば、不死斬りの主とはなれぬ
不死斬りならば、
蟲憑きにとどめ忍殺をすることができる
この刀は、長く仙峯寺に秘匿されていた
刻まれた銘は、「拝涙」
それがこの刀の真の名だ

忍義手と義手忍具

忍義手
仏師から譲り受けた、忍びの義手
人のそれを模した偽骨を軸に、
絡繰りが施されている
この義手には、何かを仕込むことができそうだ
大小の傷が刻まれ
血や油がこびりついてはいるが、
手入れは行き届いている

絡繰り筒
絡繰り仕掛けの金属の筒
仏師に渡し忍義手に仕込めば、
強化義手忍具の作成が行えるようになる
忍義手をなす腕骨の内の空隙に、
ぴたりと嵌るように作られている
骨に芯が通れば、忍びの牙を
さらに研ぎ澄ますことができるだろう

手裏剣車
機巧師・道玄の作った絡繰り忍具の一つ
忍義手に仕込めば、義手忍具となる
手のひらほどの大きさだが、
手裏剣車の中には、
驚くほどの手裏剣を納められる
刃の重ねに工夫があるのだ
こうした絡繰り忍具を作り上げた技巧が、
忍義手にも生かされている

手裏剣
忍義手に、手裏剣車を仕込んだ義手忍具
形代を消費して、使用する
手裏剣車の絡操りから
打ち出された手裏剣を掴み、流れるように放つ
素早く投げ打った刃は、敵のＨＰと体幹を削る
跳び回る敵に対しては、大ダメージを与える

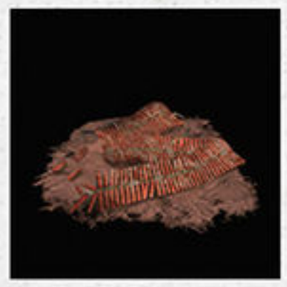
独楽手裏剣
回転の力を溜められる強化手裏剣
形代を消費して、使用する
素早く投げ打った刃は、敵のＨＰと体幹を削り
跳び回る敵に対しては、大ダメージを与える
バネ絡繰りで、回転の力を溜めて放つと
一撃で終わることなく、敵を切り裂き続ける
その様は、さながら刃のついた独楽である

貫き独楽
鋭利な刃で敵を貫く強化手裏剣
形代を消費して、使用する
研ぎ澄まされた鋭利な刃を投げ打つ
敵を貫いても尚、その勢いが衰えることはない
また敵のＨＰと体幹をガードの上からでも削る
バネ絡繰りで、回転の力を溜めて放つと
一撃で終わることなく、
その鋭利な刃で敵を切り裂き続ける

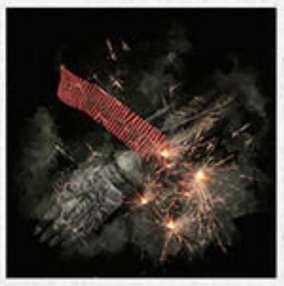
まぼろしクナイ
手裏剣車に仕込まれた、まぼろしお蝶のクナイ
形代を消費して、使用する
投げると音が鳴り、
クナイを追ってまぼろしの蝶々が飛ぶ
まぼろしの蝶々は、敵を追って飛び、
ガードの上からでも、ダメージを与える

銭つぶて
仕込んだ銭を、まとめて放つ義手忍具
形代に加え、銭を消費して、使用する
飛ぶ距離は手裏剣よりも短くなるが、
敵の近くで放てば、複数の銭が当たり
大きなダメージを与えることができる
所持金に応じ、同時に放つ銭つぶてが増える
つまり、大金持ちならば、滅法強い
一方、素寒貧は、ほこりが出るだけだ

瑠璃の手裏剣
源の瑠璃の恩寵を授かった手裏剣
形代を消費して、使用する
瑠璃の刃は、ＨＰへの攻撃力が高い
また、敵のＨＰと体幹をガードの上から削り、
敵を貫いても尚、その勢いが衰えることはない
瑠璃色の輝きを放ちながら飛ぶ様は、
さながら箒星である



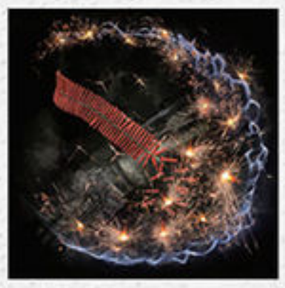
ロバトの爆竹
南蛮に由来する爆竹
忍義手に仕込めば、義手忍具となる
とても大きな音が鳴り、獣を払う
小さきロバトとその父は、
この爆竹を売り込み、路銀を稼いだ
父子が日の本まで流れ着いたのは、
ロバトの命を永らえるため
死なずを求めてのことだったとか



爆竹
ロバトの爆竹を仕込んだ義手忍具
形代を消費して、使用する
大きな爆裂音と光を発生させて敵を怯ませ、
獣には体幹ダメージも与える
前方に広い効果範囲を持ち
一度に複数の敵を巻き込むことができる
当たった敵の動きを止めるのに適し、
とりわけ獣は大きく怯む

爆竹・バネ式
バネ絡繰りで強化された爆竹
形代を消費して、使用する
大きな炸裂音と光を発生させて敵を怯ませ、
獣には体幹ダメージも与える
バネ絡繰りで力を溜めて放つと、
回転の勢いと共に爆竹をばらまき、
周囲の全方位の敵を巻き込める

長火花
火薬の配合を改良した強化爆竹
形代を消費して、使用する
配合を変えた火薬は、長火花という
黒色煙硝の比率を増やすことで、
通常の爆竹よりも長く残り、効果が持続する
しばし、爆竹の火花が咲くのだ



紫煙火花
紫煙が立ちのぼる配合の強化爆竹
形代を消費して、使用する
配合を変えた火薬は、紫煙火花という
脂燭の瘤を混ぜ込むことで、
通常の爆竹よりも、遅れて炸裂する
また爆竹で怯んだ直後の敵に対しては、
与えるＨＰ・体幹ダメージが微増する

火吹き筒
火を吹き出す鉄筒
忍義手に仕込めば、義手忍具となる
暴れ狂う赤目は、人の力で抑えることは難しい
だが、火吹きの武具ならば、
赤目に抗する術となろう
奴らは何より、火を恐れるのだ

火吹き筒
火吹き筒を仕込んだ義手忍具
形代を消費して、使用する
吹き出す火で、敵にダメージを与える
敵を炎上状態にすることができる
暴れ狂う赤目は、人の力で抑えることは難しい
だや、やつらは何より火を恐れる
火吹き筒ならば、怯ませることができる

火吹き筒・バネ式
火薬を充填する仕掛けを施した火吹き筒
形代を消費して、使用する
吹き出す火で、敵にダメージを与える
敵を炎上状態にすることができる
バネ絡繰りで力を溜めて放つと、
巻き込んだ空気が火を激しく燃やし、
敵をも吹き飛ばす爆炎を放つ

息長の火吹き筒
くすぶり松脂を筒薬とした火吹き筒
形代を消費して、使用する
吹き出す火で、敵にダメージを与える
敵を炎上状態にすることができる
絡繰り筒の中で、くすぶる松脂により、
火を吹き出し続けることができる

瑠璃の浄火
源の瑠璃の恩寵を授かった火吹き筒
形代を消費して、使用する
吹き出す紫の火は、
怨霊へもダメージを与える
ただし、この火は「炎上」効果を持たない
瑠璃の浄火は、神宿り
凝った怨念は、その火に焼かれよう

飛び猿の忍び斧
忍びの使う重い黒鉄の斧
忍義手に仕込めば、義手忍具となろう
無骨なこれは、斬るというよりは
その重さで叩き壊すためのものだ
落ち谷の飛び猿と呼ばれた忍びが、
かつて愛用した忍具
だが飛び猿は、左の腕と共にこれを失った

仕込み斧

飛び猿の忍び斧を仕込んだ義手忍具
形代を消費して、使用する

仕込み斧の強さは、重さにある
敵の攻撃に怯むことなく叩きつける一撃は、
木盾程度ならば、やすやすと破壊する

仕込み斧・バネ式

バネ絡繰りで強化された仕込み斧
形代を消費して、使用する

仕込み斧の強さは、重さにある
敵の攻撃に怯むことなく叩きつける一撃は、
木盾程度ならば、やすやすと破壊する
バネ絡繰りで力を溜めると、
斧の重みも合わさった、範囲の広い
振り回し攻撃を繰り出せる

仕込み斧・火打ち式

火打ちの撃鉄を付けた仕込み斧
形代を消費して、使用する

斧の刃に火を纏った攻撃を、
繰り出すことができる
火打ちの撃鉄は、叩きつけると
激しい爆炎を起こし攻撃範囲が広がる
これは重い刃であり、火器でもあるのだ

瑠璃の斧

源の瑠璃の恩寵を授かった仕込み斧
形代を消費して、使用する
瑠璃の重い刃で、
敵のガードの上からでもダメージを当てる
叩きつければ、瑠璃の音が響き渡る
その澄んだ響きは、まぼろしをもかき消す

錆び丸

斑な緑青の刃をした、古い小太刀
忍義手に仕込めば、義手忍具となる
いにしえの昔、葦名に攻め寄せた
人ならぬ一族に抗するため
葦名衆が鍛えたもの
あやかしを退けたは、
青錆びの毒の賜物とか

錆び丸

錆び丸を仕込んだ義手忍具
形代を消費して、使用する
錆び丸と刀を使った連撃を繰り出す
その刀の青錆びの毒が、
敵の身体を蝕み「中毒」状態にする
青錆びの毒は、いにしえの戦いで
人ならぬ、淤加美の女武者らを退けたという
その血筋に連なる物にもまた、有効だろう

錆び丸・表裏

刃を繰り出す機構を改良した錆び丸
形代を消費して、使用する

その機構の変化により
表裏の異なる連撃を切り替えながら、
戦うことができるようになった
錆び丸の青錆びの毒は、
敵の身体を蝕み「中毒」状態にする

貫きの錆び丸

鋭利な刃となった錆び丸
形代を消費して、使用する

研ぎ澄まされた鋭利な刃の連撃は、
敵のHPと体幹をガードの上からでも
削り取っていく
錆び丸の青錆びの毒は、
敵の身体を蝕み「中毒」状態にする

瑠璃の錆び丸

源の瑠璃の恩寵を授かった錆び丸
形代を消費して、使用する

瑠璃と青錆びが混じりあった刃からは、
振るうたび、青錆びの毒霧が生じる
いにしえより錆び丸に凝っていた青錆びを
瑠璃が融かし、刃に浮き上がらせたのだ

形部の折れ角

鬼庭形部雅孝がかつて手にした名槍・一本角
その折れた刃
忍義手に仕込めば、義手忍具となる

一本角は、その刃の返しで敵を引き寄せ、
時に粗雑な鎧ならば、剥ぎ取ったものだ
だが、国取り戦の最中、一本角は折れた
一心は、「見事な折れぶりよ」と褒め称え、
敵将・田村主膳の十文字槍を下賜したという

仕込み槍

形部の折れ角を仕込んだ義手忍具
形代を消費して、使用する

柄の長さを活かした突き攻撃を繰り出す
攻撃を当てたのち、軽い敵を引き寄せる
大柄な者の身に合わぬ鎧ならば、
引き剥がすことができる
大柄な者は、往々にして身に合わぬ鎧を
無理に着込むことがある
そうした鎧ならば、容易く引き剥がす
世に言う、形部の鎧剥ぎよ

仕込み槍・突式

バネ絡繰りで強化された仕込み槍
形代を消費して、使用する

柄の長さを活かした突き攻撃を繰り出す
攻撃を当てたのち、軽い敵を引き寄せる
大柄な者の身に合わぬ鎧ならば、
引き剥がすことができる
バネ絡繰りで力を溜めれば、
その勢いで、槍を構えた突撃を繰り出せる

仕込み槍・回転式

バネ絡繰りをさらに強化した仕込み槍
形代を消費して、使用する

柄の長さを活かした突き攻撃を繰り出す
攻撃を当てたのち、軽い敵を引き寄せる
大柄な者の身に合わぬ鎧ならば、
引き剥がすことができる
バネ絡繰りで力を溜めれば、
その勢いで、薙ぎ払い攻撃を繰り出せる

螺旋号

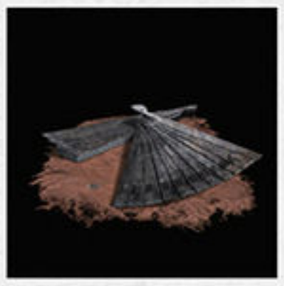
刃に螺旋が刻まれた仕込み槍
形代を消費して、使用する

螺旋の回転を伴った突きを繰り出せる
その鋭利な攻撃は、敵のHPと体幹を
ガードの上からでも削り取っていく
穂先を尖らせるばかりが、槍ではない
螺旋が渦を巻き、抉り、貫き通すのだ

火走り

火打ちの撃鉄を付けた仕込み槍
形代を消費して、使用する

槍の穂先に火を纏った攻撃を、
繰り出すことができる
力を溜め、槍を大きく薙げば火が走り、
敵を薙ぐとともに、激しい火で焼く
これは鋭き槍であり、火器でもあるのだ



金城鉄壁

遥か西方で作られた鉄の扇
忍義手に仕込めば、義手忍具となる

熟練した鉄扇の遣い手は、
これで矢でも弾でも弾き返すという
仙峯寺に仕える、らっぱの衆
その代々の長が受け継ぐ、相伝の鉄扇
だが、受け継がれてきたものは、何かと重い
手放したくなる者がいても、おかしくはない

仕込み傘

鉄扇・金城鉄壁を仕込んだ義手忍具
形代を消費して、使用する

鉄扇を傘のように開き、
全方位の敵の攻撃をガードする
また軽い攻撃であれば、受けながら移動できる
だが、これは傘だ
下段攻撃をガードすることはできない

仕込み傘・磁鉄軸

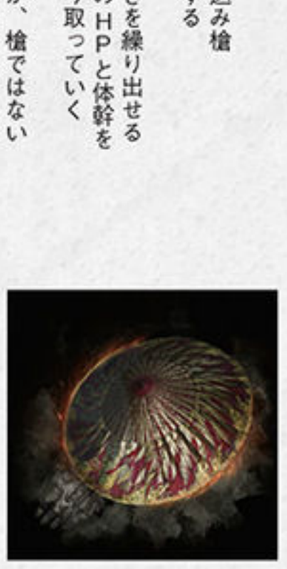
磁鉄で鍛えた軸を持つ仕込み傘
形代を消費して、使用する

鉄扇を傘のように開き、
全方位の敵の攻撃をガードする
また軽い攻撃であれば、受けながら移動できる
磁鉄で鍛えた、硬く粘り強い軸を持つ
傘を開いたままでも、
回して敵の攻撃を弾くことができる

鳳凰の紫紺傘

紫紺の鳳凰が描かれた仕込み傘
形代を消費して、使用する

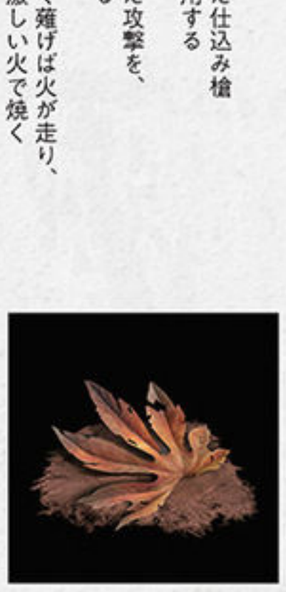
鉄扇を傘のように開き、
全方位の敵の攻撃をガードする
また軽い攻撃であれば、受けながら移動できる
鳳凰の恩寵が神宿らせ、
怨霊の類からの攻撃を、防ぐことができる



朱雀の紅蓮傘

紅蓮の朱雀が描かれた仕込み傘
形代を消費して、使用する

鉄扇を傘のように開き、
全方位の敵の攻撃をガードする
また軽い攻撃であれば、受けながら移動できる
朱雀の恩寵が火を鎮め、
火の攻撃のダメージと「炎上」の蓄積を防ぐ



大うちわ

赤く色づく八つ手の葉で作られた、大うちわ
忍義手に仕込めば、義手忍具となる

これで扇ぐと大きな渦風が起こり、
巻き込まれると、神隠しに合うと伝わる
八つ手のうちわで神隠し
一度は良いが、二度目は帰れぬ
神隠しにあったなら、金剛山に参ろうぞ
金剛山の仙峯寺、そこで功徳を積むが良い

神隠し

大うちわを仕込んだ義手忍具
形代を消費して、使用する

渦風を集めて解き放ち、
巻き込んだ敵に後ろを向かせる
これは、すぐに帰れる小さな神隠し
だが、以前も神隠しにあった者は、
再び神隠しにあえば、帰ってこれぬという

二神隠し

大きな渦風を起こす大うちわ
形代を消費して、使用する

大きな渦風を集めて解き放ち、
巻き込んだ敵に後ろを向かせる
二度続けて、放つことができる
これは、すぐに帰れる小さな神隠し
だが、以前も神隠しにあった者は、
再び神隠しにあえば、帰ってこれぬという

御寄進回し

枯れて黄金に色づいた大うちわ
形代を消費して、使用する

黄金の渦風を集めて解き放ち、
巻き込んだ敵に後ろを向かせる
二度続けて、放つことができる
回された者は、持っていた品や銭を落とす
それは御寄進である。ありがたし

霧がらすの羽

霧がらすの羽を、束ねたもの
忍義手に仕込めば、義手忍具となる
蕎名より北に離れた薄井の森には、
正体掴めぬ猛禽が棲む
中でも霧がらすは、
確かにいるが捕らえた者はおらぬ
掴まえたとて、羽を残して消えてしまうのだ

霧がらす

霧がらすの羽を仕込んだ義手忍具
形代を消費して、使用する
構えた状態で攻撃を受けると、
霧のように瞬時にかき消え、移動する
掴まえたと思っても、羽が残るばかり
それが霧がらすである

老い羽の霧がらす

羽先に切れ込みを入れた霧がらす
形代を消費して、使用する
構えた状態だけでなく、
ダメージを受けたあとでも、
霧のように瞬時にかき消え、移動する
老いた霧がらすに似せて
わずかに入れた羽先の切れ込みが、
瞬時に霧に融けやすくするのだ

ぬし羽の霧がらす

緋羽混じりの霧がらす
形代を消費して、使用する
構えた状態だけでなく、
ダメージを受けたあとでも、
霧のように瞬時にかき消え、移動する
ぬしの霧がらすに似せて、緋羽に染めてある
かき消えるとき、その羽は燃え盛る
ぬしとは土地神。神に触れれば、ただで済まぬ

ほそ指

年若い女の、ほそ指
忍義手に仕込めば、義手忍具となる
獅子猿の腹の内にあったもので
溶けかけている
指笛と言う、忍びの術がある
獣の類を狂わせる術だ
それを用いたものは、指に穴を開けている
このほそ指には、その跡がうかがえる

義手忍具強化

指笛

ほそ指を仕込んだ義手忍具
形代を消費して、使用する
指笛の音色は、敵の注意を引き
音が鳴った所まで、おびき寄せられる
また、ターゲット固定により
狙った敵だけに音を聴かせることもできる
この指笛の音は、獣の類を狂わせる
狂った獣は、敵味方の区別なく襲う

山びこ

山びこ吹きができる指笛
形代を消費して、使用する
指笛の音色は、敵の注意を引き
音が鳴った所まで、おびき寄せられる
また、ターゲット固定により
狙った敵だけに音を聴かせることもできる
大きく息を吸い、山びこ吹きをすると、
遥れて音を鳴らすことができる

泣き虫

泣き虫の指輪によって強化された指笛
形代を消費して、使用する
獣の類を狂わせるだけでなく、
怨霊の類を苦悶させ、隙をつくることができる
泣き虫の指輪の裏には「川蝉」と彫られている
落ち谷の水辺で、川蝉は泣いていた
いまは、もういない

鉄屑

蕎名の国で採れる鉄の屑
強化義手忍具の作成の基本となる簡薬
作成に広く使われる
蕎名は雪深く土地も痩せているが、
鉄屑は、砂鉄とは呼べぬほどに粒が大きい

磁鉄屑

蕎名の国で採れる磁鉄の屑
強化義手忍具の作成の基本となる簡薬
中段階以降の作成に、広く使われる
磁鉄で鍛えると硬い鋼となる
蕎名にとって磁鉄は、貴重な銭の種だ
だが、これが採れる岩盤は稀で、
掘り尽くされつつある

金剛屑

白色に鈍く輝く金剛鉄の屑
強化義手忍具の作成の基本となる簡薬
深い段階の作成に、広く使われる
金剛屑は、蕎名の中でも、
ひと際古い土地のみで採れる
古い土や岩は、神を寄せるとも言われる
その恩寵か、金剛鉄は実にしなやかで強い

黒色煙硝

火薬の元となる黒い煙硝
術にまつわる強化義手忍具を作成する簡薬
火薬の強化と、呪物としての強化、
いずれにも用いられる
煙硝の中では、ありふれたものだが
応用の幅は広い

黄色煙硝

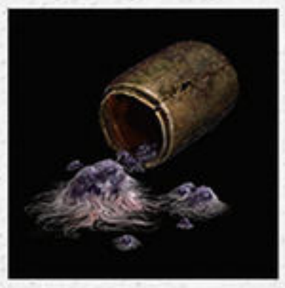
強力な火薬の元となる黄色い煙硝
落ち谷で取れる貴重なもの
火薬にまつわる強化義手忍具を作成する簡薬
中段階以降の作成に、使われる
黒色煙硝よりも強い発破を起こせる
落ち谷の鉄砲砦も、
この黄色い煙硝があってこそである

雷汞

凄まじい威力の火薬の元となる、
特別貴重な煙硝
火薬にまつわる強化義手忍具を作成する簡薬
深い段階の作成に、使われる
南蛮由来の知識で作りだされたもので、
その製法は内府方が秘匿している
内府の軍の火勢が留まるのを知らぬのは、
この雷汞の力ゆえでもある

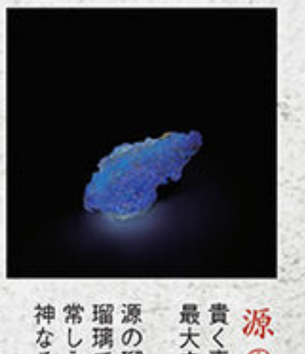
脂蝋の瘤

人の体にまれに生じる脂蝋の瘤
呪物にまつわる強化義手忍具を作成する簡薬
中段階以降の作成に、使われる
この瘤は病の予兆であり、
病が重くなるほどに、育つという



死蝋の瘤

人の体内で黒々と育った死蝋の瘤
呪物にまつわる強化義手忍具を作成する簡薬
深い段階の作成に、使われる
長く長く、死なず病を患えば、
自ずと瘤も黒々と育つ
瘤取りが済めば、水に流すが習わしだ



源の瑠璃

貴く青い源の瑠璃
最大まで強化された義手忍具を作成する簡薬
源の瑠璃には、常しえがある
瑠璃で鍛えたものは、
常しえに砕けることも、錆びることも無い
神なる竜の恩寵を受けるがゆえだ
鍛えた義手忍具は、人知を越えた賜わりもの
神なる竜の神器と称されよう

まぼろしクナイ

まぼろしお蝶の使ったクナイ
「手裏剣」の強化義手忍具の作成に使える
投げると音が鳴り、
クナイを追ってまぼろしの蝶々が飛ぶ
うら若き頃、お蝶は、蕎名より北に離れた
薄井の森にて修行を積んだ
彼の森は、霧とまぼろしで満ちている
幻術を修めるには、またとない場所だ

泣き虫の指輪

ほそ指に似合う、古い指輪
指輪の裏には「川蝉」と彫られている
「指笛」の強化義手忍具の作成に使える
この指輪をはめて、指笛を吹くと
悲しげな音が、響き渡る
泣き声は、寂しく美しい
燃える怨嗟を、ほんの一時、忘れるほどに

くすぶり松脂

消えぬ火が、くすぶり続ける松脂
「火吹き筒」の強化義手忍具の作成に使える
水生村を覆う森には、
かつてこの松脂が取れる黒い松があり、
くすぶる火は、村への道しるべであった
だが、いつしか水生の者は火を忌み始めた
ゆえに黒松は失われ、
その守り人もまた、嫌われ者である

成長アイテム

数珠玉
ちぎれた数珠の玉
4つ集めて鬼仏に供えると、身体力が成長し、
HPと体幹の最大値が上昇する

念珠を成す数珠玉は、それを持つにふさわしい
強者たちが持っている

一の念珠
葦名衆の武人としての名声は諸国に轟くが、
とりわけ侍大将となる者は、剣の才に秀でる
みな一心の興した葦名流の、優れた遣い手だ

二の念珠
葦名には、赤鬼と呼ばれる大男がいる
赤目となり、暴れ狂うは何ゆえか
長く捨て牢に囚われていたというが…

三の念珠
火牛とは、ただの暴れ狂う牛。それだけだ
先の大戦で、葦名の侍の屍は山と積み上がった
何だろうと使わねば、もはや立ち行かぬのだ

四の念珠
葦名の城の中枢には、葦名流の伝場がある
葦名流の達人のみが、足を踏み入れる場だ
時折、ふらりと一心も訪れ、皆のしていく

五の念珠
落ち谷の鉄砲砦、取り仕切るのは男ではない
蛇の目と呼ばれる、石火矢遣いの女たちだ
遥か遠方を射抜く、特別な目を持つという

六の念珠
百足衆は、己の「星」を探す者たちだ
星を見出せば、それに仕え、時に名すら変える
百足衆の長は「長手」と呼ばれ、鉤爪を持つ

七の念珠
ある大大名に仕える、類まれな相撲取りがいた
だが酒に溺れ、放逐され、野盗に落ちた
その後の名は、うわばみの重蔵という

八の念珠
内府が最も信頼する忍びは、孤影の衆だろう
長である織部正綱には、十七人の子がおり、
各々が毒手や忍犬など、得意とする秘技を持つ

九の念珠
ロバトの父は、遥か南蛮より日の本に来た
息子の病を癒すため、死なずを求めたのだ
千本刀にて、変若の恵みを賜わる約束だ…

十全の念珠
葦名の七本槍は、国盗りの戦の要であった
一心は最も信を置く侍たちに、槍を授ける
だが今や、槍の穂先も、残りわずかだ

瓢箪の種
薬水が湧き出す源となる種
エマに渡すことで
傷薬瓢箪の使用回数上限を増やせる

瓢箪の薬水が、自ずと湧き出す種はこれである

稀代の薬師・道玄
その弟子エマは、葦名に古くから伝わる
薬水の曲がり瓢箪を詳しく調べ、
この種を解き明かした

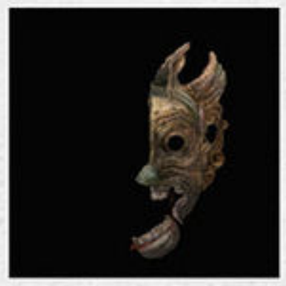
桜雫
不死の契約成らざる時に、
引き換えに残ると伝わる桜色の結晶

回生の力を、一回分成長させる効果がある

不死の契りをやり直し
新たな回生の力を授かるには、
竜胤の御子の助けが必要だろう

舞い面の破片・右面
古い舞い面の破片の一つ
これは面の右側のようだ

元は一つの面だったのだろう



舞い面の破片・左面
古い舞い面の破片の一つ
これは面の左側のようだ

元は一つの面だったのだろう

舞い面の破片・竜頭
古い舞い面の破片の一つ
これは面の飾りのようだ

元は一つの面だったのだろう

竜の舞い面
竜頭が冠された舞い面
割れていた破片を、つなぎ合わせたもの

これを所持していれば
鬼仏でスキルポイントを消費して、
攻め力を強化できるようになる

源の宮で、淤加美の女武者は、
竜がために舞いを捧げた
すると不思議と力がみなぎったという

使用アイテム

帰り仏
手のひらに収まる、小さな木仏
何度でも使用することができる

義父に拾われた時から、狼が持っていたもので
角が取れて丸くなっている

これは帰るための仏
最後に対座した鬼仏か、荒れ寺に戻る

寄鷹筒
遠くのものを見るための竹筒

元より忍びは目が良いが、
この筒を覗き、片目のみに専心すれば
より遠くまで見通せるようになる

寄鷹の衆は、葦名一心お抱えの忍び
葦名の城の屋根上を守り、
外敵に睨みを利かせている
それも、この寄鷹の目があってこそである

幻廊の鈴
古びた銅で作られた五鈷鈴
何度でも使用することができる

これを鳴らせば、
幻廊にいる猿たちも狼も、最初の状態に戻る

ただし、屏風の中に掴まえた猿は、
鈴を鳴らしても、逃げ出すことはない

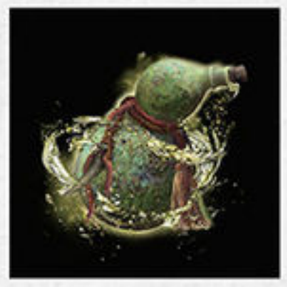
形代流し
刃も柄も真白い短刀
HPを形代に変換する
休息することで、再び使用することができる

本来、この短刀は形代流しに使われる
白い刃で削り出した己の形代を、
源の水に流し、竜に奉る儀式だ

刻まれた銘は、「奉魂」
それがこの短刀の真の名

傷薬瓢箪
HPを回復させる薬水の入った瓢箪
休息することで、瓢箪の薬水は再び満たされる

稀代の薬師・道玄
その弟子の一人が、作り出したもの
自ずと薬水が湧き出すなど奇妙だが、
そこには種がある



緑苔の曲がり瓢箪
薬水の入った、苔むした曲がり瓢箪
休息することで、瓢箪の薬水は再び満たされる

「中毒」の蓄積を減らし、その耐性を高める
ただし、「中毒」状態の治癒はできない

緑苔の瓢箪は、毒地に生え、毒に抗い育つ
同じように、毒地で生まれ育つ生き物は、
毒の影響を受けぬようになるという

赤枯れの曲がり瓢箪
薬水の入った、赤く枯れた曲がり瓢箪
休息することで、瓢箪の薬水は再び満たされる

「炎上」の蓄積を減らし、その耐性を高める
また、炎によるダメージを軽減する
ただし、「炎上」状態の治癒はできない

この瓢箪は、焦土より芽を出し、曲がり育つ
故にその薬水は、炎に抗う力を持つのだろう

まだら紫の曲がり瓢箪
薬水の入った、まだらな紫の曲がり瓢箪
休息することで、瓢箪の薬水は再び満たされる

「怖気」の蓄積を減らし、その耐性を高める

この瓢箪は、墓場や戦場跡といった
忌み場で芽吹き、曲がり育つ
故にその薬水は、怖気に抗う力を持つのだろう

五色米
忍びが目印に使う、五色の米が入った瓢箪
地面に撒けば、目印となる

白い瓢箪には豊穣の加護があり、
鬼仏で休息すれば、米が再び満たされる

ただ、生憎と食べられはしない

丸薬
HPをゆっくりと回復させる丸薬

この地に古くより伝わる秘薬
いにしえの戦でも使われた記録があり
葦名の不倒を世に知らしめたという

丸薬を入れた印籠は、
戦勝の御守り代わりでもある

お米

変若の御子の手のひらより、零れ落ちたお米
一定時間、HPがゆっくりと中回復する

偽りなれど、竜胤の力
その血は豊穣をもたらす

お米は大事
噛めば噛むほど甘くなり、元気も出るだろう

細雪

変若の御子の手のひらより
零れ落ちた、つめたい白銀のお米
HPがゆっくりと中回復する
お米よりも、その回復量はわずかに増している

つめたさは、米を甘くする

お米はやはり大事
噛めば噛むほど、ますます甘く、
ますます元気も出るだろう

おはぎ

変若の御子がくれたお米で、
九郎がこしらえてくれた、おはぎ
一定時間、HPがゆっくりと中回復し、
加えて体幹が常に回復するようになる

腹を空かせた狼に、
黙って義父は、おはぎをくれた
あのおはぎは、とてもうまかった

このおはぎも、きっと、とてもうまい

おはぎ

九郎がくれた、おはぎ

これは、密かに秘めた決意と
惜別をこめて、こしらえたもの

秘められた想いとは、
誰もいないとき、一人で呟くものだろう

柿

赤く熟した、食べ頃の柿
一定時間、攻撃中やダメージ中でも
常に体幹が微回復するようになる

水が良いのか、葦名の柿は滋養がある
柿は血となる。血は米となる

血が足りぬ者には、
食わしてやると良いだろう

太郎柿

ひときわ赤く熟した、実に食べ頃の柿
こうした柿を、太郎柿と呼ぶ

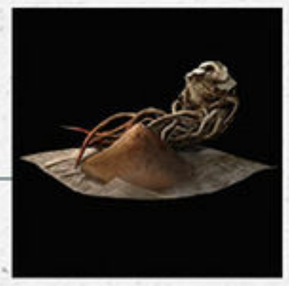
一定時間、攻撃中やダメージ中でも
常に体幹が回復するようになる

葦名の太郎兵は、柿をたくさん食べて育つ
ゆえに食べ頃を心得ている

毒消し粉

落ち谷の衆が煎じた毒消しの粉薬
状態異常「中毒」の蓄積を減らして治癒し、
一定時間、その耐性を高める

落ち谷の底には磁鉄の鉱脈があるが、
あたりは毒だまりである
ゆえに鉱脈掘りのため、毒消し粉は欠かせない



火消し粉

火傷治しの粉薬
状態異常「炎上」の蓄積を減らして治癒し、
一定時間、その耐性を高める
また、炎攻撃によるダメージを軽減する

戦時には、火攻めへの備えとして、
火消し粉は欠かせぬものである

赤備えの火消し粉

内府方が備え持つ、火傷治しの粉薬
状態異常「炎上」の蓄積を減らして治癒し、
一定時間、その耐性を高める
また、炎攻撃によるダメージを軽減する
その効果は、通常の火消し粉よりわずかに高い

変若水で生まれる、葦名の赤目
それを恐れたか、内府方は火で攻め寄せた
これは自ら焼かれぬための備えである

怖気消し

忌み仕事の者が用いる、怖気を抑える粉薬
状態異常「怖気」の蓄積を減らし、
一定時間、その耐性を高める

墓守や、介錯人、あるいは供養衆…
忌み仕事の者たちは、
怖気への備えにこれを持つ

そして備えは、今一つ。怖気したなら、尻隠せ

うな胆

葦名衆が神棚に供える、雷払いの妙薬
一定時間、雷攻撃によるダメージと
状態異常「打雷」になったときの
ダメージを軽減する

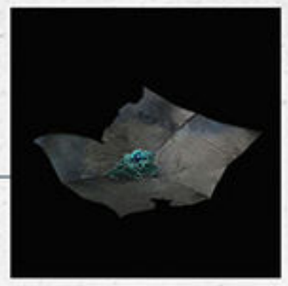
雷とは、源の神鳴りだ
うなぎは、矮小なれど竜の眷属
神鳴りも、しばらくならば抑えられよう

中り薬

毒に中る粉薬
葦名の忍びが、古くから用いたもの

口にすると、弱い「中毒」にかかる
自らの身体に毒を取り入れることで、
他の毒を全て無効化できる

ある類の術のため、この薬を用いる忍びもいる
毒も使いようと心得るゆえに

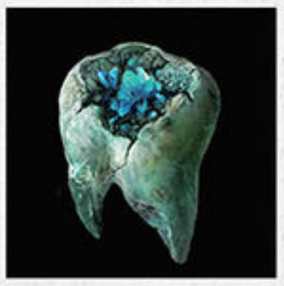


噛み締め

忍びの青い秘薬
自ら死ぬべき時もある
侍は誇りのため自刃するが、
忍びには、速やかに死ぬことが必要だ

秘薬は使うとき、奥歯で噛み締める
それだけで、死ねる

自死からの回生後は、回生使用制限は生じない

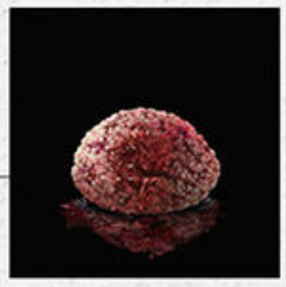


奥の歯

忍びの青い秘薬が仕込まれた差し歯
使用じても、消費しない

使うときは、奥歯を噛み締める
そうすると、幾度でも死ねる
使いようによっては、役立つかもしれない

だが、覚えているだろうか
普通は、一度死んだらおしまいだ



赤成り玉

食らえば赤目と成る、赤く丸い塊
赤目になれば、敵の攻撃に怯みづらくなる
ただし、回生の力は使えなくなる

赤成り玉は、
成りたいものに、成れなかった者の名残り
触れば仄かにあたたかく、脈を売っている

赤成り玉

赤目と成り果てた陣左衛門と小太郎
その体内にあった、赤く丸い塊

食らうと赤目となり、
敵の攻撃に怯みづらくなる
ただし、回生の力は使えなくなる

この赤く丸い塊は、常しえに朽ちぬ
害はないが、効力が切れたのちも
きっと腹の中にずっと残るだろう

師弟の赤成り玉

赤目と成り果てた道順
その体内にあった、赤く丸い塊

食らうと赤目になり、
敵の攻撃に怯みづらくなる
ただし、回生の力は使えなくなる

道策と道順は、まさしく師弟であった
こう在りたいと追い求める理想の姿は、
往々にして自らの内にこそある

神食み

HPを完全に回復させる、いにしえの秘薬
全ての状態異常も、併せて回復する

葦名のひと際古い土地に生える草木には、
名も無き小さな神々が寄っていたという
これは、そうした草木を練り上げ作られる
神々を食み、ありがたく戴く秘薬である

だが、神なる竜が根付いたのちは、
そうした小さな神々は、姿を潜めてしまった…

阿攻の飴

仙峯寺が作る「阿攻」の加護を受ける飴
一時、攻撃力と体幹攻撃力を強化する

飴を噛みしめ、「阿攻」に構えることで
人ならぬ御霊の加護を自らに降ろす

御霊降ろしは、人の身に余る御業
ゆえに飴を噛み締め、こらえるのだ

吽護の飴

「吽護」の加護を受ける飴
一時、物理攻撃によるHPダメージを軽減する

飴を噛みしめ、「吽護」に構えることで
その加護を自らに降ろす

御霊降ろしは、人の身に余る御業
ゆえに飴を噛み締め、こらえるのだ
仙峯寺は護国の勇者たちのため、
これを葦名に広めた

剛幹の飴

忍び狩りの弥山院が作り、卸している
「剛幹」の加護を受ける飴
一時、体幹ダメージを軽減する

飴を噛みしめ、「剛幹」に構えることで
その加護を自らに降ろす

弥山院の者は、忍び狩りの術を心得る
忍びと戦うならば、
体の軸をぶらさぬのが肝要だ

月隠の飴

仙峯上人が、らっば衆に授けた飴
一時、音と気配を殺し、
敵に見つかりにくくなる

飴を噛みしめ、「月隠」の構えを取ることで
その加護を自らに降ろす

らっばの衆は、仙峯寺の裏の仕事を担う
元は寺を護るための忍びであったが、
今は、死なずの探求の手足である

夜叉戮の飴

仙峯寺が作る「夜叉戮」の加護を受ける飴
一時、最大HPと体幹が大きく減少するが、
攻撃力と体幹攻撃力を大きく強化する

飴を噛みしめ、「夜叉戮」に構えることで
人ならぬ御霊の加護を自らに降ろす

夜叉戮の飴は、仙峯寺で禁制とされる
だが、死なずの探求は金を食う
寄進と引き換えに、寺外にもばらまかれた

阿攻の御霊降ろし

「阿攻」を身に降ろす、首無しの遺魂
一時、攻撃力と体幹攻撃力を強化する
形代を消費すれば、何度でも使用できる

首無しは、かつて護国のため、
道を踏み外した勇者の成れの果て

人ならぬ御霊は、降ろせば力となるが、
代わりに差し出すものなくば、やがて狂う

吽護の御霊降ろし

「吽護」を身に降ろす、首無しの遺魂
一時、物理攻撃によるHPダメージを軽減する
形代を消費すれば、何度でも使用できる

首無しは、かつて護国のため、
道を踏み外した勇者の成れの果て

護国に狂った武者は、
乱を企て首を刎ねられ、その身は堀に沈んだ

剛幹の御霊降ろし

「剛幹」を身に降ろす、首無しの遺魂
一時、体幹ダメージを軽減する
形代を消費すれば、何度でも使用できる

首無しは、かつて護国のため、
道を踏み外した勇者の成れの果て

鎮めの首塚はあるが、長く参るものはいない

月隠の御霊降ろし

「月隠」を身に降ろす、首無しの遺魂
一時、音と気配を殺し、
敵に見つかりにくくなる
形代を消費すれば、何度でも使用できる

首無しは、かつて護国のため、
道を踏み外した勇者の成れの果て

己がもう狂っている
それを悟り、男は一人、森奥へ消えた

夜叉戮の御霊降ろし

「夜叉戮」を身に降ろす、首無しの遺魂
一時、最大HPと体幹が大きく減少するが、
攻撃力と体幹攻撃力を大きく強化する
形代を消費すれば、何度でも使用できる

首無しは、かつて護国のため、
道を踏み外した勇者の成れの果て

この勇者は、双子として生まれるはずだった
二人いたならば、宮の貴族に敗れるなどは…

陶片

投げると、良い音で割れる陶片
敵に投げれば、注意を引くぐらいはできる

葦名の男児の間では、これを投げ割る
「わりっこ」が流行りの遊び
大人になっても、みな名手である

にぎり灰

灰をにぎり固めたもの
敵に投げつければ、目くらましにはなる

葦名の国は雪深く
囲炉裏の灰ならいくらでもある

油

ただの油
壺が割れたら、あたりに飛び散る

敵の身体にかけることで燃えやすくし、
炎によるHPダメージを上昇させるとともに
「炎上」耐性を弱める

種鳴らし

指で潰すと大きな音が鳴る、紫華鬘の種子
幻術の効果を、打ち消すことができる

幻術には、必ずそれを生みだす者がいる
まぼろしを真に打ち消すには、
術者を倒すことだ
種鳴らしは、そのための助けとなるだろう

神ふぶき

怨霊払いの加護を持った紙ふぶき
紙を抄くというが、
源の水で行うそれは、神を掬うことでもある

神宿りの紙ふぶきは、浴びた者に加護を降ろす
怨霊の類にも、攻撃が通じるようになる

銭寄せのミブ風船

源の水を内に秘めた、招財祈願のミブ風船
黄色いミブ風船を割り拝み、
その水を浴びたものは、
一時的に銭の入手量が上昇する

ミブは水生。水が生れることを指す
葦名衆にとって、源の水は、
それ自体が詣での対象なのだ

魂寄せのミブ風船

源の水を内に秘めた、鎮魂のミブ風船
桜色のミブ風船を割り拝み、
その水を浴びたものは、
一時的に回生の力の入手量が上昇する

一番初めの古いミブ風船
水生の神主は、これを割り拝み
魂鎮めを役目としていた

品寄せのミブ風船

源の水を内に秘めた、招福祈願のミブ風船
若草色のミブ風船を割り拝み、
その水を浴びたものは、
一時的にアイテムの入手確率が上昇する

ミブは水生。水が生れることを指す
葦名衆にとって、源の水は、
それ自体が詣での対象なのだ

形代寄せのミブ風船

源の水を内に秘めた、哀悼のミブ風船
黒白のミブ風船を割り拝み、
その水を浴びたものは、
一時的に形代の入手確率が上昇する

誰かを悼むとき、これを割り拝む
そして、誰かを偲ぶときは、
赤白の風車を供える

竜泉詣でのミブ風船

竜泉詣での年に、
子の健やかな成長を願って作るミブ風船
この白いミブ風船を割り拝み、
その水を浴びたものは、
一時的にすべての入手量と入手確率が上昇する

下手な字で、何か書かれている
「ムジナから、テン吉へ」と読める

軽い銭袋

少しばかりの銭が入った袋
使用すると、銭を獲得する

そこそこ嵩しい重さ
銭袋に入った銭は、死亡喪失しない

重たい銭袋

多くの銭が入った袋
使用すると、銭を獲得する
かなり嵩しい重さ
銭袋に入った銭は、死亡喪失しない

はちきれそうな銭袋

あふれんばかりの銭が詰まった袋
使用すると、銭を獲得する

狼とて、微かに笑みがこぼれる重さ
銭袋に入った銭は、死亡喪失しない

おくるみ地蔵

赤い布に包まれた小さな童地蔵
手のひらに乗せ拝むと、
回生の力を一回分獲得できる

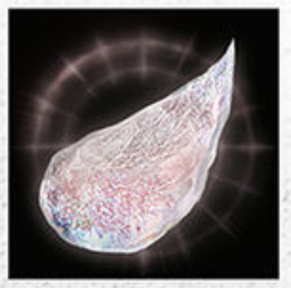
地蔵をくるむのは、親ごころである
くるみ包まれた中、
せめて安らかに命がありますように

陣左のおくるみ地蔵

桜色の布に包まれた小さな童地蔵
手のひらに乗せ拝むと、
回生の力を一回分獲得できる

地蔵をくるむのは、親ごころである

作左様…
どうかこの子を、この布でおくるみください
せめて安らかに命がありますように



竜胤の雫

竜胤の御子から、稀に零れ落ちるもの
使用すると、回生の力をわずかに増やす

「快復の御守り」があれば
この雫を鬼仏に供えることで、
生の力を、それを奪った者たちに返せる
そうして、竜咳に罹った全ての者を快復させる
止まぬ咳が、止まるのだ

手紙・書

竜胤断ちの書

九郎より授かった書物
竜胤を断つための術が記されている
古い物のようで、綴じ紐はほつれ
紙片が所々抜け落ちている

竜胤断ち
それを成す術を、ここに書き残す

源の宮の、さらに神域
仙郷の神なる竜の涙を、戴くべし

竜胤断ちの紙片

丈が遺した竜胤断ちの書の一部のようだ

不死斬りがあれば、
我が血を流すことが叶うはず

血を流せば、香が完成し、仙境にいける
そうすれば不死断ちもできるだろう

竜胤の介錯、如何に巴に頼もうか…

香花の手記

九郎より授かった手記
かつての竜胤の御子、丈が記したもののようだ

巴の一族は、かつて源の香気を集め、
宮に至ったと言う

源より流れ出ずる水こそが、香気の鍵だ
源の水が濃く溜まった場所…
つまり変若水が溜まる場所ならば、
あの白い、香気まとう花が咲いておるやも…

淤加美の古文書

仙郷を目指した淤加美一族が残した古文書

香気の石、蓴名の底の村に祀られたり
身を投げねば、辿り着けようも無し

これで源の香気、揃うたり
仙郷へ、出立のときぞ

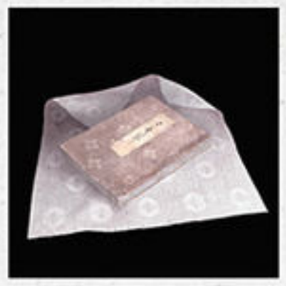
小姓の日記

丈の小姓が書いた古びた日記

香炉の上で、丈様が刀で腕を斬っておられた
だが、不思議なことに、傷は瞬く間に癒え、
血は露ほども流れぬご様子

「あれ無くば、御血は流れませぬ」

巴殿が言われた
「あれ」とは一体、何のことであろうか…



巴の手記

柔らかな字でしたためられた巴の手記

丈様の咳は、ひどくなられるばかり
仙郷へ帰る道は、どうやら叶わぬ
せめて竜胤を断ち、人に返して差し上げたい

人返りには、常桜の花と不死斬りが要る
なれど、花はあれども不死斬りはない
仙峯上人が、隠したのであろう
竜胤を断つなど、あの者は望まぬゆえに…

花菖蒲の文

何者かによって井戸底に投げられた文

九郎殿の狼殿へ

貴殿の宿命、今は月見櫓にあり
井戸底を脱し向かわれたし

刃が無くとも、貴殿ならば
忍び行けば辿り着けましょう

一心の置手紙

一心が、離れの櫓に残した置手紙
エマなら、居場所に心当たりがあるだろうか

エマへ

大手門のあたりが、騒がしい
天狗が鼠を見てくるぞ

心配無用

一心

黒の巻き物

黒の不死斬りについて記された古い巻物

不死斬りには、赤の他に、もう一振りがある
即ち、黒の不死斬り。その銘は「開門」
黄泉への門を開く刀なり

黒は転じて生を成す
竜胤を供物に乞い給え…

永旅経・蟲賜わりの章

長い悟りの旅路へいざなう経典。その一説
「変若の御子に」と見返しに記されている

我、蟲を賜わり、幾星霜

死なずとは、永き悟りの旅路なり
死なぬ訳もまた、悟らねばなるまい

神なる竜は、西の故郷より来られたという
我に、蟲を授けられたは、なにゆえか

永旅経・竜の帰郷の章

永い悟りの旅路へいざなう経典。その一節

我、死なず。竜の帰郷をただ願う
みな死なず、永く待とうぞ

竜胤の御子が、つめたい竜の涙を飲み干し
竜胤の揺り籠が、二つの蛇柿を食すのを
揺り籠の命果てず、御子を宿さば、
西への帰郷は叶うだろう

薬種抄の紙片

蓴名薬種抄の紙片
特別な効能のある草花について記した書の
一枚を破り取ったもの

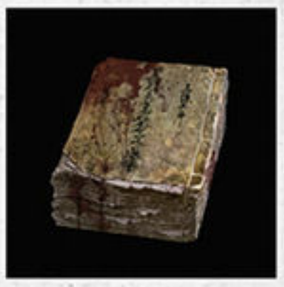
「種鳴らし」は、深い谷あいに生える
落ち谷の者にとって、そういった谷こそが、
ぬしの白蛇への輿入れに相応しいとされる
深い谷で、白蛇の腹の中へ、嫁に行くのだ

鼠相書き

蓴名に忍び込んだ鼠について記された文
鼠を一匹狩ったならば、天狗の元へ行くと良い

鼠について記す

・仙峯寺のらっぱの衆
・小兵にて、笠かぶる
・この鼠、幾匹も潜む
・大手門の辺りなど、怪し



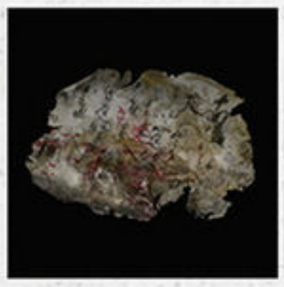
道策の手記

施術師・道策が遺した古い手記

我が弟子は、みな道玄の元へ去った
己が手を汚すことを良しとせぬ、
あの偽善に満ちた卑怯者の元へと…

道順よ。我が最期の弟子よ
儂が死したとて、施術は終わらぬ
蓴名のため、必ずや為せ

道策



血に汚れた施術師の文

捨て牢にいる施術師・道策がしたためた文
ぼろぼろで、血で汚れている

頑強な男、一人　入用

熟達の侍、
若しくは大柄の太郎兵などが、良い
無傷で寄越すべし

道策

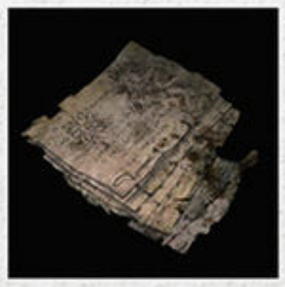
血に塗れた施術師の文

捨て牢にいる施術師・道策がしたためた文
ぼろぼろで、血に塗れている

水生の村の池底に、
常しえに朽ちぬ目を持つ、赤目の鯉あり

桜鯉と言う
その赤目玉を求む

道策



朽ちた囚人の手記

捨て牢の中で朽ち果てていた男の手記

香気の石、蓴名の底の村に祀られておるとか
じゃが「身を投げねば、辿り着けぬ」とは…

淤加美一族の伝承を辿り、ここまで来た
彼の女たち、まこと源の宮に辿り着けたのか
それが知りたいが、どうやら叶わぬようじゃ

小太郎や、小太郎や、すまねえなぁ…

火が出る筒の覚書

穴山の書いた、ぼろぼろの覚書
書いてから数年は経っていそうなもの

売れそうな情報。その三十六

・平田屋敷の押し入りのとき
・すげえ勢いで火が出る筒を、見かけた
・酒盛りたき火の、火もぼーぼー
・きっと忍びの道具

寄鷹の狼煙の覚書

葦名の忍び、寄鷹衆が使う
道しるべの狼煙についての覚書

葦名の城の高い屋根上には、
薄桃色の狼煙が、置かれていることがある

あれは、寄鷹衆の道しるべなのだ

もっとも、あの狼煙を辿れる者など、
奴らだけだろうが…

錆び丸の覚書

小太刀「錆び丸」の在り処についての覚書

葦名の城には、「錆び丸」という名の
とても古い小太刀がある
天守の一番下の階に、安置されていると言う

錆び丸は、いにしえの戦で用いられた、
葦名の宝刀
その刃の青錆びの毒が、
人ならぬ、淤加美の女武者らと退けたという

落ち谷の怨霊の覚書

落ち谷に現れる怨霊についての覚書

落ち谷にある獅子猿の古ねぐらで、
怨霊を見たという者がいる
いくつもの顔を持つ、怨霊だ

獅子猿の古ねぐらは、落ち谷の下層、
霧の森につながる場所にある

古ねぐらでは女の泣くような声もしたとか…

三重塔の覚書

三重塔についての覚書

かつて、平田屋敷の三重塔には、
貴重な宝が納められていたようだ

三重塔は、竹林坂の途中にある崖上にある

その宝は、忍びの術に関わりがあるようだ
嘘か真か「霧が納められている」とか…

忍び技の伝書

忍びの戦う術が書かれた伝書

「忍び技」のスキルを、習得できるようになる

侍には真似できぬ
地に足を付けぬ戦いの技や、
敵に気づかれぬ隠密の身のこなしこそ、
忍び技の極意である

忍び義手技の伝書

忍義手を使った戦いの術が書かれた伝書

「忍び義手技」のスキルを、
習得できるようになる

これは流派と呼べるものではない
忍義手あればこそ意味を持つ、技や体術だ

忍びを捨てた男が、
だが捨てがたく残しておいた研鑽の記録
受け継ぐ者など、よもやあろうとは

葦名流の伝書

葦名流の伝書

「葦名流」のスキルを、習得できるようになる

葦名流は、葦名一心の戦いの歴史である
若き一心は、ひたすらに死闘を重ね、
命の鍔際に立つことで剣技を磨いた

その後、一心は、葦名衆の為に
己の技を研ぎ澄まし、束ね、葦名流と名付けた

仙峯寺拳法の伝書

「仙峯寺拳法」のスキルを、
習得できるようになる伝書

仙峯寺の者は、拳法を修めて功徳を積む
法とは、教えのことである
己の身一つで仏敵を打ち倒すためには、
拳と法、どちらも欠けてはならぬ

だが今や、仙峯寺は死なずに囚われた
法は失われ、その拳もまた歪んでいる

秘伝・葦名無心流の伝書

秘伝・葦名無心流の伝書
「秘伝」のスキルを習得できる

若き一心は、留まることを知らぬ男であった
貪欲に、より強さを、より高みを目指し続け
その果てに国を盗ったのだ

無心に、あらゆる流派を飲みこみ続ける
その心持ちこそが、元来の一心である
ゆえにこの伝書、生涯未完なり

浮き舟渡りの技書

流派技「浮き舟渡り」について
記された技書

入手することで、スキルを習得する

これは、舞うように連撃を繰り出す流派技
流れるような動きと手数により敵を圧倒する
葦名流の剣技ではあるが、異端にあたる
外から来た者が、伝えた技ゆえに

対空忍殺の技書

忍びの体術「対空忍殺」について
記された技書

入手することで、スキルを習得する

これは地に足つけぬ、忍びの戦う技の一つ
中空にて隙をさらす者を、
飛びかかり忍殺する術だ

貴重品

九郎の御守り

九郎が授けた御守り

平田屋敷で狼が一度命を落とし
回生の力を与えた折に、
密かに持たせてくれていたもの

この御守りは、今まで苦難を抑え、
狼を守っていた
手放せば、今までをも越えた、
艱難辛苦の道に挑むことになる

快復の御守り

エマが作った竜咳快復の御守り

これを持って、
鬼仏に「竜胤の雫」を供え祈れば、
生の力を、それを奪った者たちに返せる
そして、竜咳に罹った者たちを快復させるのだ

御守りの中には、竜咳患者の血から
エマが精製した血石が納められている
この血石は、治すべき者たちを定める道標だ

竜咳の血塊

竜咳に罹った者が、
咳とともに吐き出したもの
淀んだ色の血が混じっている

これは、竜咳を治す術を探るため、
エマが求めているものだ

若様の守り鈴

老婆が持っていた守り鈴
仏に供えて欲しいと、老婆は望んでいた

守り鈴は、仏の加護にて持ち主を守るもの
だが、持ち主の手を離れたならば、
仏に供えるのが習わしである

荒れ寺にいる仏師ならば、
供えの作法などにも、きっと詳しいだろう

義父の守り鈴

義父の亡骸からこぼれ落ちた守り鈴

この鈴は義父が長く持っていた
荒れ寺の仏に供えれば、
また異なる古い記憶が見れるだろう

守り鈴のある訳は、もはや知る由もない
義父の為のものなのか、
あるいは渡せなかった、誰かの為か…

抜け穴の鍵

葦名の城外への抜け穴の鍵

月見櫓がある水手曲輪の堀、
その終端に抜け穴はある

九郎は、抜け穴から城外に逃れている
それを追わねばならぬ

詰所の鍵

侍たちの詰所の鍵
葦名城の水手曲輪、
狼が落とされていた井戸底近くに、詰所はある

葦名の侍たちは、鬼形部の折れ角を
有難がって、この詰め所に仕舞っている

折れ角とは、鬼形部の用いた槍の刃
鬼形部の角は、狙った獲物を決して逃がさぬ
敵を引き寄せ、時にその鎧すらも剥いだという

隠し仏殿の鍵

平田屋敷の隠し仏殿の鍵
義父である梟から、受け取ったもの

隠し仏殿は、平田屋敷の最奥にある

二つ、
主は絶対
命を賭して守り、奪われたら必ず取り戻せ

鉄砲砦の社の鍵

鉄砲砦の奥にある社の鍵
社の仏像裏にある扉を、開くためのもの

鉄砲砦の落ち谷衆は、
異敵と見れば、撃ち殺す

中でも、蛇の目の石火矢は、恐ろしい

かの女衆は、いにしえの淤加美の一族の末裔
稀な目を持ち、遥か彼方を容易く射抜く

葦名の酒

葦名の酒が入った徳利
酒とは、振る舞うものである

源から流れ出ずる
清らかな水で作られた酒は、
葦名の民に広く愛されている

どぶろく

白く濁ったどぶろくの徳利
酒とは、振る舞うものである

葦名一心も愛した、この濁り酒は、
実に濃醇である

一方、悪酔いしやすいことでも知られる

猿酒

木のうろに溜まった酒
酒とは、振る舞うものである

猿が木のうろに隠しておいた果実が
かもされて、偶然に酒となることがある

火を吹くほどに辛いが、
それも味わいと、愛飲する物好きもいる

竜泉

澄みきった酒の入った徳利
酒とは、振る舞うものである

竜泉は、葦名の杜氏が作る至高の酒
葦名の米の、その豊穣を
源からの水が、あますことなく引き出すのだ

この酒の味を語るのに、
御託はいらぬ、飲めば分かる

赤白い風車

赤白の紙で作られた、小さな風車
金剛山の道半ばにあった

くるくる回る、赤白い風車たち
みなは、ここにいる

真白い風車

真白の紙で作られた、小さな風車
風に攫われたのか
金剛山の崖下にあった

たった一輪、真白い風車
この子だけ、ここにいる

九郎へのお米

変若の御子の手のひらより、零れ落ちたお米
それを九郎のためにと、包んでくれたもの

お米は大事
竜胤の御子にも、ぜひ元気になって欲しい

九郎に届ければ、喜ぶだろう

穴山の手形

葦名の国の商い手形
穴山又兵衛、店じまいの一品である

商い人からアイテムを購入するとき、
代金が割引される

一銭とて、銭はいただく
最期まで、どうにも商いは止められぬ

竜の割符

一塊の大きな翡翠から彫られた竜の割符

これを持っていると
商い人から買うことのできる品目が増える

商い人にも格がある
古いしきたりでは、竜の格の者は
宮に認められた至上の商い人とされる
ゆえに商いにおいて、至上の計らいを受ける

鯉の赤目玉

水生村の池の底に棲む鯉
その赤い目玉二つ

目だけ赤い鯉は、「ぬし」の成りそこないだ

鱗が足りぬ半端者。その身は錦に染まらぬが
目玉は赤く、常しえに朽ちぬ

これは捨て牢にいる施術師・道順が、
変若水の施術のため求めているものだ

京の水

杯に注がれた、宮の貴族が嗜む御神水
源の宮に輿入れした者は、
まずはこれを頂戴する

宮の貴族の嗜みぞ
さあさ、ぐぐいと召し上がるが良い

貴い餌

これは、貴き餌なり

こういった、ぬめりがあり
角が生えたるものを、ぬしは好んで食す

鐘鳴らし、餌あげたもれ

まこと貴い餌

これは、まこと貴き餌なり
毛など生えていれば、なおさら貴い
生きた心地もせぬほどに

平田屋敷の壺の貴人は、ぬしになりたい

仙郷の、ぬしの鯉に与えてたもれ
さすれが、我は鯉となり…
お主に、秘なる宝を授けようぞ…

まこと貴い餌

これは、まこと貴き餌なり
毛など生えていれば、なおさら貴い
生きた心地もせぬほどに

源の宮の壺の貴人は、実にぬし思いである

この餌を、ぬしの鯉様に献上しておくれ
くれぐれも…
誰にも知られず、ひそひそとな…

ぬしの白髭

ぬしの色鯉の貴く白い髭

ぬしは常しえなれど、死ねば髭が抜ける
その髭が抜ける音を、
心待ちにする者もいるだろう

ある者には、役目の成就の安堵であり、
ある者には、大願の成就の歓喜なのだ

宝鯉の鱗

きらきら光る、宝鯉の鱗

普通の人にとっては、ただの美しい鱗

だが、これを欲しがる者もいるだろう
「ぬし」を貴ぶ者にとり、何しろ鱗は貴いのだ

褒美を求めるなら、集めてみると良い

鐘鬼

仙峯寺の鐘に封された、鬼霊の類
鐘を鳴らした者に憑りつき、
そうすると、周囲の敵が強化される

鐘鬼は憑いたものには受難を与えるが、
敵を倒したとき、その遺物に
わずかにではあるが恵みもあるとか

使用しても何の効果もないが、
鐘鬼は去っていく

磬し水蓮

落ち谷の奥に咲いていた、青白い蓮の花
源の水が濃く溜まる場に咲くもの

雌の猿は、この花の香りを好む
ゆえに獅子猿は、大切に育てていた
己のつがいに供えるために

この花は源の香気を生む、香の材料の一つ
不死断ちのために、御子が求めるものだ

お宿り石

水生村の奥の祭壇に祀られていた石
源の水を長く飲んでいた者は、
体の内に石が宿ることがある

お宿りは吉兆ぞ
かぐわしく、輿入れ奉ろう

この石は源の香気を生む、香の材料の一つ
不死断ちのために、御子が求めるものだ

常桜の香木

常桜の乾いた香木
義父が手折り、持っていたもの

常桜は、望郷の桜
この枝に、かつて咲いていた花を眺め、
丈は仙郷に想いをはせたのだろう

この香木は源の香気を生む、香の材料の一つ
不死断ちのために、御子が求めるものだ

常桜の花

古い記憶の中で咲いていた、常桜の花
丈が仙郷の名残として持ち帰り、
接いで咲かせた花である

人返りを望むならば、竜の涙と常桜の花を
竜胤の御子に飲ませれば良い

そして、もう一つ
「竜胤の血を受けた不死は、その主を縛る」
ゆえにそれを断つことだ

生の蛇柿

柿の様に赤く染まった、ぬしの白蛇の心包

ぬしとは、土地神
心包とは、神たる御魂を宿す臓である

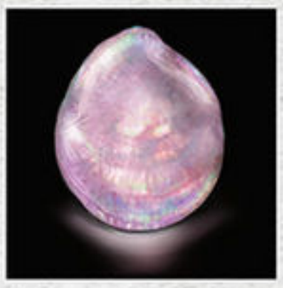
姿かたちこそ柿によく似るが、
蛇柿は、赤く実った神の臓だ
神を食らうなど、
人の身にとっては毒となろう

乾き蛇柿

柿の様に赤く染まった、ぬしの白蛇の心包
その乾いたもの

ぬしとは、土地神
心包とは、神たる御魂を宿す臓である

姿かたちこそ柿によく似るが、
蛇柿は、赤く実った神の臓だ
落ち谷の衆は、ぬしの白蛇を祟め、
乾いた蛇柿を御神体として祀ったという



桜竜の涙

桜竜から頂戴した涙
拝涙は、不死斬りでのみ叶う

桜竜のその身は常しえ
一度流れた涙もまた、形を保ち
常しえに乾くことはない

この竜の涙を、竜胤の御子に飲ませれば、
不死断ちは叶うであろう

氷涙

揺り籠となった変若の御子が零した涙
それが、凍てついたもの

竜の涙と、この氷涙を
ともに九郎に飲ませることで、
揺籃の儀を成すことができる

つめたい竜の涙とは、そのことだ

咳の音

どこかで、苦しげな咳が聞こえる
所持している分だけ、冥助確率が下がる

仏彫る者

咳をしているのは、
降り積もる炎に焼かれぬため
仏を一心不乱に彫り続ける
一人の男のようだ

商いの昇り人

咳をしているのは、
商いにて昇りつめようとする
一人の男のようだ

黒笠かぶり

咳をしているのは、
捨てた所に戻ろうとする
一人の男のようだ

大きな迷い子

咳をしているのは、
大きな体だが、まるで迷い子のようだ

魅了された者

咳をしているのは、
美しき調べに魅了された
一人の男のようだ

探究する者たち

咳をしているのは、
その心、惑いながらも
あくなき探究を重ねる者たちだ
咳は重なって聞こえる

孝行息子

咳をしているのは、
年老いた母を想う
一人の男のようだ

怯え、渇く者

咳をしているのは、
怯えているが、渇いてもいる
一人の男のようだ

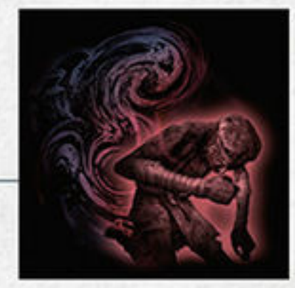
案じる老婆

咳をしているのは、
自らが仕え、慈しんだ主を案じている
一人の老婆のようだ

信心深き者

咳をしているのは、
信心が深い老婆のようだ

狂えども、信じ続ければ、見えるものもある
まこと、ありがたいことである



烏の友たる供養者

咳をしているのは、
死に集る鳥と共に
眼下を見渡し供養し続ける
一人の男のようだ

戦場の供養者

咳をしているのは、
戦で果てた者たちを供養し続ける
一人の男のようだ

捨てられの供養者

咳をしているのは、
惨たらしく捨てられる者たちを、
だが見続け、供養し続ける
一人の男のようだ

毒溜まりの供養者

咳をしているのは、
毒の溜まりに流れ着く
無縁の者たちを供養し続ける
一人の男のようだ

仏代わりの供養者

咳をしているのは、
忘れられた仏に代わり
せめてもの供養を続ける
一人の男のようだ

酒びたりの供養者

咳をしているのは、
酒びたり、供養のまことを忘れた
一人の男のようだ

事情通

咳をしているのは、
人の事情は売りさばくが、
人の情は捨てきれぬ
一人の男のようだ

流派技

通常の刀攻撃とは異なる
特殊な攻撃のことを「流派技」と呼ぶ

流派に応じて技は多様である
忍びの技か、剣の道か、あるいは功徳の拳か…

「まあ、どうするかは、お前さんしだいよ
戦う術など、忍びだけでもあるまいて…」

仏師の言葉が示す通り、何を極めるかは己しだいだ
極めてゆけば、やがて奥義に至るだろう

【忍び技】

旋風斬り

回転しながら周囲を斬りつける流派技

回転の勢いをつけた鋭い斬撃は、
複数の敵を巻き込みやすく、
敵のガードの上からでもダメージを与える

多勢に囲まれたとて、
この忍び技があれば切り抜けられよう

奥義・大忍び刺し

大忍びが編み出した流派技
これは、忍び技の奥義である

遠距離から届く鋭い突きを繰り出し、
刺さった敵を踏み台にして高く飛びあがる

敵を穿ち、舞い上がる様は、
梟の狩りの如し

飛びあがるときに、形代を消費する

【忍び義手技】

寄鷹斬り

回転して飛び込みつつ、斬りつける流派技
遠距離から瞬時に間合いを詰めることができる
これは、葦名に仕える忍び
寄鷹衆の技である

寄鷹衆は、得物である大手裏剣の重みで
回転の勢いを生み、寄鷹斬りをなす
鋼でできた忍義手も、また重い
これを回転の軸とすれば、同じことができる

寄鷹斬り・逆さ回し

回転して飛び込みつつ、斬りつける流派技
遠距離から瞬時に間合いを詰めたり、
距離を取ることができる

寄鷹斬りは順回りで飛びこむが、逆さにも回る
順回りと逆さ回りで、攻防一体の技となる

迫り、襲い、飛び去る
寄鷹の名を冠する戦いとは、そうしたものだ

【葦名流】

一文字

上段から重い一撃で叩き斬る流派技
体幹へのダメージに優れる
また、その強い踏み込みで己の体幹を回復する

無骨に、正面から叩き斬る
ただ、それだけを一意に専心した技
その専心ゆえに、葦名流は強い

この一文字、極めればさらに先があろう

一文字・二連

一文字に加えて、追い面を放つ流派技
体幹へのダメージに優れる
また、その強い踏み込みで己の体幹を回復する

無骨に、正面から叩き斬る
反撃が来るならば、もう一度叩き斬る

葦名の一文字は、二連で完全となる

奥義・葦名十文字

納刀の構えから
高速の居合いを繰り出す流派技
構えを維持すれば、機を伺って迎撃できる
形代を消費して、使用する

疾く斬ることを一意に極めた
葦名流の奥義である

僧の十文字は、修羅の腕をも斬り落とす
剣聖・葦名一心は、そう嘯いた

【秘伝・葦名無心流】

秘伝・大忍び落とし

大忍び刺しを進化させた流派技
これは、葦名無心流の秘伝である

大忍び刺しで高く飛びあがったのち、
さらに降下回転斬りにつなげることができる

穿ち、舞い上がり、また飛びかかる
中空を自在に舞ってこそ、梟なり

飛びあがるときに、形代を消費する

秘伝・渦雲渡り

浮き舟渡りが、
真空波を巻き起こすようになった流派技

形代を消費して、使用する

遥か遠く、源の水の流れ出ずる方角
大きな渦雲が見える
それは源の渦。この技の名の由縁でもある

源の渦を望む、己が主
その小さな背中が、巴にとっては全てだった

秘伝・不死斬り

不死斬りを用いた秘伝の流派技

形代を消費して、使用する

念を込め、不死斬りの力を引き出すことで
さらに威力が高く、射程の長い斬撃を繰り出す

抜けぬ刀を、抜いて斬る
竜胤の御子の従者でなくば、極められぬ技

【仙峯寺拳法】

拝み連拳

肘打ちと掌底による体術の流派技
出の速い連撃により、
敵の攻撃の出鼻をくじき、畳み掛ける
連拳は戦う術であり、拝むことでもある
仏敵を打ち倒すため、強くあらんことを…
かつて仙峯寺の者は、その口を硬く結び
拝み打って功徳を積んでいた

仙峯脚

飛び込み蹴りを起点とした連撃の流派技
対空迎撃と下段攻撃への回避を兼ねた初段から
連続で蹴りを叩き込む
この蹴りは、仙峯寺の名を冠する
仙とは悟りである
悟りの峯に、登らんとする者よ
まずは蹴るが良い。修行はそこから始まる

拝み連拳・破魔の型

拝み連拳に、背撃をさらに加えた流派技
出の速い連撃により、
敵の攻撃の出鼻をくじき、畳み掛ける
その後、さらに重い背撃で敵を追撃する
かつて仙峯寺の者は、この背撃を打ち、
併せて煩悩を払ったものだが…

奥義・仙峯寺菩薩脚

仙峯脚に、さらに斬撃と蹴りを加えた流派技
仙峯寺拳法の奥義である
悟りの峯に登りきった者は、菩薩の貌となる
そうすれば心囚われず、
流れるような連撃が、自ずと繰り出される
無形の技であり、連撃の形は人により異なる
心の在りよう、拠り所とするものが現れる
狼ならば、樫丸を用いるのも自然なことだ

【忍殺忍術】

血煙の術

周囲に血の煙幕を生み出す忍殺忍術
形代を消費して、使用する
これは死をもって成す、忍びの秘術である
忍殺した者の血しぶきを血煙に変え、
辺りの敵の目から逃れることができる
その後、さらに殺すかは自在である
稀な死闘は、忍びを忍びたらしめる
ただ殺すのではなく、纏とせよ

傀儡の術

忍殺した者を傀儡として操る忍殺忍術
形代を消費して、使用する
この秘術は、本来散るべき命を、
一時、この世に押し留める
そうして傀儡とされた者は、
しばしの間、術者のために動こうとする
だが、やがて散る定めである

血刀の術

血を刀に纏わせる忍殺忍術
形代を消費して、使用する
纏った血の剣閃で、刀攻撃の射程が伸びる
殺した者の血を、呪いの刃とする秘術
不死斬りの介錯を通し、狼はこれを見出した
ゆえにこの技は、不死斬りに似ている
だが、死なずを殺す力までは無い

【その他】

奥義・浮き舟渡り

舞うように連撃を繰り出す流派技
流れるような動きと手数により敵を圧倒する
葦名流の剣技ではあるが、異端にあたる
外から来た者が、伝えた技ゆえに
その遣い手は、
浮き舟を渡り、葦名に舞い降りた
名を、巴と言う

奥義・不死斬り

不死斬りを用いた流派技
形代を消費して、使用する
不死斬りから赤黒き瘴気が染み出し、
長射程の刃で敵をなぎ払う
抜けぬ刀を、抜いて斬る
竜胤の御子の従者でなくば、扱えぬ技

秘伝・一心

納刀の構えから
見えぬほどの速さの連撃を繰り出す流派技
形代を消費して、使用する
ただ斬ること
その一事に、心を置く
そうして放たれる連撃は、神速である
研ぎ澄まされた
老境の剣聖一心だからこそ、為せる技だ

秘伝・竜閃

納刀の構えから、高速の斬り下ろしと共に
真空波を繰り出す流派技
形代を消費して、使用する
力を溜めると、斬り下ろした後、衝撃波が飛ぶ
若き剣鬼一心は、死闘の日々を重ね
ただ、ひたすらに斬った
如何に斬ろうか、如何に斬るべきか…
そう突き詰めるうち、気づけば刃は飛んでいた

忍びの体術

見切り

敵の突き攻撃を見切り、
体幹に大きなダメージを与える忍びの体術

忍びの目ならば、突きの動きを捉え
刃を踏みつけ、そこから反撃に転じられる

誤れば死地に至るだろう
だが、見切ればすぐにも殺せるではないか
忍びは、そう考える

空中弾き

空中で敵の攻撃へのガードと弾きを行う忍びの体術

鉄砲などの飛び道具は、
空中で攻撃を受けるとダメージが増加する

だが、この体術があれば、
空中で攻撃を防ぐことができる
忍びならば、たやすく撃ち落とされぬ

駆け伏せ

ダッシュ中に、スライディングでしゃがみ込む
隠密のための忍びの体術

駆け抜け、その勢いで茂みや物陰に入り込む
敵の目を欺くための体術だ

空中流派技

空中で流派技を使う、忍びの体術

ジャンプで距離をつめながら、
あるいは下段攻撃を回避してから、
流派技を繰り出せる

地に足つけぬ忍びの戦い
そのための体術だ

崩し裏回り

体勢を崩した敵の後ろに回り込む
忍びの体術

この体術があれば、隠密ではなく
戦闘の流れの中からでも、
背後忍殺を行うことができる

そこから狙える、忍びの術もあるだろう

鉤縄攻撃

鉤縄で飛び、
その勢いで斬りつける、忍びの体術

移動と攻撃を兼ねた
無駄を削ぎ落とした動きには、
忍義手の粋がある

対空忍殺

高く跳び上がった敵を仕留める、忍びの体術

中空にて隙をさらす者に飛びかかり、
忍殺することができる

これは、地に足つけぬ、忍びの戦う術の一つ

■対象義手忍具　仕込み斧、仕込み槍、霧がらす

派生攻撃・追い斬り

一部の義手忍具使用後に、
前方に大きく踏み込む斬撃を放つ忍びの体術

遠間の敵に、射程の長い義手忍具を放ち、
追い斬りを重ねれば、
瞬きする間に距離を詰められる

■対象義手忍具　手裏剣、爆竹、仕込み槍

派生攻撃・連ね斬り

一部の義手忍具使用後、
義手忍具と刀を同時か
あるいは連続で繰り出す忍びの体術

牙と刃を連ね、斬る
これはそうした技だ

■対象義手忍具　仕込み斧、仕込み槍、霧がらす

空中義手忍具

空中で義手忍具を使う、忍びの体術

忍義手は、鉄と絡繰りの塊ゆえに重い
だが遣い手の修練と、
作り手たる道玄の技巧が
空中で扱うことを可能にした

やはり地に足つかずに使ってこそ、忍具である

派生攻撃・放ち斬り

一部の義手忍具使用後、
その義手忍具の力を刀に乗せて、
前方に放つ忍びの体術

放たれる攻撃は、使う義手忍具しだいで変わる
刃に乗せた牙の色で、敵の穿ち方も変わる

■対象義手忍具　仕込み傘、指笛

派生攻撃・奥義・纏い斬り

一部の義手忍具使用後、
刀に義手忍具の効果を、纏わせる派生攻撃

牙と刃が一体となる、忍義手技の奥義である

この奥義を最後に、仏師は忍義手を捨てた
極め、殺しすぎた。怨嗟の炎が漏れ出すほどに

■対象義手忍具　火吹き筒、神隠し

常在効果

気配殺し
隠密中の気配を抑え、
敵から視認されにくくなる常在効果
気配も殺してこそ、忍びなり

音殺し
行動に伴う音を抑え、
敵に気付かれにくくなる常在効果
音も殺してこそ、忍びなり

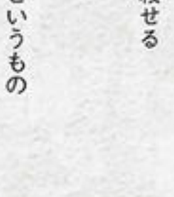
忍びの目
見切りを成功させたときの、
体幹ダメージが上昇する常在効果
実際のところ、忍びの目は、
刃のみを追っているわけではない
鋭い切っ先は恐ろしい
だが、それに心を囚われず
見るとは無しに、
全てを見るのだ

登り鯉
弾きを成功させたときの
体幹ダメージが上昇する常在効果
葦名流は、源の水の流れと縁深い
襲い来る刃を、見事に弾き返す様
それを滝を登る鯉に例えた

下り鯉
弾きを成功させた後、数秒間
攻撃による体幹ダメージが上昇する常在効果
葦名流は、源の水の流れと縁深い
刃を弾き返し、そこに苛烈に畳み掛ける様
それを滝を下る鯉に例えた

流水
敵の攻撃を刀で受けたときの、
体幹ダメージを軽減する常在効果
葦名の衆は知っている
流れる水こそ、強いということを
硬く受け止めるのではなく、
流れるように受け流すべきなのだ

命の呼吸
忍殺に成功したとき
HPが回復する常在効果
忍殺は、忍びにとっての息継ぎである



命の呼吸・陽
殺すとともに、忍びの呼吸で体と心を整える
そうすれば、まだまだ殺せる

命の呼吸・陰
強者との戦いを経れば、
その息継ぎも深くなるというもの

幹の息吹
忍殺に成功したとき
体幹が回復する常在効果

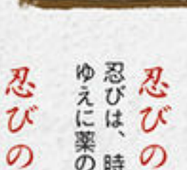
幹の息吹・陽
葦名流には、多勢との戦いにも備えがある
敵を殺した後、残心と共に幹の息吹を吐き、
体勢を整えるのだ

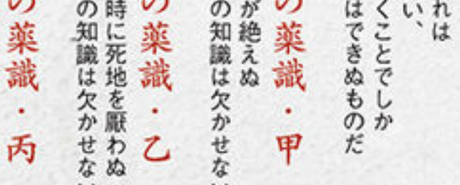
幹の息吹・陰
忍びは、多勢との戦いも覚悟せねばならぬ
敵を殺した後、残心と共に幹の息吹を吐き、
体勢を整えるのだ
強者との戦いを経れば、
その息吹も強くなるというもの

エマの薬識
回復アイテムを使用したときの
効果が上昇する常在効果
昔、エマが仏師に教えた薬の知識

エマの薬識・利き薬
良く味わい、薬の味を知りましょう
体に覚え込ませることで、薬効が増します
だが得てして、薬と言うものはひどく不味い

エマの薬識・嗅ぎ薬
良く匂い、薬の香りを知りましょう
体に覚え込ませることで、薬効が増します
だが得てして、薬と言うものはひどく臭い



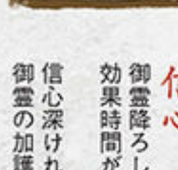


忍びの薬識
回復アイテムを使用したときの
効果が上昇する常在効果
そしてそれは
強者と戦い、
重く傷つくことでしか
学ぶことはできぬものだ

忍びの薬識・甲
忍びは傷が絶えぬ
ゆえに薬の知識は欠かせない

忍びの薬識・乙
忍びは、時に死地を厭わぬ
ゆえに薬の知識は欠かせない

忍びの薬識・丙
忍びは、他を頼みとせず独り戦う
ゆえに薬の知識は欠かせない



功徳
敵を倒したときの、
お金の入手量とアイテムドロップ率が
上昇する常在効果
仙峯上人、曰く
功徳を積むことだ
儲けようなどと考えてはならぬ

さらなる功徳
敵を倒したときの、
お金の入手量とアイテムドロップ率が
さらに上昇する常在効果
仙峯上人、曰く
さらなる功徳を積むことだ
くれぐれも、儲けようなどと
考えてはならぬ

信心
御霊降ろしを使用した時の
効果時間が長くなる常在効果
信心深ければ、
御霊の加護はその身に長く宿る

水生の呼吸術
「水生の息」と呼ばれる、水中で呼吸する秘術
水中に潜ることができるようになる常在効果
水生の御初代は、
輿入れが決まった者にのみ、
密かにこの秘術を授けた
輿入れ望まば、水生の息
これ無くば、神なる竜とは見えられぬ

業
形代の所持上限が増加する常在効果
形代は心残りの幻である
ゆえに業深いものには、形代が多く憑く

忍びの業・身業
多く殺した忍びは、
その身に業を背負い、生きることになる

忍びの業・心業
多く殺した忍びは、
その心に業を抱え、生きることになる

仏師の業・血錆び
忍義手には、業がこもっている
浴びた血は、今は錆びとなり決して消えぬ
使いこなすほどに、
その業を背負うことになる

仏師の業・刻み傷
忍義手には、業がこもっている
刻み込まれた大小の傷は、
重ねた死闘の証だろう
使いこなすほどに、
その業を背負うことになる

獣の業
罪のない獣に、
人の業を背負わせていたのだろう
殺めたものの業を引き受ける
それもまた、忍びである

戦いの記憶

心中に息づく、類稀な強者との戦いの記憶
鬼仏に対座し、戦いの記憶と向き合うことで、攻め力を成長できる
今はその残滓のみが残り、記憶は確かに狼の糧となった

鬼形部

鬼庭形部雅孝、大手門の番人であった
鬼形部は、葦名に名を轟かす賊の頭目であった
だが一心に敗れ、その強さに惚れ込み、
賊党ごと召抱えられた
その後、葦名弦一郎の傅役まで務めた

まぼろしお蝶

まぼろしお蝶、歴戦の幻術使いであった
まぼろしお蝶は、義父が狼にあてがった
忍び技の師の一人である
師と言うが、手取り教えるわけも無し
忍びの技は、戦いの中でのみ育まれる

葦名弦一郎

葦名弦一郎、掟で定めた復讐の相手であった
葦名弦一郎は、市井の生まれである
母が死んだのち、葦名に引き取られた
巴の雷と呼ぶ、異端の技の遣い手である
葦名存亡の鍔際。異端こそ、この国を護る

屏風の猿たち

見る猿、聞く猿、言う猿、見え猿
幻廊を守る、変若の御子の友たちであった
幻廊は、生死の狭間にある
変若の御子たちの亡魂も、たゆたっており
屏風の猿たちに宿り、動かした
変若の御子が、友と呼ぶのもそれ故だ

獅子猿

止めをさされた獅子猿は、だが咆哮を残した
身中蠱の宿るは、だが咆哮を残した
身中蠱の宿るは、死なずの印といわれるが…
永く死なぬは、猿死なずの印といわれる…
獅子猿の残した咆哮は、とて寂しかろう
あるいは、何かを乞うものだったか…

首無し獅子猿

首無し獅子猿、蠱憑きの大猿であった
かつて獅子猿は、蠱憑き、片割れは先に死んだ
つがいで古ねぐらに暮らしていた
だが己のみに蠱が朽ちてもう無い
いまは、手向けの花も

破戒僧

破戒僧、水生村の岩戸の番人であった
夜叉面の破戒僧は、蠱憑き姿をしていた
朧なまぼろしの如き、
水生村の岩戸を守っていたのは、
何の故あってのことか…

宮の破戒僧

破戒僧、源の宮に至る、橋上の番人であった
破戒僧は、蠱憑きであり、
また源の宮の門守である
宮を永く守るには、死なずが都合良いだろう
真の名を、八百比丘尼という

大忍び　梟

大忍びの梟、狼の義父であった
狼の義父であった大忍びの梟は、
身に余る野心を抱き、竜嵐の力を欲した
さあ、己の真の名を、日の本に轟かせるのだ
全てはそのための謀であった

義父

古い記憶で相対したのは、全盛の義父であった
戯れに拾った飢えた狼
これを忍びとして育て、己が技の粋を
叩き込んでゆくのは、存外に面白いものだった
いずれ命を賭した真の戦いを、願うほどに…
古い記憶の中なれど、その梟の願いは叶った

桜竜

桜竜、神なる竜であった
桜竜は、神なる竜
古く西から流れ着き、この地に至った
この葦名には、ひと際古い土地がある
古い土や岩が、そこに染み渡った水が、
神なる竜を根付かせたのだ

葦名一心

老境の葦名一心、まさしく剣聖であった
老境の一心は、研ぎ澄まされた刃である
技を研ぎ澄まし、束ね、
葦名流をなすうち、無駄は見事に削ぎ落とさた
剣の心技を極めた者。まさしく剣聖であった

剣聖葦名一心

全盛の葦名一心、
死闘の日々を重ね、強きを追い求め、
ただひたすらに斬った男
黄泉帰りは、その者の全盛の形を取る
即ち、死闘を重ね、貪欲に強さを求め、
あらゆる技を飲みこもうとした一心だ
一心は最期まで死闘を求め、それは叶った

怨嗟の鬼

戦場にいたのは、
怨嗟の炎に飲まれた、隻腕の鬼であった
ある男が、修羅になりそこない、
怨嗟の炎の積り先となった
因果ゆえ、なかなかに死にきれぬ
だが、鬼となり、ようやく逝けた

トロフィー・実績

隻狼
全てのトロフィーを取得した

死闘の果て
全てのボスを撃破した

葦名の縦横
全てのマップに到達した

忍義手の極み
全ての義手忍具を限界まで強化した

技の極み
全てのスキルを習得した

義手忍具の全て
全ての義手忍具を取得した

忍殺忍術の全て
全ての忍殺忍術を習得した

身体力の極み
身体力を限界まで強化した

傷薬瓢箪の極み
「傷薬瓢箪」を限界まで強化した

不死断ち
「不死断ち」のエンディングに到達した

人返り
「人返り」のエンディングに到達した

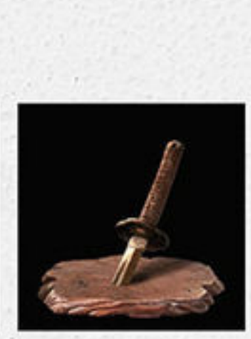
竜の帰郷
「竜の帰郷」のエンディングに到達した

修羅
「修羅」のエンディングに到達した

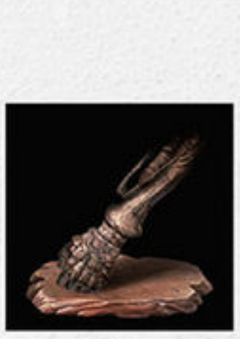
剣聖　葦名一心
「剣聖　葦名一心」を撃破した

免許皆伝
いずれかの流派の奥義を習得した

瑠璃の強化
いずれかの義手忍具を瑠璃を用いて強化した



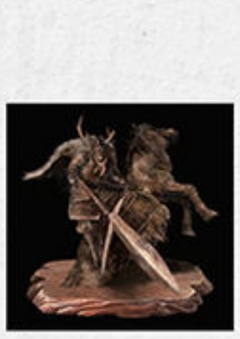
拝刀
九郎より「楔丸」を拝刀した



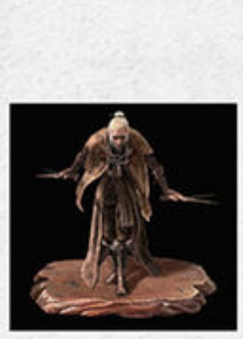
忍義手
忍義手を取得した

供養の衆
供養衆と出会った

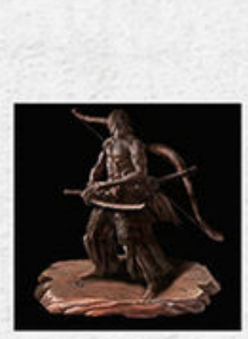
回生
はじめて「回生」で蘇った



鬼庭形部雅孝
「鬼庭形部雅孝」を撃破した

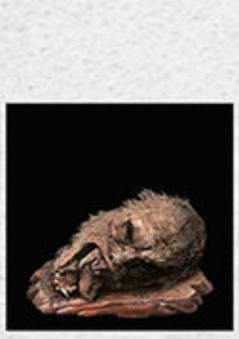


まぼろしお蝶
「まぼろしお蝶」を撃破した



葦名弦一郎
「葦名弦一郎」を撃破した

獅子猿
「獅子猿」を撃破した



獅子猿、死なず断ち
不死斬りで「獅子猿」の死なずを断った

見る猿、聞く猿、言う猿、
「見る猿、聞く猿、言う猿、」を掴まえた

大忍び　梟
「大忍び　梟」を撃破した

父越え
平田屋敷で「大忍び　梟」を撃破した

破戒僧
「破戒僧」を撃破した

拝涙
「桜竜」を撃破し、竜の涙を拝領した

葦名一心
「葦名一心」を撃破した

怨嗟の鬼
「怨嗟の鬼」を撃破した

ぬしの白蛇
「ぬしの白蛇」を忍殺した

ぬしの色鯉
「ぬしの色鯉」を忍殺した

紋

平田家 家紋

仙峯寺 寺紋

楔丸紋

源の宮 神紋

御子の胴服の紋

内府方 家紋

葦名家 家紋

SEKIRO: SHADOWS DIE TWICE
Official Artworks

2019年8月2日　初版発行

編集　電撃ゲーム書籍編集部

STAFF

Director & Editor
電撃ゲーム書籍編集部（木原大輔）

Editor
坂部ひとみ

Assistant
髙嶋 芽生美／伊藤 司／重田真彦

Designer
有限会社東京テキスト

Cover Designer
有限会社東京テキスト

Producer
電撃ゲーム書籍編集部（松本 剛）

Coordinator
電撃PlayStation編集部（千木良 章）

Special Thanks
株式会社フロム・ソフトウェア

発行者
青柳昌行

発　行
株式会社KADOKAWA
〒102－8177　東京都千代田区富士見2－13－3
0570－06－4008（ナビダイヤル）

印刷所
図書印刷株式会社

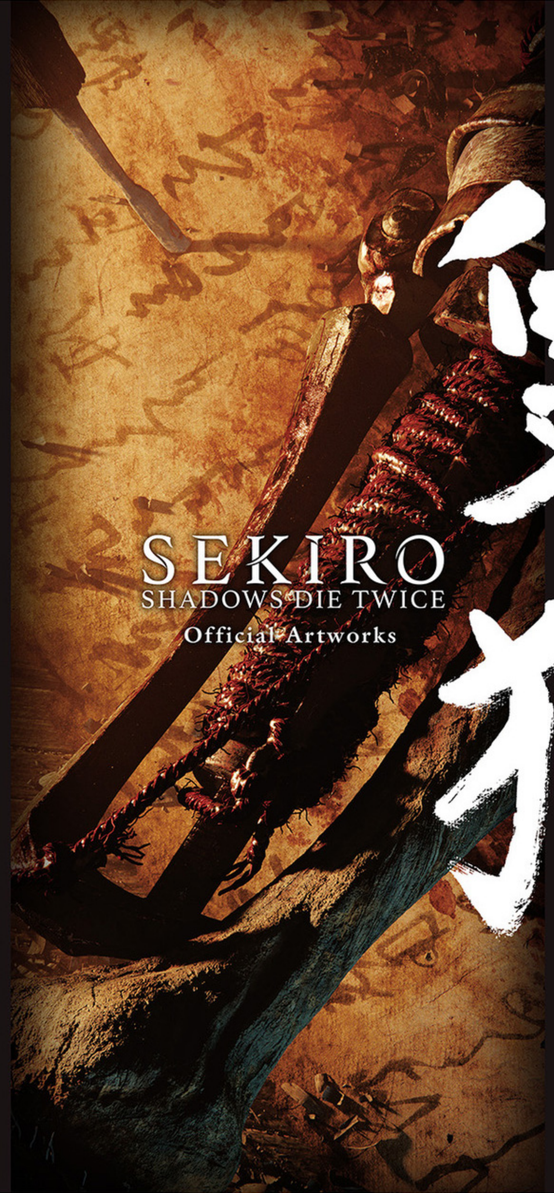
装丁
有限会社東京テキスト

©2019 FromSoftware, Inc. All rights reserved. ACTIVISION is a trademark of Activision Publishing Inc.
All other trademarks and trade names are the properties of their respective owners.

Printed in Japan
ISBN978-4-04-912593-1 C0076

■本書の無断複製（コピー、スキャン、デジタル化等）並びに無断複製物の譲渡および配信は、著作権法上での例外を除き禁じられています。
また、本書を代行業者などの第三者に依頼して複製する行為は、たとえ個人や家庭内での利用であっても一切認められておりません。
●お問い合わせ（アスキー・メディアワークス ブランド）
https://www.kadokawa.co.jp/（「お問い合わせ」へお進みください）
※内容によっては、お答えできない場合があります。
※サポートは日本国内のみとさせていただきます。
※Japanese text only
■定価はカバーに表示してあります。
■本書の内容に関する電話でのお問い合わせは、一切受け付けておりません。また、攻略法などについてはお答えできません。ご了承ください。

朝鮮之國圖



SEKIRO
SHADOWS DIE TWICE
Official Artworks

隻狼

SEKIRO: SHADOWS DIE TWICE Official Artworks

©2019 FromSoftware, Inc. All rights reserved. ACTIVISION is a trademark of Activision Publishing Inc.
All other trademarks and trade names are the properties of their respective owners.

SEKIRO
SHADOWS DIE TWICE

SEKIRO: SHADOWS DIE TWICE Official Artworks

SEKIRO
SHADOWS DIE TWICE
Official Artworks

©2019 FromSoftware, Inc. All rights reserved. ACTIVISION is a trademark of Activision Publishing Inc.
All other trademarks and trade names are the properties of their respective owners.

隻狼

SEKIRO: SHADOWS DIE TWICE
Official Artworks

隻狼

SEKIRO
SHADOWS DIE TWICE
Official Artworks

アンオフィシャルアートワークス

SEKIRO
SHADOWS DIE TWICE

ゲーム攻略本 電撃AMW

SEKIRO: SHADOWS DIE TWICE Official Artworks

編集　電撃ゲーム書籍編集部

2019年8月2日　発行

©2019 FromSoftware, Inc. All rights reserved. ACTIVISION is a trademark of Activision Publishing Inc.
All other trademarks and trade names are the properties of their respective owners.

本電子書籍は下記にもとづいて制作しました
ゲーム攻略本 電撃AMW『SEKIRO: SHADOWS DIE TWICE Official Artworks』
2019年8月2日　初版発行

発行者　青柳 昌行
発行　株式会社ＫＡＤＯＫＡＷＡ
https://www.kadokawa.co.jp/

カスタマーサポート（アスキー・メディアワークス ブランド）
[WEB]https://www.kadokawa.co.jp/　（「お問い合わせ」へお進みください）

本作品の全部または一部を無断で複製、転載、配信、送信すること、
あるいはウェブサイトへの転載等を禁止します。
また、本作品の内容を無断で改変、改ざん等を行うことも禁止します。
本作品購入時にご承諾いただいた規約により、有償・無償にかかわらず
本作品を第三者に譲渡することはできません。
本作品を示すサムネイルなどのイメージ画像は、再ダウンロード時に
予告なく変更される場合があります。
本作品の内容は、底本発行時の取材・執筆内容にもとづきます。
また、ご覧になるリーディングシステムにより、表示の差が認められることがあります。

Director & Editor	電撃ゲーム書籍編集部（木原大輔）
Editor	坂部ひとみ
Assistant	髙嶋 芽生美／伊藤 司／重田真彦
Designer	有限会社東京テキスト
Cover Designer	有限会社東京テキスト
Producer	電撃ゲーム書籍編集部（松本 剛）
Coordinator	電撃PlayStation編集部（千木良 章）
Special Thanks	株式会社フロム・ソフトウェア